

Table with multiple columns and rows, mostly illegible due to high contrast and noise. Some faint characters like '軍' and '生' are visible.

第二表 生徒被服

品目	別	在校中実数				保存期限
		初年	二年	三年	四年	
第一種帽	軍醫學校生徒	-	-	-	-	
第二種帽	中央幼年學校特待生、半特待生、砲兵工科學校候補生徒	-	-	-	-	
	地方幼年學校特待生、半特待生	-	-	-	-	
被服類	中央幼年學校特待生、半特待生、軍醫學校生徒、砲兵工科學校候補生徒	-	-	-	-	
	地方幼年學校特待生、半特待生	-	-	-	-	
口蓋	中央幼年學校特待生、半特待生、地方幼年學校特待生、半特待生	-	-	-	-	
	軍醫學校生徒、砲兵工科學校候補生徒	-	-	-	-	
裏表袴	中央幼年學校特待生、半特待生	-	-	-	-	
	地方幼年學校特待生、半特待生	-	-	-	-	
外袴	軍醫學校生徒、砲兵工科學校候補生徒	-	-	-	-	
	中央幼年學校特待生、半特待生、地方幼年學校特待生、半特待生、軍醫學校生徒、砲兵工科學校候補生徒	-	-	-	-	
時表袴	地方幼年學校特待生	-	-	-	-	

昭和二十六年三月 陸軍省 陸軍省令第二十八號

第四表 下士兵卒被服年額金

種別	兵隊		歩兵		騎兵		山砲兵		重砲兵	
	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下
第一區	3370	3370	3370	3370	3370	3370	3370	3370	3370	3370
第二區	3370	3370	3370	3370	3370	3370	3370	3370	3370	3370
第三區	3370	3370	3370	3370	3370	3370	3370	3370	3370	3370
第四區	3370	3370	3370	3370	3370	3370	3370	3370	3370	3370

考 備	脚	靴	拍	軍	手
一	脚	靴	拍	軍	手
二	脚	靴	拍	軍	手
三	脚	靴	拍	軍	手
四	脚	靴	拍	軍	手
五	脚	靴	拍	軍	手

○海軍省達第十八號

明治三十年達第百一號輸入取出取扱規程中左ノ通改正ス

明治三十六年三月九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第四條第二項ヲ左ノ通改ム

委任仕拂命令官ハ仕拂豫算ノ増額若クハ減額ノ請求ヲ爲サントスルトキハ第三號書式ノ仕拂豫算増減計算書ヲ作リ經理局長ニ送付スヘシ

第五條第一項中「此場合」以下ヲ删除ス

第六條中「此場合」以下ヲ删除ス

第十六條中「七月三十一日」ヲ「六月三十日」ニ改ム

第二十一條中「翌年度五月十五日」ヲ「期日以内」ニ改ム

第二十九條ヲ左ノ通改ム

委任仕拂命令官現金前渡ノ仕拂命令ヲ發行シタルトキハ該命令額ニ對シ第十一號書式ノ明細仕拂書ヲ作リ現金前渡官吏ニ通知スヘシ

第三十八條第一項中「甲」ノ一字及第二項第五項ヲ删除シ第三項中「九月」ヲ「十二月」ニ改ム

第四十一條第二項中「甲」ノ一字ヲ删除シ第二項ヲ左ノ通改ム

委任仕拂命令官前項ノ現計書ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ記帳了了之レヲ經理局長ニ送付スヘシ

第四十五條中第二項第三項ヲ删除ス

第五十五條中「六月二十日」ヲ「五月三十一日」ニ改ム

第五十六條第一項中「七月三十一日」ヲ「六月三十日」ニ「八月三十一日」ヲ「七月三十一日」ニ改ム

第二項ヲ左ノ通改ム

委任仕拂命令官ハ翌年度五月三十一日ニ於テ終リタル前年度ニ屬スル歳出簿ノ結果ニ據リ第二十五號書式ノ經費決算報告書ヲ作リ翌年度七月三十一日マテニ經理局長ニ送付スヘシ

第五十七條ヲ左ノ通改ム

經理局長前條書類ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ明治二十四年號第五七三二號大藏大臣通牒ニ據リ歳入増減計算書及會計規則第五十二條ニ據リ歳出決算報告書ヲ作リ翌年度十一月二十

マテニ大藏大臣ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

(書式中改正加附アリ略ス)

○海軍省達第十九號

鎮守府會計監督規程中左ノ通改ム

明治三十六年三月十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第三條第六號ノ次ニ左ノ第七號ヲ加ヘ第十二條中但以下五十字ヲ削ル

七 海軍兵備品會計規則第四條ノ證明書ヲ作ルコト

○海軍省達第二十號

明治三十六年三月 海軍省第十九號 第二十號

明治三十年邊第百三十六號中第五號ノ次ニ左ノ第六號ヲ加フ

明治三十三年三月十日

海軍大臣 野村 浩平

六 海軍兵備品會計規則第四條ノ證明書ヲ作ルコト

○海軍省邊第二十一號

海軍兵備品會計規程注ノ通定

海軍大臣 野村 浩平

海軍兵備品會計規程

- 第一條 兵備品ノ保管出納ハ本規程ニ依ルヘシ
- 第二條 兵備品ヲ類別シテ消耗品、材料品、食糧品ノ四類トス
消耗品ヲ分チテ二種トシ、日常用雜品共ノ他即時ニ消費スル物品ヲ第一種消耗品トシ、其ノ品目ハ
各兵備品規程ノ定ムル所ニ依ル第一種以外ノ物品ヲ總テ第二種消耗品トス
- 第三條 兵備品ノ保管出納ニ關シ兵備品出納命令官兵備品會計官吏分任兵備品會計官吏及兵備品
取扱主任ヲ置シ、其ノ區分ハ別表ニ依ル
- 第四條 兵備品出納命令官ハ兵備品ニ關スル規程ニ依ルニ非スニテ出納ノ命令ヲ發スルコトヲ得
- 第五條 兵備品會計官吏ハ自己ノ現ニ保管スル兵備品及艦團共ノ他各部ニ供用貸出假出シタル兵
備品ニ對シ總テ保管出納ノ責ニ任スヘシ
- 第六條 分任兵備品會計官吏ハ現ニ保管スル兵備品ニ對シ保管出納ノ責ニ任スヘシ
- 第七條 兵備品取扱主任ハ其ノ取扱ニ係ル兵備品ニ對シ保管受拂ノ責ニ任スヘシ
- 第八條 兵備品取扱主任兵備品使用者ハ預リ者ハ第十八條第十九條第二十六條ノ場合ニ於テ其
ノ取扱費用又ハ預リタル物品ノ損失ニ對シ正當ノ理由ナキモハハ辦償ノ責ニ任スヘシ
- 第九條 艦團共ノ他各部ノ長ハ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ノ兵備品保管出納及受拂
ヲ監督スヘシ

第十條 兵備品會計官吏艦團共ノ他各部ニ第二種消耗品ヲ供給スルトキハ之ヲ分任官渡トシ分任
兵備品會計官吏ニ供給シ第一種消耗品ヲ供給スルトキハ之ヲ消耗拂トシ、兵備品ヲ供給スルトキハ
之ヲ供用トシ、貸與品ヲ供給スルトキハ之ヲ貸出トシ、材料品ヲ交付スルトキハ之ヲ假出トシ、兵備
品取扱主任ニ供給若ハ交付ス

第十一條 兵備品會計官吏ハ出納及受拂ノ證據トナルヘキモノニ兵備品出納命令官ノ認印ヲ受ケ
其ノ命令ト爲スヘシ、但シ兵備品會計官吏兵備品出納命令官ト遠隔ノ地ニアルトキハ豫メ出納ノ
命令ヲ受ケ、現品ノ出納及受拂ヲ了シタル後之ヲ報告スヘシ

第十二條 兵備品會計官吏兵備品ヲ受入ル、トキ購入、生産、寄贈、現材、殘屑物、復生品等ニ在リ
テハ納票ニ依リ、還納、保管、轉換、組替、更替等ニ在リテハ、該票ニ依リ受入ノ證據ト爲スヘシ

第十三條 兵備品會計官吏代價不詳ノ兵備品ヲ受入ル、トキハ出納命令官ノ指揮ヲ受ケ見發代價
ヲ附スヘシ、但シ分任兵備品會計官吏ヨリ還納ニ係ル消耗品ニシテ新品ナルトキハ其ノ際原簿ニ
記載アル平均代價ヲ附スヘシ

兵備品會計官吏還納品、修理改造品、其ノ他ノ古品ニシテ代價更正ノ必要アリト認ムルトキハ兵
備品出納命令官ノ指揮ヲ受ケ相當代價ヲ附スヘシ

第十四條 兵備品會計官吏兵備品ノ保管轉換ヲ受ケタル場合ニ於テ使用ノ目的カ從前ノ名稱、數
量稱呼、代價ヲ變用シ能ハサルモノアルトキハ其ノ際其ノ目的ニ適合スル名稱、數量稱呼、代價
ニ更正スヘシ、同一兵備品中組替ヲ爲ス場合亦之ニ準ス

第十五條 兵備品會計官吏生産ノ爲メ材料品ヲ假出スルトキハ假出票ヲ作り工場主任若ハ製造人
又ハ兵備品取扱主任ノ預リ證ヲ發スヘシ、但シ自己ノ管理スル工場ニ於テ製造スルモノハ預リ證

ヲ徵セサルモ妨ケナシ

第十六條 兵備品會計官吏生産品ヲ受入ルトキハ材料品假出票ヲ決算シ生産拂票ヲ作り拂出ヲ爲シ殘餘アルトキハ戻入票ヲ作り受入ルヘシ

第十七條 兵備品會計官吏生産品ヲ受入ル、トキハ材料品代價ト加工費用トヲ併算シタル金額ヲ以テ其ノ代價ト爲スヘシ但シ加工費用ヲ算出スル能ハサルモノニ在リテハ單ニ材料品代價ノミニ依ルヘシ

第十八條 兵備品會計官吏其ノ保管ニ係ル兵備品ニシテ出納上剩餘ヲ生シタルトキハ納票ヲ作り事由ヲ附シ又出納上若ハ貯藏中減耗ヲ生シタルトキハ缺損票ヲ作り事由ヲ附シ出納命令官ノ指揮ヲ受ケ元受若ハ拂出ヲ爲スヘシ

第十九條 兵備品會計官吏將來使用ノ目的ナキ兵備品ヲ賣却、棄却、燒却若ハ通常物品ニ保管轉換スルトキハ其ノ品名數量事由ヲ記シ棄却燒却ノ場合ニ在リテハ各兵備品規程ニ定ムル所ノ證明書類ヲ添へ出納命令官ノ指揮ヲ受ケヘシ天災其ノ他ノ事故ニ因リ兵備品ノ亡失毀損、腐敗、損廢アリタルトキ亦同シ

第二十條 兵備品會計官吏兵備品ヲ拂出ストキ贈與、賣却拂ニ在リテハ領收證書分任官渡、保管轉換、消耗拂ニ在リテハ領收票、生産、組替、更訂、缺損拂ニ在リテハ該票、亡失、毀損、腐敗、損廢、賣却、燒却拂ニ在リテハ離離票ヲ以テ其ノ證據ト爲スヘシ

第二十一條 兵備品會計官吏分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任兵備品ヲ請求送付、還納領收スルトキハ各共ノ證據ヲ發スヘシ

第二十二條 艦團其ノ他各部ニ於テ兵備品ヲ直接購買シタルトキハ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ハ請求票、領收票若ハ預リ證ヲ作り之ニ賣上人ノ納票ヲ添付シ所屬兵備品會計官吏ニ送付シ受入ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十三條 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任兵備品會計官吏所在地隔絶ノ爲他ノ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ニ兵備品ヲ請求シ共ノ請求ヲ受ケタル分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任之ヲ供給シタルトキハ其ノ請求票、領收票ヲ添付シ所屬兵備品會計官吏ニ送付シ還納ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十四條 兵備品取扱主任材料品ヲ以テ新ニ兵備品ヲ製造シタルトキハ納票、生産拂票、請求票、領收票ヲ作り材料品ノ交付ヲ受ケタル兵備品會計官吏ニ送付シ受入ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十五條 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ハ其ノ保管若ハ取扱ニ係ル兵備品ニシテ第十二條第二十條ニ該當スルモノアルトキハ同條ニ準スヘシ

第二十六條 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任其ノ保管若ハ取扱ニ係ル兵備品ニシテ第十八條第十九條ニ該當スルモノアルトキハ同條ニ準シ之カ處分ヲ爲スヘシ但シ所屬出納命令官ト遠隔ノ地ニ在ルカ又ハ至急處分ヲ要シ共ノ指揮ヲ受クルニ迫ナキトキニ限り所屬長ノ證明ヲ得テ之カ處分ヲ爲シ其ノ品名、數量、事由ヲ所屬兵備品會計官吏ヲ經テ出納命令官ニ報告スヘシ

第二十七條 前條ノ場合ニ於テ兵備品取扱主任ハ其ノ證據書類及關係書類ヲ所屬兵備品會計官吏ニ送付シ分任兵備品會計官吏ハ所屬兵備品會計官吏ヨリ該物品價格ノ通知ヲ受ケ共ノ證據書類ニ記入スヘシ

第二十八條 兵備品會計官吏分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任出納及受拂ノ諸票ヲ作ルトキハ備品、消耗品、貸與品、材料品各別ニ開製スヘシ

第二十九條 兵備品會計官吏他所屬ノ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ニ兵備品ヲ供給シ

第三十條 兵備品會計官吏ニ保管轉換ヲ爲スヘシ但シ第一種消耗品ハ此ノ限リニアラス
ケタルトキハ其ノ還納票ノ紙端ニ請求ノ旨ヲ記シ署名捺印シ所屬兵備品會計官吏ニ送付シ保管
轉換ヲ受クヘシ

兵備品會計官吏第二十三條ニ依リ兵備品ノ還納ヲ受ケタルトキ請求ヲ爲シタル分任兵備品會計
官吏若ハ兵備品取扱主任カ他兵備品會計官吏所屬ナルトキハ前條ニ依リ所屬兵備品會計官吏ニ
保管轉換ヲ爲スヘシ

前條但書ノ規程ハ前二項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第三十一條 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任兵備品ノ拂出ヲ爲シ又ハ各部各人ノ使用ニ
供スルトキハ各兵備品規程ニ於テ定ムル所ノ簿冊ニ受領者ノ印ヲ附シ共ノ證據ト爲スヘシ

第三十二條 兵備品取扱主任食器ノ給與若ハ拂下又ハ定備療用品ノ給與ニ依リ之カ拂出ヲナスト
キハ各人ノ領收證書ヲ附シ所屬兵備品會計官吏ニ送付スヘシ

第三十三條 兵備品出納命令官第十八條第十九條第二十條ニ於テ兵備品會計官吏分任兵
備品會計官吏兵備品取扱主任兵備品使用者若ハ預リ者ニ於テ辨償ノ責アリト認定シタルトキハ
其ノ事由ヲ詳記シ海軍大臣ニ申報スヘシ

第三十四條 兵備品會計官吏ハ原簿ノ内際簿ヲ備ヘ兵備品ノ出納及受拂ヲ登記スヘシ

分任兵備品會計官吏ハ原簿ヲ備ヘ兵備品ノ出納ヲ登記スヘシ

兵備品取扱主任ハ受拂簿ヲ備ヘ兵備品ノ受拂ヲ登記スヘシ

第三十五條 兵備品會計官吏若ハ分任兵備品會計官吏ハ物品會計規則及會計検査院ニ於テ定ムル
所ノ物品出納證明規程ニ依リ兵備品會計官吏ニ在リテハ兵備品出納計算書ヲ編製シ證據書類及
受拂供用(受拂)代價仕譯書ヲ添ヘ年度經過後三箇月以内ニ分任兵備品會計官吏ニ在リテハ兵備
品受拂報告書ヲ編製シ證據書類ヲ添ヘ年度經過後一箇月以内ニ所屬兵備品會計官吏ニ出シ兵備
品會計官吏ハ二箇月以内ニ之ヲ下検査官吏ニ出スヘシ

第三十六條 兵備品會計官吏若ハ分任兵備品會計官吏交替ヲ爲シタルトキ又ハ前任官吏死亡其ノ
他ノ事故ニ由リ自身計算書若ハ報告書ヲ編製スル能ハサル場合ニ於テ他ノ官吏ニ命シ計算書若
ハ報告書ヲ編製セシムルトキハ交替又ハ命ヲ受ケタル日ヨリ兵備品會計官吏ニ在リテハ三箇
月以内ニ分任兵備品會計官吏ニ在リテハ一箇月以内ニ前條ニ準シ計算書若ハ報告書ヲ出スヘ
シ

兵備品會計官吏若ハ分任兵備品會計官吏交替ノトキハ各別ニ計算書若ハ報告書ヲ編製セシ後任
官吏一併ニ計算書若ハ報告書ヲ編製スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ末尾ニ各官吏執行ノ管理期
ヲ記載シ後任官吏署名捺印スヘシ代理官ヲ命セラレタルトキ亦同シ

第三十七條 兵器彈藥水雷及其附屬品又ハ秘密圖書測器海圖ヲ保管スル兵備品會計官吏若ハ分任
兵備品會計官吏ハ海軍兵備品會計規則第四條ニ依リ兵備品會計官吏ニ在リテハ兵備品出納計算
書ヲ編製シ出納命令官ノ認定アル亡失毀損廢取損減減耗棄却燒却事由書及受拂供用(受拂)
代價仕譯書檢閱官ノ證明書ヲ添ヘ分任兵備品會計官吏ニ在リテハ兵備品受拂報告書ヲ編製シ所
轄長ノ認定アル亡失毀損廢取損減減耗棄却燒却事由書ヲ添ヘ第三十五條第三十六條ノ手續
ニ依リ下検査官吏ニ出スヘシ

第三十八條 兵備品證明ニ關シ會計検査院ニ送付スル書類ハ下検査官吏及經理局長ヲ經由スヘシ

第三十九條 本規程中出納受拂帳簿諸證據書式受拂供用(受拂)代價仕譯書及海軍兵備品會計規

則第四條出納計算書本規程第三十五條第三十七條受排報告書、檢閱官ノ證明書、亦由書式ハ別冊ニ依ル

附則

第四十條 本規程ハ明治三十六年四月一日ヨリ施行ス

(別表)

品名	出納命令官		兵備品會計官吏		分任兵備品會計官吏		兵備品取扱主任	
	遊兵廠長	檢査科長	砲銃庫主管	砲術長、水雷長	航海長、機關長	砲術長、水雷長	航海長、機關長	
兵備品及附屬品	遊兵廠長	砲銃庫主管	砲術長、水雷長	航海長、機關長	砲術長、水雷長	航海長、機關長	砲術長、水雷長	
水雷及附屬品	遊兵廠長	砲術長、水雷長	航海長、機關長	砲術長、水雷長	航海長、機關長	砲術長、水雷長	航海長、機關長	
秘密圖書	軍司令部先任副官	海軍文庫主管	砲術長、水雷長	航海長、機關長	砲術長、水雷長	航海長、機關長	砲術長、水雷長	
海軍海圖	軍司令部先任副官	海軍文庫主管	砲術長、水雷長	航海長、機關長	砲術長、水雷長	航海長、機關長	砲術長、水雷長	

備考	艦警需品		需品庫主管		需品庫員(主計官)		需品支庫書記	
	要港部參謀長	要港部主計長	砲術長、水雷長	航海長、機關長	砲術長、水雷長	航海長、機關長	砲術長、水雷長	航海長、機關長
治煉品	衣糧科長	衣糧科員	砲術長、水雷長	航海長、機關長	砲術長、水雷長	航海長、機關長	砲術長、水雷長	
備考	病院長	藥品庫主管	砲術長、水雷長	航海長、機關長	砲術長、水雷長	航海長、機關長	砲術長、水雷長	

本表中ノ分任兵備品會計官吏者ハ兵備品取扱主任ニ相當スル職員ヲ限カサル艦團其ノ他各部ニ在テハ所屬長部下判任官以上ニ之ヲ命シ其ノ官職氏名ヲ所屬兵備品會計官吏ニ報告ス(シ) 本表中印ヲ附シタル會計官吏ニハ辭令併テ附與ス

(別冊略)

○海軍省達第二十二號

海軍艦團隊下士卒教育規則別冊ノ通改

明治三十六年三月十二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

(別冊)

海軍艦團隊下士卒教育規則

總則

第一條 海軍艦團隊下士卒教育ノ實施ハ軍艦、海兵團、驅逐隊、水雷艇隊、水雷敷設隊ヲ以テ共ノ基本トス

第二條 下士卒教育ヲ分テ精神教育、一般操練、部累教育、練習號教育ノ四種トス

第三條 教育基本部ニシテ特ニ下士卒練習ノ任務ニ服スルモノニ在テハ各共ノ規定スル所ニ從テ

教育ヲ施行シテ練習員ニテラサレ下士卒ニ對シテハ其ノ任務ノ遂行ヲ妨ケサル範圍内ニ於テ本則ヲ實施スヘシ但レ精神教育ハ總テ本則ニ據ルモノトス

第四條 基本長ハ毎年四回下士卒ノ教育ヲ査閲シ其ノ進歩ヲ圖ルヘシ但レ一般操練ハ四季演習等ニ際シ特ニ其ノ進歩ヲ檢スヘキモノトス

第五條 基本部外ノ各部ニ屬スル下士卒ノ教育ハ其ノ部ノ部長基本長トナリ適當ト思考スル方法ヲ設ケ時機ノ許ス限リ本則ニ準シテ之ヲ施行スヘシ

第六條 戰時若クハ事變ニ際シテハ必要ニ應ジ教育實施ノ時間及科目ヲ適宜斟酌スルコトヲ得

第七條 所管長官ハ日課及週課ヲ定メ各基本部ヲシテ嚴格ニ教練ヲ實施シ其ノ效果ヲ收メシムルノ責ニ任ス

教育ノ要旨

第八條 下士卒教育ノ目的ハ豫メ戰闘ニ必要ナル性格技術ヲ修得シ以テ其ノ任務ヲ完フセシムルニ在リ故ニ最モ意ヲ精神教育ニ注キ軍人タルノ志操ヲ養成スルト同時ニ之ニ適應セシムル技術ヲ習熟セシメサルヘカラス

第九條 精神教育ハ感化ノ效力最モ大ナルカ故ニ將校及同相當官ニ在テハ躬行實踐以テ細大ノ模範ヲ示シ部下ヲ誘導スルコトニ努メサルヘカラス

第十條 下士卒教育ハ之ヲ全軍ニ普及シ齊一ノ發達ヲ遂ケシムルヲ要ス故ニ該博ニ流レヌ高尙ニ失セス各人ノ階級ニ應ジ其ノ任務ヲ行フニ遺憾ナキヲ以テ程度トスヘシ

第十一條 教育ノ方法ハ簡易明白ニシテ會得シ易キヲ旨トシ勉メテ實地實物ニ就キテ之ヲ施行シ已ヲ得サル場合ノ外ハ他ノ方法ニ依ラサルヲ可トス

第十二條 軍人ハ身體強健ナラサレハ其ノ任務ヲ全フスルコト能ハス故ニ下士卒ノ教育ハ其ノ精神ヲ發揮シ技術ヲ練磨スルト共ニ體育ヲ重シテ耐久不撓ノ身體ヲ養成セサルヘカラス
第十三條 本則ニ規定スル所ノ下士卒教育ハ尙水諸演習ト相俟テ完全ノ發達ヲ期スヘシ畢竟軍事教育ノ目的ハ有形無形ノ戰闘力ヲ最大ニ活動發揮セシメ軍隊唯一ノ目的ヲ達スルニ在ルヲ以テ教育ハ軍隊平素ノ任務中最モ重要ナルモノタルコトヲ知悉セサルヘカラス

精神教育

第十四條 精神教育ハ主トシテ軍紀ニ服從セシメ義勇奉公ノ精神ヲ發揮スルヲ以テ目的ト爲ス

第十五條 精神教育ニ於テ施行スヘキ事項概ネ左ノ如シ
一 勅諭ヲ奉讀行義シ篤ク 聖旨ヲ奉體セシムルコト但シ基本長自ラ之ヲ施行スルヲ例トス

二 帝國ノ國體及之ニ關スル歴史上ノ講話ヲ爲シ忠君愛國ノ精神ヲ發揮セシムルコト
三 軍人ノ國家ニ對シ負フヘキ任務、軍艦旗ノ性質、由來若クハ戰役中共ノ艦ノ奏シタル功績等ヲ講話シ以テ士氣ヲ振起セシムルコト

四 有名ナル海陸戰等ノ事蹟或ハ頌鑑タルヘキ勇將猛卒ノ偉績等ヲ講話シ以テ武勇ノ氣象ヲ振起セシムルコト

五 軍紀、風紀、賞罰等ニ關スル諸法規、内則ノ類ヲ講話シ以テ分限ヲ守リ禮儀ヲ正フシ品行ヲ修メシムルコト

第十六條 精神教育ハ前條ノ方法ニ依ルノ外常ニ兵員ノ動作ヲ監視シ其ノ過失ヲ矯正シ法令ヲ勵行シ下士卒ヲシテ軍紀風紀ニ慣習セシムルヲ要ス

第十七條 基本長ハ部下將校同相當官ヲシテ教育ノ任ニ當ラシムルノ外臨時基本部外ノ高等武官

ヲシテ講話ヲナサシムルコトヲ得

一般操練

第十八條 一般操練ハ各基本部兵員ノ大部ヲ舉ケ固有ノ部署ニ就キ一齊ニ施行スル致練ヲ云フ

第十九條 一般操練ハ各兵員ヲシテ嚴正ナル軍紀及秩序ニ慣熟セシムルト同時ニ其ノ部署ニ於ケル本務ニ熟達セシムルニアリ故ニ確實迅速且靜肅ニ之ヲ遂行スルヲ要ス

第二十條 一般操練ノ終末ニ於テ基本長ハ各部署ノ長ヲシテ其ノ部下兵員ノ行動ニ關シ細カニ誤謬ヲ修正シ且必要ノ事項ヲ注意セシメ終テ基本長自ラ操練ノ成績ヲ講評シ又適當ノ訓誡ヲ爲シ致練ノ效果ヲシテ完全ナラシムルコトニ努ムヘシ

第二十一條 一般操練ニ於テ施行スヘキ項目ハ概ネ左ノ如シ

- 一 臨戰準備
- 二 合戰準備
- 三 觀戰準備
- 四 夜中觀戰操練
- 五 水雷艇防禦操練
- 六 端舟軍裝
- 七 水雷艇軍裝
- 八 反裝水雷艇軍裝
- 九 敵艦捕獲操練
- 十 陸戰隊

- 十一 防火操練
 - 十二 防火隊派遣操練
 - 十三 防水操練
 - 十四 總員乘艇退去操練
 - 十五 溺者救助操練
 - 十六 帆船又ハ圓村(テリック)使用等ヲ含ム操練
 - 十七 水雷防禦網展張
 - 十八 總端舟機漕
 - 十九 總端舟帆走
 - 二十 錨又ハ錨鎖運搬
 - 二十一 探海又ハ掃海操練
 - 二十二 出入港又ハ捨錨出港操練
 - 二十三 曳船曳カレ船操練
 - 二十四 潛水器準備操練
 - 二十五 水雷敷設操練
 - 二十六 驅逐隊又ハ水雷隊諸運動
- 前記ノ項目ハ各基本部ノ情況ニ從ヒ其ノ任務ニ適切ナルモノニ限リ施行スヘキモノトス
- 部署教育
- 第二十二條 部署教育ハ兵員ヲシテ各部署ニ於ケル固有ノ配置ニ就カンメ其ノ部署ニ必要ナル科

單獨ノ行動ヲ爲ス驅逐艦水雷艦ハ各自ニ前項ノ教育ヲ施行スヘシ

第三十三條 基本長ハ第二十五條及第三十一條ニ掲ケル科目ノ外適當ト思考スル方法ニ依リ體操銃術劍術柔道等體育ニ關スル諸技及登艦室內銃射擊等軍人ノ習得スヘキ諸技ヲ練習セシメ自ラ尙武的嗜好心ヲ誘起シ併セテ體育ヲ完成スルコトヲ努メ特ニ水兵部下士卒ニハ適當ノ時機ヲ利用シ東洋ニ在ル諸外國軍艦ノ形狀勢力等ノ大略ニ付教指スルヲ要ス

教育ノ獎勵

第三十四條 基本長ハ艦砲射擊術獎勵ノ爲メ左ノ諸號ニ依リ毎年十二月一日ニ於テ砲射擊規則ニ基キ部下士卒ノ射擊成績ヲ調査シ前年十二月一日以後三回以上ノ艦砲射擊成績ヲ爲シ其點平均七十點以上ヲ得タル者ニ射手履歷(別表第五)ヲ授與シ更ニ選抜ノ上優等射手ヲ命シ優等射手證狀(第一書式)ヲ與フヘシ

- 一 優等射手ハ十二月一日ノ現在ニ於テ前項優等者ニ就キ成績順序ニ從ヒ之ヲ命ス若シ其ノ成績同等ナルトキハ距離目測ノ成績ニ依リ距離目測ノ成績ハ優等測手選抜ノ例ニ依ル
- 二 優等測手ノ數ハ各其ノ基本部ニ屬スル機砲以上ノ砲數ノ五分ノ一ヲ超ニルコトヲ得ス但シ半定員ヲ置キタルトキハ各其ノ砲數ノ十分ノ一トス
- 三 驅逐艦ニ編成サレサル驅逐艦ニ在テハ前項ニ準シ優等測手ヲ命スルコトヲ得
- 四 軍艦驅逐艦水雷艦隊以外ノ各基本部ニ在テハ十二月一日ニ於テ現ニ射手履歷ヲ有スル人員ノ十分ノ二迄優等測手ヲ命スルコトヲ得
- 五 優等測手證狀ノ有効期限ハ翌年十一月三十日マテトス
- 六 射手履歷ハ一回授與シタルトキハ更ニ授與セサルモノトス

第三十五條 基本長ハ距離目測獎勵ノ爲メ左ノ諸號ニ依リ毎年十二月一日ニ於テ部下士卒中前年十二月一日以降三十回以上ノ實習ヲ經平均五點以上ノ成績ヲ得タル者ニ就キ選抜ヲ行ヒ優等測手ヲ命シ優等測手證狀ヲ與フヘシ(第二書式)

- 一 優等測手ハ前項優等者ニ就キ成績順序ニ從ヒ之ヲ命ス若シ其ノ成績同等ナルトキハ艦砲射擊ノ成績ニ依リ艦砲射擊ヲ射撃セサル者ニ在テハ小銃射擊ノ成績ニ依リ又艦砲射擊ヲ爲セル者ト爲サ、ル者ト共ノ成績同等ナルトキハ艦砲射擊ヲ爲セル者ニ命ス
 - 二 優等測手ノ數ハ各基本部ニ屬スル機砲以上ノ砲數ノ五分ノ一ヲ超ニルヲ得ス但シ半定員ヲ置キタルトキハ各其ノ砲數ノ十分ノ一トス
 - 三 軍艦驅逐艦水雷艦隊以外ノ各基本部ニ在テハ其ノ兵曹水兵定員ノ五十分ノ一マテ優等測手ヲ命スルコトヲ得但シ海兵團ニ在テハ其ノ兵曹水兵定員ノ五十分ノ二トス
 - 四 優等測手證狀ノ有効期限ハ翌年十一月三十日マテトス
- 觀測ナキ者 十點
- 距離ノ觀測十分ノ一未滿ノ者 八點以上十點未滿
 - 距離ノ觀測十分ノ二未滿ノ者 四點以上八點未滿
 - 觀測十分ノ二ヲ超ニル者ハ點數ヲ與ヘス
- 五 基本部ハ各下士卒ノ距離目測成績記入表ヲ備ヘ置キテ距離目測ヲ施行スル毎ニ其ノ成績ヲ記入シ下士卒他ノ基本部ニ轉シタルトキハ之ヲ新基本部ニ移スヘシ(別表第六)
- 第三十六條 基本長ハ焚火術獎勵ノ爲メ左ノ諸號ニ依リ定期高速力試驗ノ際良好ナル成績ヲ得タ

ルトヤ各當直ニ在テ伎倆拔群ト認めタル者ヲ選拔シ焚火選手ヲ命シ焚火選手證狀(第三番式)ヲ與フヘシ

一 焚火選手ノ數ハ一千馬力以下ノ艦船ニ在テハ一名一千馬力以上ノ艦船ニテハ毎一千馬力ニ付一名トス

二 焚火選手證狀ノ有效期限ハ六箇月トス

第三十七條 左表ニ掲グル各基本部ニ於テハ左ノ諸號ニ依リ三等以上ノ水兵及機關兵ニシテ實務ニ熟達シ身體強健品行方正(軍功助手ニ在テハ尚ホカ)ニシテ適當ノ技能學力ヲ有スト認め且練習結了後二箇年以上ノ服役期限ヲ有スル者ヲ選拔シ特別練習號ヲ組織シテ教育ヲ行ヒ其ノ試験ニ及第シタル者ニ就キ特科兵助手ヲ命シ特科兵助手證狀(第四番式)ヲ與フヘシ

學功助手ヲ養成スヘキ基本部	水雷助手ヲ養成スヘキ基本部	水雷工助手ヲ養成スヘキ基本部	機關工助手ヲ養成スヘキ基本部
一 砲艦	一 砲艦	一 一等砲艦	一 一等砲艦
二 巡洋艦	二 巡洋艦(水雷隊附屬) (水打セザル) (軍艦ヲ除ク)	二 一等巡洋艦	二 一等巡洋艦
三 水雷敷設隊	三 水雷敷設隊	三 水雷敷設隊	

一 前表ノ各基本部ニ於テ毎年選拔スヘキ特別練習號ノ人員ハ學功助手、學水雷助手ニ在テハ學砲兵、學水雷兵各定員ノ四分の一以內、水雷工助手ニ在テハ水雷工定員ノ半數以內機關工助手ニ在テハ機關工定員ノ三分の一以內トス

二 特別練習號ノ教育ハ毎年十二月ニ開始シ其ノ期限ハ約五箇月トス

三 各特別練習號ノ兵員ニハ其ノ教育期中第二十七條ニ掲グル練習號教育及艦隊内ノ雜業ヲ免除シ其ノ時間ヲ以テ教育時間ニ充ツヘシ

四 各特別練習號ニ於テ教授スヘキ科目ハ別表第四ノ例ニ依ル

五 教育期ノ終リニ於テ試験ヲ行ヒ其ノ全數十分五以上ノ點數ヲ得タル者ヲ以テ及第トス

六 試験ニ及第シタルトキハ其ノ成績ヲ百分比ニテ本人ノ下士卒履歴表ニ記入ス(其スル技能トシテ)

七 各基本長ハ前諸號ノ教育ヲ受ケ試験ニ及第シタル者ニ就キ選拔ヲ行ヒ其ノ特科兵定員ノ半數ニ達スルマテ特科兵助手ヲ命シ特科兵助手證狀ヲ與フルコトヲ得

特科兵助手證狀ヲ有スル者若ハ之ヲ有セザルモ前諸號ノ教育ヲ受ケ試験ニ及第シタル者他ノ基本部ニ移ルトキハ新基本長ハ前項ニ準シ特科兵助手ヲ命シ特科兵助手證狀ヲ與フルコトヲ得

基本部外ノ各部ニ移リタルトキ亦同シ

八 助手證狀ノ有效期限ハ受驗後二箇年トス

第三十八條 各基本部ハ各自若ハ互ニ聯合シ左ノ事項ニ就キ賞ヲ懸ケ技ヲ競ハレムルコトヲ得

一 端舟操漕又ハ帆走 毎年一回

二 内筒砲及小銃發射擊並ニ驅逐隊水雷艦隊ニ於ケル水雷戰爭發射 毎年一回

三 信號 毎年一回

四 焚火 毎年一回

五 潜水進軍術 水泳 銃劍術等ノ諸競技ノ内 毎年一回

報告

第三十九條 基本長ハ毎年五月十五日及十一月十五日マテノ教育ニ關スル報告(別表第七)ヲ六月十五日及十二月十五日マテニ調製シ各一通ツ、海軍大臣及所屬長官ニ進達スヘシ。
海兵團及水雷敷設隊ニ在テハ前項ノ報告ト共ニ教育實施報告(別表第八)ヲ進達スヘシ。

附則

本則ハ明治三十六年四月一日ヨリ實施ス

(別表)

(第一) 部員教育科目表

軍艦

水雷部員	砲員	配艦
<ul style="list-style-type: none"> 一 水雷發射管操練 二 魚形水雷ノ分解、結合、運搬、保存及發射管保存法、方位盤ノ使用法 三 艇用水雷發射管操練及其ノ取付、收納、保存法 四 艇水雷發射管及保存法 五 艇水雷發射管水雷ノ檢査、修繕及發火法 	<ul style="list-style-type: none"> 一 砲臺操練、大砲操練 二 射擊術 三 內筒砲射擊、照準法 四 距離目測(射擊員) 五 彈丸ノ用途、效力、射擊目的ノ選擇 六 砲臺砲架、彈藥、信管、火管ノ取扱法、保存法、砲具ノ分解、結合、附屬具檢査ノ使用法 七 榴彈發射管ノ概略 	<ul style="list-style-type: none"> 一 砲臺操練、大砲操練 二 射擊術 三 內筒砲射擊、照準法 四 距離目測(射擊員) 五 彈丸ノ用途、效力、射擊目的ノ選擇 六 砲臺砲架、彈藥、信管、火管ノ取扱法、保存法、砲具ノ分解、結合、附屬具檢査ノ使用法 七 榴彈發射管ノ概略

陸戰銃隊員	野砲隊員	彈藥庫員	軍醫官補助員	信號隊員	命令員	補給員	防火隊員
<ul style="list-style-type: none"> 一 銃隊操練 二 陸戰ニ關スル業務 三 陸上工作 	<ul style="list-style-type: none"> 一 野砲操練(野砲操練ヲシテ野砲隊員ノ射擊ニ關スル事項ニ限リ、野砲隊員ノ射擊ニ關スル事項ニ限リ、野砲隊員ノ射擊ニ關スル事項ニ限リ、野砲隊員ノ射擊ニ關スル事項ニ限リ) 二 砲臺砲架、彈藥ノ取扱法、保存法、砲具ノ分解、結合、射擊ノ要領、彈丸ノ用途、效力、射擊目的ノ選擇 三 陸戰銃隊員ノ各項 四 榴彈發射管ノ概略 	<ul style="list-style-type: none"> 一 彈藥供給操練 二 彈藥庫ノ構造、大略、通風及浸水防護 三 等砲臺、射口、ターレット、標略、彈藥庫ニ關スル注意 四 彈藥信管、火管ノ取扱法、保存法 	<ul style="list-style-type: none"> 一 傷者救護操練 二 止血法、創傷ノ處置、傷者運搬、人工呼吸法等 	<ul style="list-style-type: none"> 一 信號操練 二 喇叭操習 三 按針 	<ul style="list-style-type: none"> 一 命令傳達法 二 通信器具(無線電信ヲ含ム)取扱法、保存法 	<ul style="list-style-type: none"> 一 補給 二 防水靴取付及取脱等 	<ul style="list-style-type: none"> 一 防火防水法 二 防火防水具使用法、保存法 三 端升機油及帆走

職 員	補 給 員	機 械 員	機 械 員	機 械 員	機 械 員
一 船及船隻運轉法 二 探測及測海法 三 反動水雷格闘及燈火法 四 艦砲操練 五 障礙物破壞法	一 船及船隻ノ取扱ニ關スル事業 二 船體ノ修理及船體各部ノ保存器具ノ整頓等ニ關スル事業 三 船體ノ揚卸法 四 出入港操練 五 「モーターカブ」扱ケル操練 六 右舷項ノ外船具ノ應用及積上ノ事業	一 運轉地備ニ關スル教練 二 配油ノ配水法 三 艦内海水ニ關スル全力噴水教練 四 船體各部交通更ニ關スル教練 五 通信機ノ故障ニ處スル應急措置	一 主機油室空氣管取外シ及準備機換裝ノ作業 二 主機油室取外シ及準備機換裝ノ作業 三 海水器取外シ及準備機換裝ノ作業 四 主機油室取外シ及準備機換裝ノ作業 五 主機油室取外シ及準備機換裝ノ作業 六 補助機油室取外シ及準備機換裝ノ作業	一 汽機準備ニ關スル教練 二 給水機火機取外ニ關スル教練 三 強風通風機取外ニ關スル教練 四 海水ノ漏洩及排水機取外ニ關スル教練	一 艦内ノ浸水ニ處スル全力噴水教練 二 諸管取外ニ關スル教練 三 汽機ノ解體及準備機換裝ノ作業 四 汽機取外シノ作業 五 補助機取外シノ作業 六 補助機取外シノ作業 七 補助機取外シノ作業

職 員	機 械 員	機 械 員	機 械 員	機 械 員	機 械 員
一 雷品ノ保存法 二 防火機取外ニ關スル教練 三 防水機取外ニ關スル教練	一 雷品ノ保存法 二 防火機取外ニ關スル教練 三 防水機取外ニ關スル教練	一 雷品ノ保存法 二 防火機取外ニ關スル教練 三 防水機取外ニ關スル教練	一 雷品ノ保存法 二 防火機取外ニ關スル教練 三 防水機取外ニ關スル教練	一 雷品ノ保存法 二 防火機取外ニ關スル教練 三 防水機取外ニ關スル教練	一 雷品ノ保存法 二 防火機取外ニ關スル教練 三 防水機取外ニ關スル教練

雜科	運用術
一 習得者救急及運搬法 二 潜水術(潜水サレル者ノミ) 三 手旗信号 四 燈塔信号 五 水泳 六 普通學(讀書作文算術體操)	一 二等水兵以下ノ科目 二 按針術(海軍省令第二十二號) 三 鐘及鐘錶ニ關スル事業 四 爪物揚卸法 五 號筒吹力 六 海上衝突豫防法 七 内外國旗章 諸艦船ノ識別

信號部員

雜科	信號部員
一 習得者救急及運搬法 二 潜水術(潜水サレル者ノミ) 三 手旗信号 四 燈塔信号 五 水泳 六 普通學(讀書作文算術體操)	信號部員及信號兵科目 一 海軍用諸信號器具及用法 海上衝突豫防法 信號及國旗章 二 内外國旗章 諸艦船ノ識別 三 艦隊ノ陣形及排列名稱 四 海上衝突豫防法 五 諸國器用法及保存法 信號日誌記法 氣象記號及簡易ナル航海術 六 艦體器具ノ名稱 按針術(海軍省令第二十二號) 鐘及鐘錶 七 電氣學ノ大意 電燈器(モートル) 現字機 電氣通信機ノ構造大意 使用法及保存法

軍樂部員

雜科	武科	音樂	音樂學
一 習得者救急及運搬法 二 普通學(讀書作文算術體操) 簡易ナル英文(數字) 三 傳馬船滑方 四 水泳	八 帆布旗和號(信號兵ノミ) 銃隊指揮(各個教練) 小銃射擊 號筒操要及分解結合 火筒及銃火使用法	二等軍樂生以下ノ科目 各國頌歌 軍樂行進曲 踏踏曲 歌劇樂曲 諸種歌樂曲ノ類 音樂ノ大意 音符 音部配列 音符ノ種類及位置 休止記號 音位變更記號 音ノ調子 拍子 變拍記號 諸記號文字及音符略法 裝飾曲運動ノ速度標 音程 音階	無銃隊操練 一 習得者救急及運搬法 二 簡易ナル獨文數字及音樂上ノ用語讀法 三 端升標滑 四 水泳

船匠部員

船匠部員	一 船匠師ノ分擔ニ關スル物品ノ名稱及用途 二 船匠師ノ分擔ニ關スル物品ノ名稱及用途 三 船匠師ノ分擔ニ關スル物品ノ名稱及用途 四 船匠師ノ分擔ニ關スル物品ノ名稱及用途	一 船匠師ノ分擔ニ關スル物品ノ名稱及用途 二 船匠師ノ分擔ニ關スル物品ノ名稱及用途 三 船匠師ノ分擔ニ關スル物品ノ名稱及用途 四 船匠師ノ分擔ニ關スル物品ノ名稱及用途
機關部員	一 機關ノ各部並ニ其ノ器具ノ名稱及用途 二 機關ノ各部並ニ其ノ器具ノ名稱及用途 三 機關ノ各部並ニ其ノ器具ノ名稱及用途 四 機關ノ各部並ニ其ノ器具ノ名稱及用途 五 機關ノ各部並ニ其ノ器具ノ名稱及用途	一 機關ノ各部並ニ其ノ器具ノ名稱及用途 二 機關ノ各部並ニ其ノ器具ノ名稱及用途 三 機關ノ各部並ニ其ノ器具ノ名稱及用途 四 機關ノ各部並ニ其ノ器具ノ名稱及用途 五 機關ノ各部並ニ其ノ器具ノ名稱及用途

機關部員	一 機關ノ各部並ニ其ノ器具ノ名稱及用途 二 機關ノ各部並ニ其ノ器具ノ名稱及用途 三 機關ノ各部並ニ其ノ器具ノ名稱及用途 四 機關ノ各部並ニ其ノ器具ノ名稱及用途 五 機關ノ各部並ニ其ノ器具ノ名稱及用途 六 機關ノ各部並ニ其ノ器具ノ名稱及用途 七 機關ノ各部並ニ其ノ器具ノ名稱及用途 八 機關ノ各部並ニ其ノ器具ノ名稱及用途	一 機關ノ各部並ニ其ノ器具ノ名稱及用途 二 機關ノ各部並ニ其ノ器具ノ名稱及用途 三 機關ノ各部並ニ其ノ器具ノ名稱及用途 四 機關ノ各部並ニ其ノ器具ノ名稱及用途 五 機關ノ各部並ニ其ノ器具ノ名稱及用途 六 機關ノ各部並ニ其ノ器具ノ名稱及用途 七 機關ノ各部並ニ其ノ器具ノ名稱及用途 八 機關ノ各部並ニ其ノ器具ノ名稱及用途
船匠部員	一 船匠師ノ分擔ニ關スル物品ノ名稱及用途 二 船匠師ノ分擔ニ關スル物品ノ名稱及用途 三 船匠師ノ分擔ニ關スル物品ノ名稱及用途 四 船匠師ノ分擔ニ關スル物品ノ名稱及用途 五 船匠師ノ分擔ニ關スル物品ノ名稱及用途 六 船匠師ノ分擔ニ關スル物品ノ名稱及用途 七 船匠師ノ分擔ニ關スル物品ノ名稱及用途 八 船匠師ノ分擔ニ關スル物品ノ名稱及用途	一 船匠師ノ分擔ニ關スル物品ノ名稱及用途 二 船匠師ノ分擔ニ關スル物品ノ名稱及用途 三 船匠師ノ分擔ニ關スル物品ノ名稱及用途 四 船匠師ノ分擔ニ關スル物品ノ名稱及用途 五 船匠師ノ分擔ニ關スル物品ノ名稱及用途 六 船匠師ノ分擔ニ關スル物品ノ名稱及用途 七 船匠師ノ分擔ニ關スル物品ノ名稱及用途 八 船匠師ノ分擔ニ關スル物品ノ名稱及用途

兵器工術	武科	雜科
一 鐵機、銃機、火機、機等ノ力法 二 鐵機、銃機、火機、機等ノ力法 三 砲機、砲架及砲具ノ分解結合	一 無銃機、小銃使用法、拳銃使用法、小銃等ノ分解結合 二 二等砲台以下ノ科目	一 海軍省政令及選擧法 二 潜水術及潜水事業(但シ教育ヲ兼テタル者ノミ) 三 手旗信號 四 砲舟揚子及砲舟揚子力 五 水泳 六 普通學、算術、作文、算術(續)
一 二等砲台以下ノ科目 二 砲機、砲具ノ小修理	一 二等砲台以下ノ科目 二 普通學(算術、幾何、代數、見取圖)	

看護部員

解剖學	生理學	藥劑學
一 骨、關節及筋ノ概略 二 血行、呼吸器、消化器及泌尿生殖器ノ概略 三 神經系及五官器ノ概略 四 身體外部名稱ノ概略	一 骨及筋ノ作用ノ概略 二 血液、淋巴、循環及呼吸ノ概略 三 消化、泌尿及皮膚作用ノ概略 四 神經及五官ノ概略	一 劑類及毒類 二 藥劑藥品ノ性状、效用、使用法及用量ノ概略 三 調劑法

牙體法	雜科	武科	雜科	職務
一 普通看護法、病室ノ清潔法、換氣法及清潔法、換衣及換席法 二 傳染病預防法、消毒法 三 呼吸、脈搏及體溫検査法、内外傷用法 四 患者飲食物及排泄物ノ注意 五 止血法、創傷ノ處置及防衛的創傷的創製法 六 救急法 七 浴法	一 帶、繃、繃帶及三角繃帶ノ製式及使用法 二 敷、繃、繃帶ノ使用法 三 「ギプス」繃帶ノ貼用法 四 種創膏ノ使用法 五 創木ノ使用法	一 無銃機、小銃使用法及分解結合 二 二等砲台以下ノ科目	一 海軍省政令及選擧法 二 潜水術及潜水事業(但シ教育ヲ兼テタル者ノミ) 三 手旗信號 四 砲舟揚子及砲舟揚子力 五 水泳	一 筆記及一等事務科目 二 海軍省政令ノ組織大要 三 公文書整理ノ大要 四 海軍省規則ノ概略

主計部員

九ノ三

三 海軍省令第二十三號 (別紙第五及第六及第七)

○海軍省令第二十三號
海軍砲隊操式別冊ノ通定

但、別冊ハ艦團部用ノ分ハ艦營部ヨリ供給シ其他ハ之ヲ要スル向ニ海軍教育本部ヨリ配付ス
(別紙時ス)

海軍大臣男爵山本權兵衛

明治三十六年三月十二日

○海軍省令第二十四號

明治三十年遼第十一號海軍操砲程式中野砲操法ノ部ヲ削除ス

海軍大臣男爵山本權兵衛

明治三十六年三月十二日

○海軍省令第二十五號

海軍兵器造修供給規則中左ノ通改正ス

海軍大臣男爵山本權兵衛

明治三十六年三月十二日

第十條第二項中「所轄長ヲ」所管領守府司令長官ニ改ム

第十二條及第十九條ヲ左ノ通改正ス

第十二條 艦船外國航海中若ハ領守府遼隔ノ地ニ在ル艦船部隊ハ消耗兵器ヲ相互補給スルコトヲ得此場合ニ於テハ各其ノ本管領守府ニ報告スヘシ

第十九條 供用中ノ彈藥裝藥並火工品類ハ毎年一回其ノ全數ノ百分ノ一以下(百箇未滿ナルトキハ其ノ内一箇)ノ數ヲ擇出シテ進兵廠若ハ兵器廠ニ試験検査ヲ要求スヘシ但必要ニ依リ其ノ數ヲ増減スルコトヲ得

在廠ノ彈藥裝藥並火工品類ハ前項ニ準スト雖モ試験検査ニ供スヘキ數ヲ半減スルコトヲ得
進兵廠若ハ兵器廠ニ於テ試験検査ヲ施行シタルトキハ別表ヲ依リ其ノ成績ヲ要求元ニ交附スル
ト同時ニ海軍省令第二十三號ニ報告スヘシ
(別紙時ス)

○海軍省令第二十六號

航海日誌摘要報告別紙ノ通改正ス (別紙時ス)

明治三十六年三月十二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省令第二十七號

水雷艇日誌摘要報告第五頁別紙ノ通改正ス

但現在用紙ハ訂正ノ上使用スヘシ (別紙時ス)

明治三十六年三月十二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省令第二十八號

海軍糧食條例第八條ノ食料ハ明治三十六年度間左ノ通定

海軍大臣男爵山本權兵衛

明治三十六年三月十二日

食料	金額	別	金額
内	六	六	六
外	十	二	二
内	一	四	四
外	一	四	四

○海軍省令第三十九號
糧食經理規程第六條ニ依リ適宜ノ糧食ヲ給スル場合ノ最上限量額ハ明治三十六年度間左ノ通定

備考	割増食料	
	外 國	内 國
清國韓國及亞細亞洲露領沿岸ハ内國額ニ依ル	外 國	内 國
	額 十 五 錢	額 八 錢

○海軍省令第三十九號
糧食經理規程第六條ニ依リ適宜ノ糧食ヲ給スル場合ノ最上限量額ハ明治三十六年度間左ノ通定
明治三十六年三月十二日 海軍大臣男爵山本權兵衛

備考	食 費						
	外 國	内 國	外 國	内 國	食 別	一 食	金 額
清國韓國及亞細亞洲露領沿岸ハ内國ノ額ニ依ル	外 國	内 國	外 國	内 國	食 別	一 食	金 額
	額 三 錢	額 二 錢	額 十 三 錢	額 七 錢	額 一 錢	額 五 錢	額 五 錢

○海軍省令第三十號
糧食經理規程第十九條第三項ニ依リ購買スル糧食品代價ハ明治三十六年度間別表ノ通定
明治三十六年三月十二日 海軍大臣男爵山本權兵衛

糧食品代價表

品 目	數量	種 別						
		第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	第七區
麵粉	一貫	1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100
割麥	同	1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100
白米	同	1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100
肉類	同	1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100
魚類	同	1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100
鳥獸	同	1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100
生肉	同	1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100
乾麵包	同	1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100
麵包	同	1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100

○海軍省達第三十七號

軍艦及水雷艦類別等級別表中砲艦二等ノ欄内ニ「字治」ヲ加フ

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第三十八號

軍艦職員勤務令中左ノ通改正ス

海軍大臣男爵山本權兵衛

第一章第九十五條ヲ左ノ如ク改ム

第九十五條 艦長ハ公務又ハ特別ノ場合ノ外乗員ノ半數以上ヲシテ一時ニ艦ヲ離レシムヘカラス但シ之ヲ半數ニ分ツハ各職別ニ從ヒ且成ルヘク各等級ニ依リ艦ノ保安ニ支障無カラシムルコトヲ期スヘシ

第三章第一條第五號中「及製氷機」ヲ「製氷機及蒸氣消毒器」ニ改ム

同章第二十三條ヲ第二十三條ノ一トシ同條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第二十三條ノ二 機關長ハ高速力試驗施行前及其ノ施行後各艦ノ煙筒内徑水管ニ在テハ最下計測ノ變形ノ有無ヲ確シ其ノ狀況ヲ艦長ニ報告スヘシ

〔參照〕

海軍省達第三十七號軍艦職員勤務令明治三十一年一月十四日(抄録)
第一章第九十五條 艦長ハ公務ノ外何等ノ場合ニ拘ラズ乗員ノ半數以上ヲシテ一時ニ艦ヲ離レシムルヘカラス
第三章第一條 機關長ハ左ニ掲グル組織 機關 兵器及此等ニ關スル諸設置ヲ管理シ常ニ之ヲ清潔有效ニ保チ實用ニ支障ナカラシムヘシ
五 蒸氣機 製氷機 製水機及製氷機

○海軍省達第三十九號

自今海軍機關總監工學博士宮原二郎ノ考案ニ係ル火氣式汽罐ヲ採用シ宮原水管式汽罐ト稱ス

海軍大臣男爵山本權兵衛

明治三十六年三月十九日

○海軍省達第四十號

軍艦通水手續中左ノ通改正追加ス

海軍大臣男爵山本權兵衛

明治三十六年三月十九日

第一條中(副注)ヲ(干噸未滿)ニ改ム

第七條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加ス

第八條 干噸未滿ノ軍艦(副注)ヲ進水セシメラルトキハ海軍大臣共ノ命名書ヲ當該鎮守府司令長官ニ送授シ當該鎮守府司令長官ハ前條ニ準シ進水式ヲ施行スヘシ但シ此場合ニ於テハ第六條ノ參列官中艦政本部第三部長及當該鎮守府艦政部長ノミ參列スルモノトス

○海軍省達第四十一號

海軍監獄監内規程中左ノ通改正ス

海軍大臣男爵山本權兵衛

明治三十六年三月二十四日

第六條中體操ノ下ニ「及裝填演習砲教練、焚火術」ヲ加フ

第七條 削除

第十一條服役時間表中十一月八時間トアルヲ「七時三十分間」ニ改ム

第十九條末項ヲ左ノ如ク改ム

會議ノ議案ハ會同員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

○海軍省達第三十七號

軍艦及水雷艦類別等級別表中砲艦二等ノ欄内ニ字治ヲ加フ

明治三十六年三月十四日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第三十八號

軍艦職員勤務令中左ノ通改正ス

明治三十六年三月十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第一章第九十五條ヲ左ノ如ク改ム

第九十五條 艦長ハ公務又ハ特別ノ場合ノ外乗員ノ半數以上ヲシテ一時ニ艦ヲ離レシムヘカラス但シ之ヲ半數ニ分ツハ各職別ニ從ヒ且成ルヘク各等級ニ依リ艦ノ保安ニ支障無カラシムルコトヲ期スヘシ

第三章第一條第五號中及製氷機ヲ製氷機及蒸氣消毒器ニ改ム

同章第二十三條ヲ第二十二條ノ一トシ同條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第二十二條ノ二 機關長ハ高速力試驗施行前及其ノ施行後各備ノ爐筒内徑水管艦ニ在テハ最ヲ計測シ變形ノ有無ヲ確メ其ノ狀況ヲ艦長ニ報告スヘシ

〔參照〕

- 海軍省達第三號軍艦職員勤務令(明治三十一年一月十四日)抄録
- 第一章第九十五條 艦長ハ公務ノ外何等ノ場合ニ拘ラス乗員ノ半數以上ヲシテ一時ニ艦ヲ離レシムルヘカラス
- 第三章第一條 機關長ハ左ニ掲グル諸職 機關兵及此等ニ關スル諸設備ヲ管理シ常ニ之ヲ滑潤有數ニ保チ費用ニ支障ナカラシムヘシ
- 五 滑潤油 蒸化器 濾水器及製氷機

○海軍省達第三十九號

自今海軍機關總監工學博士宮原二郎ノ考案ニ係ル水管式汽罐ヲ採用シ宮原水管式汽罐ト稱ス

明治三十六年三月十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第四十號

軍艦進水手續中左ノ通改正追加ス

明治三十六年三月十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第一條中(驅逐艦)ヲ(千噸未満)ニ改ム

第七條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加ス

第八條 千噸未満ノ軍艦(驅逐艦)ヲ進水セシメタルトキハ海軍大臣共ノ命名書ヲ當該鎮守府司令長官ニ送付シ當該鎮守府司令長官ハ前諸條ニ準シ進水式ヲ施行スヘシ但シ此場合ニ於テハ第六條ノ參列官中艦政本部第三部長及當該鎮守府艦政部長ノミ參列スルモノトス

○海軍省達第四十一號

海軍監獄監内規程中左ノ通改正ス

明治三十六年三月二十四日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第六條中體操ノ下ニ及裝填演習砲教練 焚火術ヲ加フ

第七條 削除

第十一條服役時間表中十一月八時間トアルヲ七時三十分間ニ改ム

第十九條末項ヲ左ノ如ク改ム

會議ノ議案ハ會同員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

○海軍省達第四十二號

明治三十三年達第八十一號通常物品出納命令官會計官吏表中水路部ノ品名欄ニ「測器修理用物品、測器保管運搬用物品」ノ十六字ヲ追加ス

明治三十六年三月二十六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第四十三號

海軍省規程中左ノ通改正ス

明治三十六年三月二十六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第二條中「之ヲ所管鎮守府司令長官」ヲ「之ヲ其ノ隸スル鎮守府望樓監督官若ハ要港部參謀長」ニ改メ第二項ヲ削除ス

第三條及第七條中「鎮守府」ノ下ニ「若ハ要港部」ヲ加フ

第九條及第十條中「普通電信取扱規則」トアルヲ「逓信省ノ定メタル電報規則」ニ改ム

第十一條第二項第十五條及第十九條中「望樓監督官」ノ下ニ「若ハ要港部參謀長」ヲ加フ

○海軍省達第四十四號

海軍省規程中別表第二號望樓欄內望樓監督官ノ下ニ「要港部參謀長」ヲ加フ

明治三十六年三月二十六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第四十五號

海軍省規程別冊ノ通改正ニ明治三十六年四月一日ヨリ施行ス

但別冊ハ之ヲ要スル向ハ逓信局ヨリ配付セシム

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第四十六號

海軍小銃射擊教範別冊ノ通定

但別冊ハ艦團部用ノ分ハ艦隊用品ヨリ供給シ其ノ他ハ之ヲ要スル向ハ海軍教育本部ヨリ配附ス

明治三十六年三月三十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第四十七號

明治二十八年達第百二十號ヲ廢ス

明治三十六年三月三十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

【參照】

明治二十八年達第百二十號ハ海軍小銃射擊教範ノ件ナリ

○海軍省達第四十八號

海軍省規程中左ノ通改正ス

明治三十六年三月三十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第二條ヲ左ノ通改ム

本省 人事局 經理局 軍令部 教育本部 鎮守府 要港部 鎮守府經理部 海兵團 軍法會議 監獄ニハ廟印ヲ備フ共ノ寸法ハ各曲尺方一寸二分トス但ハ本省鎮守府及要港部ニ於テ辭令書ニ捺押スル廟印ノ寸法ハ曲尺方一寸二分トス

第三條ヲ左ノ通改ム

總務長官 副官 秘書官 本省局長課長 大臣直屬廳長 軍令部長次長局長 教育本部部長

一 俸給宅料ハ當該校隊ヨリ支給スヘシ
第三項但書中「再審試験」ノ爲派遣セラレタル陸軍大學校學生候補者ノ滞在日當及復歸旅費並ニ之ヲ削シ

○陸軍第三十一號
軍隊内務書中左ノ通改正セラル (改正略ス)
但明治三十六年五月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十六年四月十八日

陸軍大臣寺内正毅

○陸軍第三十二號
步兵聯隊附中佐及野戰砲兵聯隊附少佐ヲ設ケラル、迄ハ步兵聯隊附中佐ノ職務ハ該聯隊少佐ヲシテ野戰砲兵聯隊附少佐ノ職務ハ該聯隊附大尉ヲシテ管掌セラルト心得ヘシ
明治三十六年四月十八日
陸軍大臣寺内正毅

陸軍大臣寺内正毅

鐵道大隊教育順次教令
明治三十六年四月二十四日
第一條 本令ハ鐵道大隊ニ於テ毎年施行スヘキ教育ノ大綱ヲ示スモノトス
軍隊教育順次教令ノ規定ニシテ本令ニ抵觸セサルモノハ之ヲ適用ス
第二條 教育ハ普通教育特別教育ノ二種ニ分ツ共科目ノ大要左ノ如シ
甲 普通教育
一 服務諸條規

- 二 教練
- 三 射擊
- 四 野外勤務
- 五 游泳及漕艇術
- 六 工兵作業
- 乙 特別教育
 - 一 鐵道路線及上部建築
 - 二 停車場設備
 - 三 電信電話架設
 - 四 鐵道橋架設
 - 五 鐵道修理及破壞
 - 六 鐵道運輸
 - 七 輕便鐵道ノ敷設及運輸

第三條 普通教育ハ兵卒ニ軍人精神ヲ注入シ彼等ヲシテ軍紀ノ下ニ在テ一致正格ニ行動セシムヘキ緊要ナル教育ニシテ各兵卒一般ニ施行スルモノトス

第四條 初年兵第一期ノ教育ハ普通教育ヲ主トシ其特別教育ハ單簡ナル初步ノ作業ニ限ルモノトス

第五條 特別技術修業若クハ特別教育實施ノ爲メ派遣ノ兵員ニアリテハ其情況ニ應ジ適宜普通教育ヲ施行スルモノトス

第六條 特別教育ハ兵卒ヲシテ普通教育ト相俟テ鐵道隊固有ノ任務ヲ達セシムヘキ緊要ナルモノトス

トス然レトモ其課目多クテ各兵卒ヲシテ技術全般ニ精通セシムルコトヲ望ム能ハス故ニ特種ノ技術ハ各兵卒ノ技能ニ應ジテ之ヲ專攻セシメ斯ノ如ク養成シタル兵員ヲ適當ニ配合シ戰時業務ヲ擔任セシメ得ルヲ目的トスヘシ

第七條 若干ノ兵卒ヲ限リ教育スヘキ特別技術特ニ運搬勤務ノ教育ハ二年兵及三年兵ニ限リ施行スルモノトス

第八條 教育ノ實施ハ教育順次表ニ據ルヘシ

鐵道大隊一箇年間教育順次表

期	種別	科	
		初年兵	二年兵及三年兵
第一	術	各個教練 體操 射擊練習演習 距離測量 救急射擊 小隊教練 射擊 野外演習 銃術 鐵道上部建築 鐵道敷設技術	同上ノ課目 鐵道開始及斷而並 測量助手術 破産術
		術學	勸諭及鐵法 兵役義務 各兵種ノ識別及性能並關係體制 上官ノ官姓名 武官ノ階級服制並勳章ノ種類及起因 軍隊內務及陸軍禮式 陸軍刑法及懲罰令 武器被服器具等ノ名稱製法及手入法 野外要務令 射擊教練 衛兵勤務 大隊歴史 赤十字條約衛生法及救急法 鐵道學

期	種別	科	
		初年兵	二年兵及三年兵
第二	術	第一期ノ課目 中隊教練 工兵作業 鐵道敷設技術	第一期ノ課目 中隊教練 工兵作業 鐵道敷設技術
		第二期ノ課目 大隊教練 游泳及消滅術 鐵道橋架設備 停電設備 電信電話架設術 器具材料梱包及積疊法	第二期ノ課目 大隊教練 游泳及消滅術 鐵道橋架設備 停電設備 電信電話架設術 器具材料梱包及積疊法
第三	術	第一期ノ課目 大隊教練 游泳及消滅術 鐵道橋架設備 停電設備 電信電話架設術 器具材料梱包及積疊法	第一期ノ課目 大隊教練 游泳及消滅術 鐵道橋架設備 停電設備 電信電話架設術 器具材料梱包及積疊法
		第二期ノ課目 大隊教練 游泳及消滅術 鐵道橋架設備 停電設備 電信電話架設術 器具材料梱包及積疊法	第二期ノ課目 大隊教練 游泳及消滅術 鐵道橋架設備 停電設備 電信電話架設術 器具材料梱包及積疊法
第四	術	第一期ノ課目 大隊教練 游泳及消滅術 鐵道橋架設備 停電設備 電信電話架設術 器具材料梱包及積疊法	第一期ノ課目 大隊教練 游泳及消滅術 鐵道橋架設備 停電設備 電信電話架設術 器具材料梱包及積疊法
		第二期ノ課目 大隊教練 游泳及消滅術 鐵道橋架設備 停電設備 電信電話架設術 器具材料梱包及積疊法	第二期ノ課目 大隊教練 游泳及消滅術 鐵道橋架設備 停電設備 電信電話架設術 器具材料梱包及積疊法
第五	術	第一期ノ課目 大隊教練 游泳及消滅術 鐵道橋架設備 停電設備 電信電話架設術 器具材料梱包及積疊法	第一期ノ課目 大隊教練 游泳及消滅術 鐵道橋架設備 停電設備 電信電話架設術 器具材料梱包及積疊法
		第二期ノ課目 大隊教練 游泳及消滅術 鐵道橋架設備 停電設備 電信電話架設術 器具材料梱包及積疊法	第二期ノ課目 大隊教練 游泳及消滅術 鐵道橋架設備 停電設備 電信電話架設術 器具材料梱包及積疊法

○陸軍第三十四號

明治三十五年陸軍第二十六號仕排命令官及歳入歳出官所管區分別表中左ノ通改正、明治三十六年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

但韓國駐衛隊ニ係ル仕排命令官及歳入歳出官ノ事務ハ三十六年度ニ於ケル派遣隊ヨリ之ヲ施行ス

明治三十六年四月二十四日

陸軍大臣寺内正毅

仕排命令官歳入歳出官ノ欄中「陸軍省庶務課長ヲ陸軍省高級副官ニ改ム

陸軍監督部長ノ所管區分區畫中「陸軍砲兵會議、陸軍工兵會議ヲ陸軍技術審査部、韓國駐衛隊ニ改

兵器監及臨時陸軍建築部長ノ欄ヲ削ル

陸軍兵器本廠長ノ所管區分區畫中「當該ヲ陸軍ニ改ム

砲兵工廠提理ノ所管區分區畫中左ノ一項ヲ加フ

東京砲兵工廠提理ノ前項ノ外火藥研究所ニ係ル收入經費

備考中第三項ヲ削ル

○陸軍第三十五號

明治三十六年陸軍大學校學生候補者再審試驗ノ開始ハ七月一日トス

明治三十六年四月二十七日

陸軍大臣寺内正毅

○陸軍第三十六號

今般陸軍砲兵會議並陸軍工兵會議並陸軍兵器監督條例廢止陸軍技術審査部條例制定築城部陸軍兵

器廠編制表改正及要審司令部同砲兵聯隊改稱相成候ニ就テハ實施ノ日ヲ以テ將格以下特ニ辭令書ヲ用キス改正職員ニ命課替ノ備左ノ通職名換稱スルコトニ定メラル

明治三十六年四月二十七日

陸軍大臣寺内正毅

一 吳要審砲兵聯隊長以下職員ハ廣島海軍要砲兵聯隊ノ相當職員ニ換稱

二 陸軍砲兵會議、陸軍工兵會議、陸軍技術審査部審査官ニ同會議附准士官以下ハ陸軍技術審査部附ニ換稱

三 築城部員支部部員ハ築城部廣島海支部部員ニ同員支部附准士官以下ハ築城部廣島海支部附ニ換稱

四 兵器監督部検査官ハ陸軍兵器本廠検査官ニ同部附准士官以下ハ同兵器本廠附ニ換稱

五 東京、大阪、門司、臺北陸軍兵器本廠職員ハ當該陸軍兵器支廠職員ニ同本廠附准士官以下ハ當該陸軍兵器支廠附ニ換稱

六 吳要審司令官以下ノ職員ハ廣島海軍要審司令部ノ相當職員ニ換稱

七 臺中、臺南陸軍兵器支廠長ハ當該兵器分廠長ニ同兵器支廠附准士官以下ハ當該兵器分廠附ニ換稱

○陸軍第三十七號

明治三十五年陸軍第四十四號陸軍物品會計規程中左ノ通改正、明治三十六年五月一日ヨリ施行ス

明治三十六年四月二十九日

陸軍大臣寺内正毅

一 陸軍物品會計規程中「總務局庶務課長ヲ高級副官ニ改ム

○陸軍第三十八號

築城部函館支部、哨門支部、忠海支部、下關支部、長崎支部及對馬支部ヲ廢止シ、吳支部ヲ廣島灣支部ト改稱ス

但、明治三十六年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十六年四月二十九日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第三十九號

明治三十二年陸軍第二十二號雇傭人給料支給規則中左ノ通改正シ、明治三十六年五月一日ヨリ施行ス

明治三十六年四月二十九日

陸軍大臣寺內正毅

第一條第一項但書中「臺灣」ノ下ニ「澎湖」ヲ加フ
第三條中「二十二日」（休日ニ當ルト）ヲ「陸軍文官俸給支給日」ニ改ム
備給表中「看病人」ノ欄内「拾貳圓」ヲ「拾參圓五拾錢」ニ改ム

○陸軍第四十號

明治二十八年陸軍第八十號中左ノ通改正シ、明治三十六年五月一日ヨリ施行ス

明治三十六年四月二十九日

陸軍大臣寺內正毅

別表中「拾四圓」ヲ「拾五圓」ニ改ム

明治二十八年陸軍第八十號ハ、臺灣北清海峽外流嶺等々ハ、前所稱嶺ヲ命ゼタル者、病人給料ノ件ナリ

○陸軍第四十一號

明治二十九年陸軍第五十一號中左ノ通改正シ、明治三十六年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十六年四月三十日

陸軍大臣寺內正毅

- 一 廣島灣、佐世保、澎湖、函館、長崎、要塞司令部及兵器廠附工兵科士官
- 二 第五頂砲兵科士官中野砲兵隊、要塞砲兵隊、乙大隊、兵器廠、技術審査部、對馬警備隊司令部、要塞司令部（廣島灣、佐世保、澎湖、函館、長崎ヲ除ク）士官學校、砲工學校、野砲兵科士官學校、要塞砲兵科士官學校、砲工科學校、砲工工廠製造所長ニ非サル者
- 三 第六頂砲兵科士官中砲重兵隊士官學校、兵器廠、技術審査部附ニ非サル者

【參照】

明治二十九年陸軍第五十一號ハ、要馬水分者中當分乘馬ヲ同裝セシメサル者ノ件ナリ

○陸軍第四十二號

明治三十四年陸軍第六十九號中ニ在リ、各號ヲ加ヘ、明治三十六年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十六年四月三十日

陸軍大臣寺內正毅

- 一 步兵聯隊附、中佐
- 二 對馬警備隊司令官、少將
- 三 要塞司令官、中佐
- 四 對馬警備隊司令部及要塞司令部參謀、中佐
- 五 要塞司令部附、中佐
- 六 技術審査部長、中將

- 十六 技術審査部長ヲ少將
- 十七 技術審査部審査官ヲ大中佐
- 十八 砲兵工廠提理ヲ少將大佐
- 十九 砲兵工廠廠員及所長ヲ大中佐
- 二十 築城部本部長ヲ少將大佐
- 二十一 築城部本部部員ヲ大中佐
- 二十二 兵器本廠長ヲ少將大佐
- 二十三 兵器本廠廠員検査官及兵器支廠長ヲ中佐
- 二十四 火藥研究所所長ヲ大中佐

頭 頭 頭 頭 頭 頭 頭

【參照】

明治三十四年陸軍第六十九號陸軍軍醫條例第三條定數中當分の内取數減少ノ件ナリ

○海軍省令第四十九號

海軍武官考課規則左ノ通改正ス

明治三十六年四月一日

海軍大臣 野山木權兵衛

海軍武官考課規則

- 第一條 海軍武官考課表ハ上長官ヲ准士官及下士ノ考課ヲ詳悉スルモノトス
- 考課表ハ別表第一號書式ニ依リ一通ヲ編製ス但シ一等下士ニ就テハ二通ヲ編製スヘシ
- 第二條 考課表編製官ヲ定ムルハ別表第二號ノ如シ

第三條 准士官以上ノ考課表ハ六月三十日ノ現在所屬ニ就キ編製シ順序ヲ經テ八月三十一日迄ニ海軍大臣ニ進達又ハ移牒スヘシ

第四條 下士ノ考課表ハ三月一日(九月一日ニハ其ノ月ニ於テ任用)ノ現在所屬ニ就キ編製シ三月三十一日九月三十日迄ニ本人在籍領守府ノ司令長官(艦隊司令長官ニ屬スル者ハ艦隊司令長官)ニ進達又ハ移牒スヘシ但シ一等下士ニ在テハ司令長官若ハ司令官ハ四月三十日十月三十一日迄ニ其ノ一通ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

第五條 考課表編製期ニ接近シ所屬ニ異動ヲ生ゼタルトキハ前編製官ハ新編製官ニ其ノ所見ヲ通報スルモノトス此ノ場合ニ於テハ新編製官ハ之ヲ定期ノ考課表ニ添付スヘシ

第六條 臨時報告ヲ要スヘキ事件アルトキ若ハ編製官變更スルニ際シ前編製官ニ於テ其ノ部下中特別ノ件ヲ有スル者アルヲ認メタルトキハ第三條若ハ第四條ノ定期ニ關セズ其ノ都度考課表ヲ編製シ進達又ハ移牒スヘシ

第七條 考課表ハ本人一身上ニ關スル事實ヲ詳悉確證スルモノナルヲ以テ編製官ハ常ニ其ノ人ノ材幹技能及性行等ニ注意シ之ヲ記注スルニ當テハ決シテ修飾忌憚スルコトヲ務メテ其ノ實ヲ揚クヘシ

第八條 考課表ノ材料トナルモノハ勉メテ之ヲ附記シテ提出スヘシ例ヘハ學術、技量、勳勉等ニ依リ其ノ實蹟顯著ナルモノハ其ノ詳細ヲ、又品行修ラズ規正シカラス勤務ヲ怠リ或ハ志氣確實ナラサル等ノモノアルトキハ之ヲ訓戒シ其ノ成果及本人ノ意志等ヲ附記スヘシ

第九條 別表第一號ノ記注ハ左項ニ依ル

- 一 考課表中現職適合以下ノ欄内ニハ編製官自ラ記注スヘシ

- 但レ所定欄内ノ事項ニ付記注スルコト能ハサルトキハ一時其ノ記注ヲ缺クコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ各欄内ニ記載スヘシ
- 一 初行欄内ニハ第三條 第四條若ハ第六條ノ調製時ニ於ケル年月ニ依リ明治何年何月考課表ト記載スヘシ
 - 二 年齢ハ前項ノ年月ニ於ケルモノヲ記載スヘシ
 - 三 出身欄内ニハ高等武官ニ在テハ初テ任官若ハ候補生任命ノ時其ノ他ニ在テハ初テ兵籍ニ入リシ時ノ年月日及官職名等ヲ記載スヘシ
 - 四 服役欄内ニハ出身前後ヲ問ハス其後ニテ何職ニテ從事ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 五 賞罰欄内ニハ出身以後ノモノヲ簡明ニ記載スヘシ
 - 六 現職適否欄内ニハ現職適否ノ實況ヲ記載スヘシ現職ニ適セサルモノニ就テハ尙ホ適任ト認ムル職課ヲ記載スルモノトス
 - 七 才能欄内ニハ技術外ニ關スル才力ノ程度状況ヲ記載スヘシ例ヘハ部下統御ニ妙ヲ得部下統御ノ才ニ乏シシ 創業ニ拙シク守成ノ才ニ長ス 忠者ニ懇切ニシテ人望アリ 忠者ニ冷淡ナリ 清廉ニシテ經理ノ才ニ長ス 貪吝ニシテ出納ノ才ニ乏シシ等ノ如シ
 - 八 技能欄内ニハ技術ニ關スル能力ノ程度 状況ヲ記載スヘシ例ヘハ驅逐艦ノ操縦ニ巧ナリ 艦砲射撃ニ熟練セリ スルツフィール式水管汽機取扱ニ熟練ナリ 局處解剖ヲ能クシ 眼科術ニ精通ス 金銀會計ヲ能クシ トヨ 物品會計ニ精シカラス 造船計畫製鋼術若ハ造船術ニ通シ何ノ事ヲ實行セリ等ノ如シ
 - 九 性質欄内ニハ剛直 柔順 篤實 質素 真率 狡猾 伶俐 暗愚 謙謹 倨傲 勇壯 卑怯 憤激 粗瀆 溫順 強悍 沈重 輕率 磊落 朴訥 豪爽 吝嗇 等ノ事ヲ記載スヘシ

- 一 志操欄内ニハ高尚 卑劣 端正 邪曲 確實 ナリ 確實 ナラズ 等ノ事ヲ記載スヘシ
- 二 思慮欄内ニハ思慮ノ深淺有無ヲ記載スヘシ
- 三 注意欄内ニハ注意ノ程度状況ヲ記載スヘシ
- 四 氣力欄内ニハ進取ノ氣力ニ富ム 不届 不挽 堅忍 等ノ事ヲ記載スヘシ
- 五 規律欄内ニハ規律正シ 規律正シカラズ 等ノ事ヲ記載スヘシ
- 六 判斷力欄内ニハ優劣劣ノ三等ニ區分シ記載スヘシ
- 七 學術欄内ニハ特ニ長スル學術若ハ普通教育ノ程度ヲ記載スヘシ例ヘハ彈道學ニ通ス 文學ニ通シ 算術ニ通シ 算術ヲ能クシ 等ノ如シ
- 八 外國語欄内ニハ外國語ニ通スル程度ヲ記載スヘシ例ヘハ露國語ニ通シ 如何ナル應答ニモ差支サレ 英國語ニ通シ 等ノ如シ
- 九 勲功欄内ニハ優 並劣ノ三等ニ區分シ記載スヘシ例ヘハ露國語ニ通シ 如何ナル應答ニモ精勵ナルヲ並トシ 怠慢ニシテ職責上缺ル所アルヲ劣トス
- 二十 業務欄内ニハ業務ニ從事スル状況ヲ記載スヘシ例ヘハ甲板掛リ士官トシテ其ノ職務ニ忠實ナリ 艦内諸部ノ整理保存ハ最モ見事ナリ 石炭積込ノ際率先從事スルヲ以テ其ノ整備甚々迅速ナリ 溺死者ノ滑體ニ冷淡ナリ ントアリ 往復文書ノ取扱ハ迅速ニシテ確實ナリ 等ノ如シ
- 二十一 僱傭欄内ニハ多辯ヲ弄スルノ僻アリ 事ニ當リ争ヲ好ムノ僻アリ 等ノ事ヲ記載スヘシ
- 二十二 應對欄内ニハ平常應對ノ實況ヲ記載スヘシ例ヘハ禮節ニ正シク人ノ愛敬ヲ受ク 禮節ニ細ハシク丁寧明瞭ナリ 上下ニ對シテ際際圓滿ナリ 同僚間ノ折衝等ノ如シ

二十三 動作欄内ニハ活潑敏捷、敏捷、遲鈍、閑雅、野卑、沈重、輕躁等ノ事ヲ記載スヘレ

二十四 體格欄内ニハ優、劣ノ三等ニ區分シ記載スヘレ如何ナル役務ニモ堪ヘ得ルヲ優トシ、海陸ノ助務ニ差支ナキヲ並トシ、海上助務ニ堪ヘサルヲ劣トス

二十五 品行欄内ニハ優、並、劣ノ三等ニ區分シ記載スヘレ特ニ優越トスヘキ善行アルヲ優トシ、善行、悪行ナキヲ並トシ、素行修ラサルヲ劣トス

二十六 本人自ラ長スルト思慮スル學術欄内ニハ本人ヲシテ申出テレメ之ニ同意ナルトキ共ノ學術ヲ記載スヘレ

二十七 調製官ノ所見末欄ニハ必要ト認ムル事項ヲ記載シ署名捺印スヘレ但シ必要ト認ムル事項ナキトキハ單ニ署名捺印スルモノトス

二十八 上官所見ノ欄内ニハ調製官ト共ノ官等ノ上下如何ニ係ラス順序ヲ經テ歴閱スヘキ諸官自ラ共ノ必要ト認ムル事項ヲ記載シ署名捺印スヘレ但シ必要ト認ムル事項ナキトキハ單ニ署名捺印スルモノトス

第十條 考課表調製ノ期月ニ於テ任用進級試験ヲ受クヘキ資格ヲ有スル一等卒ニ在テハ下士ニ準テ共ノ考課表ヲ調製進達スヘレ

(別表第一號) (未考ハ調製官ノ記法スヘキ特例ヲ示ス)

(内ハ卷)

明治三十三年六月考課表

調製官姓名	某
出身	明治二十二年四月二十日、少尉候補生、現官ニ任セラレ、明治三十三年九月二十九日
現職	二等兵

賞	「二十七八年戦役ノ功ニ依リ功五級金勲章ヲ授ケ賜フ(定期勲章等ハ記入スルヲ要セス)」
罰	「明治三十年十月武蔵航海兵隊中隊副官職ノ料減減五日」
現職	「最モ適任ナリ」
才能	「海兵ノ指導ニ妙ヲ得タリ」
技術	「艦艇射撃ニ熟練ナリ」
性質	「正直」
志操	「高尚」
學術	「眼識等ニ通ス」
外國語	「領土英國語ニ通スルモ翻譯十分ナリ」
勤務	「優」
操業	「地内勤務ニ熱心從事シ成績優著ナリ」
備價	「飲酒スレハ亂行ノ弊ナリ」
調製官	「署名捺印」
上官	「署名捺印」
所見	「署名捺印」
見	「署名捺印」

敷島艦長 何 某

要港部	水雷團		艦隊		艦隊		艦隊		艦隊	
	同分隊長	下士	同分隊長	下士	同分隊長	下士	同分隊長	下士	同分隊長	下士
要港部司令官	水雷團長	水雷團副官	艦隊長	艦隊副官	艦隊長	艦隊副官	艦隊長	艦隊副官	艦隊長	艦隊副官
海軍省	海軍省	海軍省	海軍省	海軍省	海軍省	海軍省	海軍省	海軍省	海軍省	海軍省

考	備
一	海軍省選第五十號
二	海軍省選第五十號
三	海軍省選第五十號

○海軍省選第五十號
海軍上長官士官任用進級取振規則中第三條第九條及別表ヲ左ノ通改正ス

明治三十六年四月一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第三條 海軍將官タル侍從武官ハ從侍武官、同將官タル東宮武官ハ東宮武官ノ拔擢名簿及候補名簿ヲ編製シ共ニ之ヲ海軍大臣ニ移牒スヘシ但シ該將官缺員等ノ場合ニ在テハ海軍總務長官之ヲ編製スルモノトス

第九條 拔擢名簿ハ別表第二號ニ依リ編製スヘシ

其ノ記注法ハ左ノ諸號ニ依ル他ハ考課表中ノ事項ニ同シ

一 初行欄内ニハ明治何年何月被擢名簿ト記入スヘシ

明治三十六年四月一日 海軍省選第五十號

○海軍省達第五十三號

軍艦及水雷艦類別等級別表中驅逐艦ノ欄内ニ胡務ヲ加フ

明治三十六年四月十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第五十四號

各候補生ニシテ海軍高等武官補充條例第十三條ニ依リ其ノ勤務報告ヲ爲シタル後引續キ候補生ト
シテ同條ニ準據シ六月三十日及十二月三十一日ノ現在所屬ニ就キ其ノ勤務報告ヲ關製シ進達ス
ル

明治三十六年四月二十八日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○會計検査院達第三號

其社證明ノ計算書中興業費ニ係ル分ハ自今提出ニ及ハス

日本鐵道株式會社

右相違ス

明治三十六年四月十八日

會計検査院長法學博士男爵田尻稻次郎

○宮内省達甲第二號

宮内官ニシテ許可ヲ受ケ外國政府ノ招聘ニ應シタル者ハ之ヲ定員外トナスコトヲ得但シ招聘ニ應
シタル日ヨリ解約歸朝ノ日ニ至ル迄ノ間俸給及旅費ヲ支給セス

明治三十六年五月二十三日

宮内大臣子爵田中光顯

奉 勅

○陸軍省達第四十三號

明治三十五年陸軍第六十號兵器取扱規則中左ノ通改正ス

明治三十六年五月一日

陸軍大臣寺内正毅

一目次以下第八十四條迄ヲ別紙ノ通改ム

(表中改正加除アリ略ス)

(別紙)

兵器取扱規則目次

- 第一章 總則
- 第二章 管理保管
- 第三章 定期報告
- 第四章 兵器委員
- 第五章 検査
- 第六章 費用
- 第七章 新調修理

第八章 支給交換

第九章 返納

第十章 毀損亡失及廢兵器ノ處分

第十一章 要需備附兵器使用手續

第十二章 赴任ノ際佩用刀取扱手續

第十三章 雜則

附則

第一表 武器彈藥器具材料區分表

第二表 兵器類別表

第三表 其一 某兵器支(分)廠保管兵器員數表樣式

其二 某要需備附兵器員數表(甲)樣式

其三 某要需備附兵器員數表(乙)樣式

其四 某隊(學校)(兵器支廠)(兵器分廠)(保管兵器員數表樣式

其五 某隊兵器支(分)廠保管兵器修理用半成品員數表樣式

其六 某要需臨時防禦用兵器員數表樣式

其七 某要需備附守城工兵器具材料員數表樣式

第四表 兵器支廠並要需司令部保管官衙所用兵器取扱區分表

第五表 軍隊學校ニ於テ製造者ノ直接買収ヲ許スヘキ品目表

第六表 修理制限表

第七表 軍隊學校ニ於テ使用ヲ要スル工廠製成品(半成品)品目表

第八表 第二類兵器交換分數表

第九表 平時諸兵器備蓄兵器表

第十表 其二 演習用彈藥支給定數率

其三 野戰砲兵中隊演習用彈藥支給定數率

第十一表 其一 要塞砲兵演習用彈藥支給定數率

其二 要塞守備砲兵中隊演習用彈藥支給定數率

第十二表 要塞砲兵演習用特別支給彈藥定數率

第十三表 軍隊ニ於テ定數外保管ヲ得ヘキ兵器定限表

兵器取扱規則

第一章 總則

第一條 本規則ハ平時ニ於テ兵器ヲ整備シ專ラ戰時ノ供用ヲ完全ナラシムル爲メ共ノ方法ヲ定ム

第二條 本則ニ於テ兵器ト稱スルハ第一表ニ掲グル兵器彈藥器具材料ノ總稱ナリ(兵器細目名稱

表)

第三條 本則ニ於テ兵器ニテ現ニ軍用ニ充ルモノハ前項ノ兵器ニ準シ取扱フモノトス

第四條 本則ニ於テ木廠 支廠 分廠ト記スルハ陸軍兵器本廠同支廠同分廠ヲ謂ヒ工廠ト記スルハ

砲兵工廠ヲ合シトシ 工兵工廠ト記スルハ憲兵 歩兵 騎兵 砲兵 工兵ヲ合シトシ 輜重兵ノ各隊屯田兵隊

警備隊及軍樂隊ヲ謂ヒ學校ト記スルハ生徒隊若ハ教團隊ヲ有スル學校並電信教導大隊砲兵

工科學校ヲ謂ヒ官衙ト記スルハ陸軍諸官衙(陸軍司令部 及生徒隊若ハ教導隊ヲ有セサル學校)工科
除クテヲ謂フ

第五條 本則ニ於テ本廠長支廠長ト記スルハ陸軍兵器本廠長同支廠長ヲ謂ヒ隊長、校長ト記スル
ハ前條ニ掲ケル軍隊若ハ學校ノ長ヲ謂フ

第六條 本則中支廠長並支廠ノ爲メニ記スルモノハ總テ要塞司令部部員砲兵科將校及司令部並
分廠長及分廠ニ適用ス但シ分廠長若ハ分廠ニ於テ直ニ執行スル事項ハ當該支廠長若ハ支廠ニ報
告スルモノトス

第七條 本則ニ於テ新調ト稱スルハ第一表ニ掲ケル名稱中ノ物品(物品ヲ製造若ハ調辦スルヲ
謂フ又修理ト稱スルハ同物品ヲ修理若ハ其ノ一部分ヲ調辦スルヲ謂フ)

第八條 兵器廠ニ貯藏スル兵器ヲ分テ本須及第一、第二支須トス本須ハ總豫備ヲ含ムヲ謂ヒ第
一支須ハ官衙所要及豫備ヲ謂ヒ第二支須ハ其ノ他ノモノヲ謂フ

第二章 管理保管
第九條 兵器ハ平時之ヲ別テ支廠分廠要塞及要塞司令部、軍隊學校ニ配備シ其ノ管理保管ヲ定ム
ルコト左ノ如シ

一 本須ハ本廠長之ヲ管理シ東京、大阪兩司令部支廠長保管ノ責ニ任ス

二 第一支須ハ本廠長之ヲ管理シ支廠長保管ノ責ニ任ス但シ分廠ニ在リテハ分廠長、要塞司令
部ニ在リテハ同部部員砲兵科將校保管ノ責ニ任ス

三 第二支須ハ要塞司令部部員砲兵科將校保管ノ責ニ任ス

四 要塞司令部備附第二支須及要塞備附兵器(要塞臨時防禦ハ要塞司令部之ヲ管理シ要塞司令部
部員砲兵科將校保管ノ責ニ任ス但シ工兵器具材料ハ同部部員工兵科將校保管ノ責ニ任ス)

五 軍隊(砲歩兵大隊ヲ除ク)保管兵器ハ師團長(團長戰隊兵隊ニ在リテハ旅長)之ヲ管理シ隊
長保管ノ責ニ任ス

六 要塞砲兵隊、對馬警備步兵大隊保管兵器ハ當該要塞司令部之ヲ管理シ隊長保管ノ責ニ任ス

七 學校保管兵器ハ教育總監(砲兵工科學校ニ在リテハ之ヲ管理シ校長保管ノ責ニ任ス)

第十條 軍隊、學校ノ保管ニ係ル兵器ノ取扱ヲ支廠並要塞司令部ニ於テ爲スモノハ左ノ區域ニ據
ルモノトス但シ兵器ノ新調修理並檢定ハ適宜附近支廠ニ於テ取扱フモ妨ケナシ

東京	支廠	第一師管内ノ軍隊、學校	要塞司令部所在地ノ軍
仙臺	支廠	第二師管内ノ軍隊	
弘前	支廠	第八師管内ノ軍隊	
旭川	支廠	第七師管内ノ軍隊	要塞司令部所在地ノ
名古屋	支廠	第三師管内ノ軍隊	
金澤	支廠	第九師管内ノ軍隊	
大阪	支廠	第四師管内ノ軍隊	要塞司令部所在地ノ
姫路	支廠	第十師管内ノ軍隊	要塞司令部所在地ノ
廣島	支廠	第五師管内ノ軍隊	要塞司令部所在地ノ

- 普通寺支廠 第十一師管内ノ軍隊
- 門司支廠 外國派遣ノ部隊
- 熊本支廠 第六師管内ノ軍隊
- 小倉支廠 第十二師管内ノ軍隊 駐在所在地ノ軍隊ヲ除ク
- 臺北支廠 臺灣守備混成第一旅團守備管區内ノ軍隊 基隆屯在地ノ軍隊ヲ除ク
- 臺中分廠 臺灣守備混成第二旅團守備管區内ノ軍隊
- 臺南分廠 臺灣守備混成第三旅團守備管區内ノ軍隊 澎湖島屯在地ノ軍隊ヲ除ク
- 東京灣要塞司令部 東京灣要塞所在地ノ軍隊、學校
- 函館要塞司令部 函館要塞所在地ノ軍隊
- 由良要塞司令部 由良要塞所在地ノ軍隊
- 舞鶴要塞司令部 舞鶴要塞所在地ノ軍隊
- 廣島灣要塞司令部 廣島灣要塞所在地ノ軍隊
- 廣島灣要塞司令部 廣島灣要塞砲兵隊
- 下關要塞司令部 下關要塞所在地ノ軍隊
- 佐世保要塞司令部 佐世保要塞所在地ノ軍隊
- 長崎要塞司令部 長崎要塞所在地ノ軍隊
- 對馬警備隊司令部 對馬屯在地ノ軍隊
- 基隆要塞司令部 基隆屯在地ノ軍隊
- 澎湖島要塞司令部 澎湖島屯在地ノ軍隊

第十一條 官衙所製兵器ノ第四表ノ區分ニヨリ支廠ニ於テ取扱フヘシ

第三章 定期報告

第十二條 各管理官ハ左ニ掲グル兵器員數表ヲ取纏メ半年報ニ在リテハ四月及十月ノ各盛日迄ニ年報ニ在リテハ四月盛日迄ニ本省ヘ到着スル如ク發送スヘシ但シ本條ノ各表ハ軍事機密圖書トシテ取扱フモノトス

半年報

- 一 某兵器支(分)廠保管兵器員數表 第三表其一
 - 一 某要塞備附兵器員數表(甲) 第三表其二
 - 一 某要塞備附兵器員數表(乙) 第三表其三
- 年報
- 一 某隊(學校)兵器支、分廠保管兵器員數表 第三表其四
 - 一 臺灣兵器支、分廠保管兵器修理用半成品員數表 第三表其五
 - 一 某要塞臨時防禦用兵器員數表 第三表其六
 - 一 某要塞備附守城工兵器具材料員數表 第三表其七

第四章 兵器委員

第十三條 軍隊ニ在リテハ兵器ノ整理ヲ掌ラシムル爲メ左ノ兵器委員ヲ設キ隊長之ヲ擔任ス但シ獨立中隊以下ノ軍隊ニ在リテハ之ニ準シ適宜委員ヲ設クルモノトス
少佐若ハ大尉 一人 首座
但シ步兵聯隊ニ在リテハ中佐若ハ少佐

大尉若ハ中尉 一人乃至三人

砲兵隊ノ武器主管工兵隊 砲重兵隊ノ材料主管ハ必ス委員中ニ加フルモノトス

第十四條 隊長ハ保管兵器整理一切ノ責ニ任シ兵器委員ヲレテ共ノ事務ヲ擔當セシムヘシ

第十五條 首座委員ハ隊長ニ對シ兵器整理ノ責ニ任シ委員ヲ指揮シ且兵器彈藥費ノ經理事務ヲ擔

頌ス

第十六條 委員ハ兵器ノ支給交換貯藏保存工場ノ監視及新調修理品等ノ検査ヲ掌ル

第十七條 委員ハ下士若干名ヲ擧ミ隊長ニ上申シ助手トシテ細務ニ服セシム

第十八條 學校ニ在リテハ第十三條乃至第十七條ニ準シ委員ヲ設ケ兵器ノ整理ヲ掌ラシムヘシ

第五章 検査

第十九條 兵器ノ検査ハ陸軍大臣ヨリ特ニ命セラレタル臨時検査官之ヲ行フ

検査終レハ臨時検査官ハ其ノ成績ニ意見ヲ添ヘ陸軍大臣ニ報告ス

第二十條 各管理官ハ毎年一回共ノ管理スル兵器ノ検査ヲ行フ但シ教育總監ハ參謀長 憲兵司令

官ハ隊長 兵器木廠長ハ同支廠長ヲレテ検査ヲ行ハシムルコトヲ得

検査終レハ管理官ハ其ノ成績ニ意見ヲ添ヘ陸軍大臣ニ移轉若ハ報告ス

第二十一條 検査ハ兵器ノ保存 數量及兵器彈藥費支途ノ適合其ノ他一般整理ノ景況ヲ檢ス

第六章 費用

第二十二條 兵器廠 要塞司令部及軍隊學校ニ於テ管理スル費用左ノ如シ

一 兵器廠

兵器ノ新調ニ係ル費用
兵器ノ修理手入ニ係ル費用
兵器ノ運搬ニ係ル費用

一 要塞司令部

兵器ノ新調ニ係ル費用
兵器ノ修理手入ニ係ル費用
兵器ノ運搬ニ係ル費用

一 軍隊學校

兵器ノ新調ニ係ル費用
兵器ノ修理手入ニ係ル費用
兵器ノ運搬ニ係ル費用

第二十三條 軍隊學校ニ於テ要スル兵器及修理用半成品ノ運搬ハ兵器支廠ニテ取扱フモノトス

但シ支廠所在地ニ在リテハ通常運搬費ヲ支出セシ支廠ニ就キ授受スヘキモノトス

第二十四條 軍隊學校ニ於ケル費用ノ仕拂ハ首座委員ノ承認セシ證書ヲ以テ其ノ手續ヲ爲スモ

第七章 新調修理

第二十五條 左ニ掲ケル兵器ハ陸軍大臣工廠ニ命レテ製造セシム若ハ本廠ニ命レテ調辨セシム而

レテ其ノ費用ハ本廠ヨリ支出セシム

一 第一類兵器 分數交換ニ要スル第二類兵器

二 新規支給ニ要スル兵器

三 各種彈藥 第四十六條第五十三條第五十七條第二項ニ掲

前各項ニ掲ケル兵器ノ外ハ支廠若ハ軍隊學校ニ於テ調辨ス但シ臺灣屯在ノ軍隊及屯田兵隊ニ

在リテハ修理手入用材料トシテ除ク外ハ兵器廠ニ於テ調辨スルモノトス

第二十六條 軍隊學校ニ於テ兵器ヲ新調セントスルトキハ兵器委員傳票ヲ製シ隊長若ハ校長捺

印ノ上支廠ニ託シ該費用ハ當該軍隊學校ノ管理費用ヲ以テ支辨ス但シ東京大阪屯在ノ軍隊學

校ニ在リテハ工廠ニ於テ製造スルモノニ限り直ニ工廠ニ託スヘシ

第二十七條 兵器廠ニ於テ兵器ヲ新調セントスルトキハ支廠長ハ工廠ニテ製作スルモノハ工廠ニ

注文ヲ其ノ他ハ他ヨリ調辨ス但シ支廠ニ於テ第二十六條第一項ノ注文ヲ託セラレタルトキモ亦同シ

要塞司令部並に臺灣兵器廠ニ於テ兵器ヲ新調セントスルトキハ其ノ修理所ニ於テ製造スルモノトス但シ製造シ得サルモノハ前項ニ準シ工廠ニ注文シ若ハ他ヨリ調辨ス而シテ其ノ費用ハ臺灣屯在ノ軍隊ニ係ルモノハ兵器廠ニ於テ支辨シ要塞所在地ニ係ルモノハ其ノ費用ヲ該軍隊學校ヨリ支拂フモノトス

第二十八條 兵器ノ修理ハ工廠、軍隊、學校、在臺灣兵器廠並に要塞司令部ニ於テ執行ス但シ軍隊、學校ニ於テハ第六表ニ掲グルモノ、修理ヲ許サズ

第二十九條 軍隊、學校ニ於テ第六表制限内兵器ノ修理並に制限外ト雖トモ修理シ能ハサル兵器ノ修理ヲ要スルトキハ第二十六條第一項並に第二十七條ノ手續ニ據ル

第三十條 軍樂器ノ修理ハ前條ノ手續ニ據ラス軍隊學校ニ於テ直ニ處辨スヘシ

第三十一條 軍隊、學校内ニ於テスル兵器ノ製造修理ハ工長及兵卒ヲシテ之ニ從事セシム但シ學校及屯田兵隊ニ在リテハ職工ヲ備役スルコトヲ得

第三十二條 工廠外ニ在リテ新調、修理ニ要スル材料中第七表ニ掲グル品目ハ必ス工廠ノ製作ニ係ル成品若ハ半成品ヲ使用スヘシ但シ其ノ購買手續ハ第二十六條第一項及第二十七條ニ據ル

第三十三條 支廠、水廠兵器及軍隊保管兵器ノ手入ハ兵卒ヲ以テ施行スルモノトス但シ支廠及屯田兵隊ニ於テハ管理費用内ヲ以テ職工ヲ備役スルコトヲ得

第三十四條 支廠、水廠兵器保管兵器ノ手入ハ兵卒ヲ要スルトキハ支廠長所要ヲ計リ衛戍司令官ニハ當該師團長ニ請求スルモノトス

第八章 支給交換

第三十五條 左ニ掲グル補給ハ本廠長直ニ之ヲ執行ス

一 兵器裝具ニ對シテ支給

二 勳賞計畫訓令ニ基キ特ニ要スル兵器ノ支給

三 第一類兵器ノ交換

第三十六條 左ニ掲グル補給ハ支廠長直ニ之ヲ執行ス但シ第二乃至第六項ハ當該官衛長官若ハ隊長第七及第八項ハ衛戍司令官ノ請求ニ據ルモノトス

一 演習用彈藥

二 匪徒討伐ニ費消セシ彈藥

三 官衛ニ要スル兵器ノ支給交換

四 見習監督、見習官、見習副官、見習隊官、豫備役見習士官、各師團ノ各會、並に定員外見習士官用、刀劍ノ支給

五 近衛守衛隊用彈藥ノ補給

六 捕獲及禮砲用彈藥ノ補給

七 非常及正午號砲用彈藥ノ補給

八 備成服務用彈藥ノ補給

第三十七條 第二類兵器ハ全ク其ノ用ニ地ハサルニ至リ交換ス而シテ其ノ交換期ハ毎年六月及十二月トス但シ第一類兵器中藥品、銃筒、ノミニ係ルモノハ第三類兵器ノ取扱ニ準シ處理スルモノトス

實ス

- 一 小銃空包 （紙筒） 及 狹窄射擊實包 （鉛彈）
- 二 火砲用各種彈及藥筒、藥包、空包 （海岸砲用空包、陸軍砲用空包）
- 第四十六條 彈藥ノ材料並屬品中左ニ掲クル者ハ當該支廠、軍隊、學校ノ管理費用ヲ以テ調辨スヘシ
- 一 小銃空包用填綿
- 二 狹窄射擊用鉛彈 （細筒彈ヲ應用シ、能ハサル場合）
- 三 三十一年式速射野砲空包用十字形
- 四 海岸砲用空包並藥筒底支桿
- 五 爆包並撥放火用藥莖
- 六 騎兵用火具中ノ麻絲、摺附木、油紙
- 七 正午號砲用紙藥莖
- 第四十七條 憲兵隊及屯田兵隊ニ在リテハ前二條ノ規定ニ據ラス總テ完成品ヲ以テ支給ス
- 第四十八條 軍隊ニ在リテ一時過員トナリタル者ニ要スル彈藥ハ當該軍隊演習用定數内ヲ以テ應用スルモノトス
- 第四十九條 平時ニ在リテ見習士官、下士、兵卒並諸生徒等ニハ第九條ニ掲載スル携帶兵器ヲ支給ス

第九條 返納

第五十條 攜テ兵器ハ兵器表ノ定數ニ超過スルヲ許サス故ニ過數トナリタルモノハ軍隊、學校ニ在リテハ返納シ支廠ニ返納シ支廠ハ之ヲ本廠ニ報告スヘシ但シ軍隊及屯田兵隊中在リテハ軍隊及屯田兵隊ノ管理費用ヲ以テ修理ヲ加フルモノトス

第五十一條 見習監督見習醫官見習藥劑官見習獸醫官及豫備後備見習士官並定員外見習士官ニ支給シタル刀劍ハ其ノ用ヲ終リタル後直ニ支廠ニ返納スヘシ但シ破損シタルモノハ當該軍隊ノ管理費用ヲ以テ修理ヲ加フルモノトス

第五十二條 小銃並藥銃ノ藥莖、挿彈子及螺門管ハ每演習ノ終リニ之ヲ收集シ藥莖ハ空雷管及螺門管ヲ除キ拔除シ且洗淨シ挿彈子ハシテ毎年十二月月又臺灣ニ在リテハ交代時前迄ニ支廠ニ返納スヘシ但シ軍隊備附空包用藥莖及同挿彈子ハ一旦使用シタル實包用藥莖及同挿彈子ノ内ヨリ良好ノモノヲ選擇シ其定數ニ充足スルモノトス

第五十三條 狹窄射擊用藥莖ハ毎年十二月定數ノ六分ノ一ヲ返納シ交換品ノ支給ヲ受クルモノトス

第五十四條 速射砲用藥莖ハ每演習ノ終リニ於テ空雷管ヲ拔除ノ上之ヲ洗淨シ毎年十二月破損品ヲ返納シ交換品ノ支給ヲ受クルモノトス但シ要途用速射砲藥莖ニ在リテハ總テ返納スルモノトス

第五十五條 小銃並藥銃藥莖、挿彈子及螺門管ヲ返納スルニカテ小銃並藥銃藥莖及螺門管ニ在リテハ定數ノ百分ノ五挿彈子ニ在リテハ百分ノ二ヲ減耗ノ定限トス之ヲ超過スルトキハ當該軍隊、學校ノ管理費用内ヲ以テ補充スヘシ但シ臺灣在リテハ軍隊及屯田兵隊ニ在リテハ軍隊ニ於テ補充スルコトナク隊長ノ理由書ヲ添フルモノトス

第五十六條 軍隊、學校ニ於テ三十一年式速射野山砲射擊ヲ行フトキハ放射シタル彈丸 （榴彈ヲ及信管類ハ成ヘシ之ヲ集拾シ置キ演習後之ヲ支廠ニ返納スヘシ但シ運搬ニ要スル費用ハ兵器廠ニ

於テ支辨スルモノトス

空虛トナリタル彈藥箱、火藥箱及火具箱ハ格納シ置キ適宜ノ時期ニ於テ軍隊、學校ニ在リテハ支廠ニ返納スヘシ

第五十五條 各支廠ニアリテハ第五十二條及第五十四條ニ依リ軍隊、學校ヨリ返納ニ係ルモノハ適宜ノ時期ニ於テ東京兵器支廠若ハ大阪兵器支廠ヘ送付シ其ノ員數ヲ兵器本廠ヘ報告スヘシ但シ小銃及霰銃ノ莖莖、榴彈子ハ東京兵器支廠ニ火砲用藥莖、螺門管、彈丸、信管ハ大阪兵器支廠ニ送付スルモノトス

第十章 毀損亡失及廢兵器ノ處分

第五十六條 總テ兵器ヲ毀損亡失シタルモノハ左ノ二項ニ據リ處分ス但シ其ノ事由避クヘカラサルコトニ起因スルカ或ハ公務執行中ノ過失ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 毀損シタル兵器ノ新調ヲ要スルトキハ新調代價ノ半額代價ヲ控除ス修理ニ止マルモノハ修理全價ヲ補償セシム

二 亡失シタル兵器ハ新調代價ノ半額ヲ補償セシム

一年志願兵ニモ亦本條ヲ適用スト雖モ官費服役證書ヲ付與シタルモノノ外ハ各自ニ支給スル携帶兵器ニ限リ其ノ事由ノ如何ニ拘ハラズ補償セシム

第五十七條 毀損亡失シタル兵器ハ左ノ各項ニ據リ補充ス

一 第一類兵器ヲ亡失シタルトキハ第三十八條ニ據リ代品ノ支給ヲ請求ス此ノ場合ニ在リテハ支廠長ノ檢定書ニ代フルニ保管者ノ理由書ヲ以テス

二 第二、第三類兵器及彈藥ヲ毀損亡失シタルトキハ第二十六條乃至第二十九條ニ據リ新調若

ハ修理ス但シ第一類兵器ニシテ單ニ修理ニ止マルモノモ亦本項ニ據ル

三 臺灣屯在ノ軍隊及屯田兵隊ニ在リテハ前項ニ據ラス其ノ代品ヲ要スルモノハ第四十一條ニ

修理ニ止マルモノハ第二十八條及第二十九條ニ據リ取扱フモノトス

第五十八條 天災事變等ニ依リ毀損亡失シタル兵器ニシテ特ニ交換支給ヲ要スル場合ニ在リテハ各保管者ハ詳細ナル理由書ヲ附シ要スレハ兵器支廠長ノ檢定書ヲ添ヘ管理官ヲ經テ陸軍大臣ニ

移機若ハ申請ス

第五十九條 前條ノ場合ニ於テ兵器ノ修理ヲ要シ其ノ管理費用内ヲ以テ支辨シ難キ者ハ各管理官

ハ保管者ヨリ詳細ナル理由書ヲ附シ之ヲ添ヘ陸軍大臣ニ申請スヘシ

第六十條 兵器ハ全ク其ノ用ニ堪ヘサルモノニ非サレハ廢品ト爲スコトヲ得ス

本廠長ハ必要ニ應シ支廠長ヲシテ其ノ管理兵器ノ試驗ヲ行ハシムルコトヲ得但シ之カ爲火砲射

撃ヲ行フヲ要スルトキハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項試驗ノ結果修理ノ自途ナク全ク其ノ用ニ堪ヘサルモノハ廢品處分ヲナスヘシ但シ第一類兵

器及彈藥ニ在リテハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六十一條 火藥火具類ニ變敗ノ徵アリテ其ノ用ニ堪ヘサルノ虞アルトキハ管理官ハ支廠長ニ檢

定ヲ請求スルモノトス

此ノ檢定ノ爲特ニ火砲射撃ヲ要スルトキハ支廠長ハ本廠長ニ本廠長ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘ

シ

檢定ノ爲消費シタル彈藥ハ之ヲ補充シ其ノ員數ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第六十二條 前條ニ據リ檢定ノ結果火藥火具類ノ交換ヲ要スル場合ニ在リテハ各管理官ハ保管者

ヨリ詳細ナル理由書ヲ做シ之ニ支廠長ノ檢定書ヲ添ヘ之ヲ陸軍大臣ニ請求スルモノトス
第六十三條 不用並廢兵器ハ總テ支廠ニ於テ處分スルヲ法トス然レトモ廢兵器ニ在リテハ軍隊
學校ニ於テ處分スルコトヲ得此場合ニ在リテハ豫メ當該支廠長ノ檢査承認ヲ受クルモノトス但
レ第一類兵器並彈藥ノ廢品及不用兵器ノ處分ハ支廠長之ヲ本廠長ニ本廠長之ヲ陸軍大臣ニ上申
シ認可ヲ經ルヲ要ス

第十一章 要塞備附兵器使用手續

第六十四條 要塞砲兵隊ニ於テ要塞備附ノ兵器(彈藥ヲ除ク)ヲ使用セントスルトキハ當該隊長先
シ保管者ト協議シ砲臺ノ名稱、兵器ノ種類員數、使用ノ目的及時日等必要ノ件ヲ詳記シ管理官ノ
承認ヲ經テ當該要塞司令部ヨリ借用シ使用後要塞砲兵材料保存法第四章ニ掲クル手入ヲ爲シ一
週日以内ニ司令部ニ返納スヘシ

使用後ニ要スル修理費料ノ證ハ總テ當該隊長ノ責任ニシテ其ノ費用モ亦該隊ノ管理費用ヲ以
テ支辨スルモノトス

要塞臨時防制用兵器ノ使用手續モ亦本條ニ據ル

第六十五條 前條ニ據リ兵器ノ受授ヲ爲ストキハ要塞司令部員砲兵科將校精密ノ檢査ヲ行ヒ授
受ヲ明シトシ又要スレハ隨時之カ檢査ヲ施行スルコトヲ得

返納兵器ヲ受領スルニ當リ修理及手入ノ不充分ナルモノアルヲ認ムレハ要塞司令部員砲兵科
將校ハ更ニ之カ復行ヲ要求スルコトヲ得

第六十六條 學校其ノ他ニ於テ要塞備附兵器ヲ使用セントスルトキハ本章ノ手續ニ據ルモノトス

第十二章 赴任ノ際佩用刀取扱手續

第六十七條 支廠及分廠ニハ赴任用刀ヲ備フルヲ以テ准士官(明治三十二年十二月一日以前任
下赴任スルトキハ兵器委員官附ニ在リテ支廠若ハ分廠ニ赴任用刀ノ支給ヲ請求シ之ヲ佩用赴
任シレシ著任ノ上ハ兵器委員官附ニ在リテハ、ニ交換方ヲ請求セシム但レ支廠或ハ分廠不在地
ノ軍隊官衙學校ニハ支廠保管ノ定數内ヨリ赴任用刀ヲ適宜ニ分配貯藏セシム
勤員ニ方リ下士以下赴任スルトキハ兵器ヲ携帶セシメサルモノトス但レ臺灣ニ在リテハ此ノ限
ニ在ラス

第六十八條 前條ニ據リ兵器委員若ハ支廠或ハ分廠ニ交換方ヲ請求スルトキハ現官ニ相當スル刀
劔ヲ支給シ赴任用刀ハ直ニ返納セシム但レ軍隊學校ニ在リテハ更ニ兵器委員ヨリ當該支廠若
ハ分廠ニ返納スルモノトス

第六十九條 支廠若ハ分廠ニ在リテハ毎年五月、十一月ニ於テ赴任用刀ノ員數ヲ調査シ過數ハ之
ヲ本廠ニ報告シ不足トナリタルモノハ支給ヲ受ケヘレ但レ臺灣ニ在リテハ支廠ニ於テ分廠ノ分
ヲ繼メ報告スルモノトス

第七十條 中央幼年學校及砲兵工科學校保管ノ赴任用刀ハ生徒卒業赴任ノ際之ヲ支給シ著任ノ
上ハ支廠ヲ經テ原所管ニ返送ス

第七十一條 軍隊保管ノ士官候補生赴任用刀ハ士官候補生士官學校分遣ノ際之ヲ支給シ著任ノ上
ハ該校ニ預リ置キ卒業歸隊ノ際本人ニ支給ス

第七十二條 地方幼年學校ノ卒業生徒ニレテ中央幼年學校へ轉入ノ際要スル所ノ佩用刀ハ第六十
七條及第六十八條ニ據リ取扱ヒ原所管ノ支廠ニ返送スルモノトス

第七十三條 准士官以下刑罰滿期無罪免訴等ニテ原所管へ復歸ノ際刀劔ヲ要スルトキハ當該官

第七十四條 准士官以下分遣中死亡若ハ其ノ他ノ事故ニ據リ携帶ノ兵器ヲ原所管ニ返送スルヲ要ス

第七十五條 一年志願兵ニ要スル兵器彈藥ヲハ該軍隊用ノ定數内ヲ以テ應用シ演習用彈藥ハ

第七十六條 學校若ハ官衙ハ分遣中ニ在ル者ノ携帶セル兵器ノ新調修理手入並第一類兵器ノ交

第七十七條 軍隊學校ニ於テ測陸機ヲ要スルトキハ支廠保管ノモノヲ請求シテ使用スヘシ但シ

第七十八條 各種砲彈丸ノ帶脂ヲ要スルモノハ該廠支廠ニ於テ裝着ノ上支給ス

第七十九條 平時使用セル兵器ニシテ秋季演習ノ爲特ニ使用シタルモノノ修理手入ニ要スル費

第八十條 臺灣總督ハ事變ニ際シテ陸軍大臣ノ認可ヲ經ルノ逸ナシ兵器廠保管ノ兵器

ヲ使用セルトキハ直ニ之ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

附則

第八十一條 演習砲臺ノ未々完備セサル場合ニ在リテハ特別ニ其砲臺ヲ指定シ所在地要塞砲兵隊及學校ノ演習用ニ供スルコトアリ之ヲ常用砲臺ト稱ス此ノ砲臺ノ備砲射擊及演習ニ要スルハ當該隊長若ハ校長修理手入ノ責ニ任シ該費用モ亦其ノ管理費用ヲ以テ支辨スルモノトス

第八十二條 要塞臨時防禦用兵器ニシテ當該要塞ニ現在セサルモノハ本廠長之ヲ管理ス

第八十三條 第四十三條第二項演習用彈藥種類ノ變更ハ當分ノ内第一支須ノ定數外ト雖同條第三項ニ準テ交換支給スルコトヲ得

○陸軍第四十四號 陸軍平時備人定員表別紙ノ通改正ス

明治三十六年五月一日 陸軍大臣寺內正毅

(別紙)

陸軍平時備人定員表

區分	名		職		小使		給仕		計
	支	分	支	分	支	分	支	分	
師團司令部	1		1		1		1		4
陸軍軍樂隊									3
臺灣守備混成旅團司令部									3
鐵道大隊材料廠									2
臺灣警備隊司令部									2
									1
									6

○陸軍部第四十七號

明治三十二年陸軍部第五十二號陸軍軍人軍屬出張取扱規則中左ノ通改正ス

陸軍大臣寺内正毅

明治三十六年五月一日

第二條及第六條中「警備隊司令官」ノ上ニ「對馬」ヲ加フ

第三條中「東京防衛總督部」ヲ「教育總監部」ニ改メ「要塞所在地兵器支廠」ヲ削ル

第四條中「校園長」ヲ「學校長」ニ改ム

第六條中「東京防衛總督」及「三週日以内ノ出張」ヲ削ル

○陸軍部第四十八號

明治三十五年陸軍部第十六號上等計手及計手補充區分表中「在臺灣兵器支廠及臺灣補給廠支廠」及「兵器監部所管内」ノ區畫ヲ左ノ通改正ス

陸軍大臣寺内正毅

明治三十六年五月一日

在臺灣兵器支廠及分廠

兵器本廠所管内

在臺灣補給廠支廠

臺灣補給廠本廠所管内

○陸軍部第四十九號

明治三十五年陸軍部第二百一十一號火藥火具取扱規則中左ノ通改正ス

陸軍大臣寺内正毅

明治三十六年五月一日

第九十七條中「兵器監」ヲ「兵器本廠長」ニ改ム

第九十八條中「黃色藥」ノ下ニ「要塞司令部」及「ヲ加フ

第二百六條第一項中「總」ヲ「要塞司令部」若「ニ改ム

第二百七條中「凡」ヲ「要塞司令部」若「ニ改ム

第二百六條中「兵器廠」ノ上ニ「要塞司令部」及「ヲ加フ

第二百二十五條中「兵器廠」ノ上ニ「要塞司令部」及「ヲ加フ

第二百三十一條第一項中「兵器監」ヲ「兵器本廠長」ニ改ム第二項ヲ左ノ通改正ム

兵器本廠長ハ前項ノ報告ニ接シ必要ト認ムル速カニ「要塞司令部」及「兵器廠」ヲ前項ト同種類ノ火藥ニ就キ臨時検査ヲ施行セム

○陸軍部第五十號

明治三十年陸軍部第二百一十四號野戰砲廠並要塞修理所職工卒業規則中左ノ通改正ス

陸軍大臣寺内正毅

明治三十六年五月一日

第二條中「若」ハ「要塞所在地兵器支廠」ヲ「若」ハ「要塞司令部」對馬ニ在リテハ對馬ニ改ム

第三條中「當該兵器支廠長」ヲ「當該要塞司令官」對馬ニ在リテハ對馬ニ改ム

第四條第一項中「兵器支廠長」ノ上ニ「要塞司令官」及「ヲ加ヘ」第二項中「及兵器支廠長」ノ上ニ「要塞司令官」ヲ加フ

第六條中「兵器支廠長」ノ上ニ「要塞司令官」及「ヲ加ヘ」又ハ「警備隊司令官」ヲ削ル

○陸軍部第五十一號

陸軍省處務細則別冊ノ通改正ス

陸軍大臣寺内正毅

明治三十六年五月一日

(別冊)

陸軍省處務細則

第一章 總則

- 第一條 本省ノ事務ハ各局ヲ以テ全權ノ基礎トナシ局長ハ大臣ニ對シ局務整理ノ責ニ任ス
 - 第二條 局長又ハ課長缺員若ハ不在ノトキハ局長ニ在テハ局内高級故參ノ課長、課長ニ在テハ其課高級故參ノ課員其職務ヲ代理スヘシ但シ病氣其他事故ノ爲メ一時不參ノトキハ其指示ヲ承ケ常務ヲ處辨スヘシ
 - 第三條 尋常ノ省務ニシテ陸軍部内又ハ部外ニ對スル文書ハ總務長官ノ名ヲ以テシ其輕易ノ事項ハ高級副官ノ名ヲ以テスルコトヲ得
 - 第四條 本則中各課ニ關スル事項ハ法務局ニ、各課長ニ關スル事項ハ法務局上席局員ニ、課員ニ關スル事項ハ出仕將校法務局員及技師ニ準用ス
 - 第五條 省ノ設置トシテ各局ヲ通シテ副官(高級副官ヲ除ク)、課員及出仕ノ内一名、總務局及參事官、秘書官附屬(通譯生ヲ含ム)ノ内一名宿直セシム
 - 人事軍務醫務法務ノ各局ヲ通シテ副官一名、經理局ニ於テハ副官一名宿直セシム
- 第二章 服務
- 第六條 局長ハ大臣ノ命ヲ承ケ管掌ノ職務ヲ整理シ部下ヲ指揮監督ス
 - 第七條 局長ハ主任ノ事務ニ就キ其職權ニ屬スル事項ヲ專行シ且法規ノ疑義質問ニ對シ解釋ヲ與フシト得但シ解釋ヲ與ヘタルトキハ大臣ニ報告スヘシ
 - 第八條 經理部衛生部醫務部及理事、録事ノ人事ハ主管ノ局長之ヲ掌理ス
 - 第九條 局長ハ局内ノ服務規程ヲ定ム

第十條 副官ハ大臣及總務長官ノ命ヲ承ケ總務局ノ事務ヲ分掌シ高級副官ハ他ノ副官ノ事務ヲ監督ス

第十一條 秘書官ハ大臣ニ專屬シテ機密事務ニ服シ上級(人事ヲ除ク)其他ニ關スル差使往復ニ任ズ

第十二條 參事官ハ大臣或ハ總務長官ノ諮詢ニ應ジ意見ヲ具申シ且法規ノ審査及起案ニ任ス

第十三條 課長ハ局長ノ命ヲ承ケ課員以下ヲ指揮シ調査、起案、審議、點檢等一切ノ課務ヲ整理ス

第十四條 課員ハ課長ノ指揮ヲ承ケ主トシテ調査、起案ノ事務ニ服ス

第十五條 總務局附一專副監督ハ高級副官ノ命ヲ承ケ本省ノ會計事務ニ服ス

第十六條 屬校手、線事、通譯生ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

第三章 文書取扱

第十七條 本省ニ到達スル文書(親展書)ハ總務局往復掛ニ於テ受領シ件名番號ヲ受領日記ニ、同一ノ番號ヲ本書ニ記入シ主務副官ニ呈出スヘシ但シ封筒上ハ人ノ符號アルモノハ其他人事局ニ送付スヘシ

第十八條 親展書及封筒上職氏名ヲ記シタル文書ハ往復掛ニ於テ受領者及發信者ヲ簿冊ニ記入シ大臣及總務長官ニ宛テタルモノハ高級副官ニ、其他ハ當該局課ニ送付スヘシ

前項ノ親展書ニシテ受領者一閱ノ後普通文書ノ取扱ニ屬スルモノハ前條ノ例ニ據ル

第十九條 主務副官ハ前條ノ文書ヲ査閱シ重要ト認メタルモノハ高級副官ニ呈シ尋常ノ事件ニシテ各局ニ密議ニ附スヘキモノハ其主務局ヲ指示シ往復掛ニ下付シ當該局ニ配付セシム

局長ハ受領シ文書ヲ各擔任課ニ下付シ之ヲ處理セシム

第二十條 各課ニ於テ文書ヲ受領シタルトキハ日録ニ其番號及要領ヲ記入スヘシ

第二十一條 到達文書ノ内重要ナルモノハ高級副官ヨリ大臣及總務長官ノ査閱ニ供シ處分ノ指揮ヲ承クヘシ

第二十二條 恆例ニ係ル事項ニシテ大臣ノ處決ヲ要セス又各局ノ審議ヲ要セスト認ムルモノハ總務長官ノ決裁ヲ請ヒ高級副官之ヲ執行スヘシ

前項ノ外輕易ノ事件ハ高級副官ノ檢印ヲ以テ直ニ之ヲ執行スヘシ

第二十三條 機密文書ノ接受發送等ハ總務高級副官監視ノ下ニ主務副官自ラ之ヲ取扱フモノトス

第二十四條 毎週月水金曜日午前十時大臣ハ總務長官及各局長ヲ會同シ事務ヲ商議ス各局長ハ文書ノ審議ヲ要スヘキ事件ハ此會議ニ提出シ且局務ニ就テ必要ノ報告ヲ爲スヘシ

各局長ハ前項會議終ルノ後各課長ヲ會同シ必要ノ件ヲ指示シ調査スヘキ事項若ハ施行ノ順序等ヲ命シ主務課長ヲシテ執行セシム

第二十五條 各局ニ於テ立案セシ文書ニシテ事ノ敝局ニ連帶セルモノハ主務局課ノ審按ニ關係諸官ノ連印ヲ受クヘシ若彼我意見ヲ異ニスルトキハ面議商量シ尙決セサルトキハ總務長官又ハ大臣ノ決裁ヲ請フヘシ

前項ノ審按ニハ主務局ニ於テ連帶局課ヲ附記スヘシ

第二十六條 他ノ局課ニ連帶スル事項ニ就テハ其連帶ヲ終了スル迄主務局ノ責任トス

第二十七條 總務文書中文字ノ修正ヲナシタルトキハ主務者之ニ捺印シ又要スレハ其修正セシ理由ヲ要領ヲ用紙ノ末尾ニ摘記シ置クヘシ

第二十八條 總務法律勅令省令告示其他主要ナル條規ノ制定改正廢止ニ係ル文書ニハ逐條理由書ヲ附スヘシ但レ事單簡ナルモノハ概括ノ理由書ヲ以テスルコトヲ得

第二十九條 各局課ニ於テ審按セル文書ニシテ即日發送ヲ要スルモノハ退廳一時前ニ總務局ニ送付スヘシ但レ止ヲ得サルトキハ此限リニアラス

第三十條 到達文書ニ對スル指令回答等ハ概テ即日起草ヲ終リ連帶局課若ハ總務局ニ送付スヘシ至急ヲ要スル文書其他特ニ發生セシ事件等ノ爲メ急速處決ヲ要スルモノハ即時ニ其處分ヲ了スヘシ

第三十一條 各局調查簿ノ文書ハ速ニ總務局ニ回付シ高級副官ハ審查ノ上總務長官ニ呈シ同官査閱ノ上大臣ノ決裁ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於テ文書ノ修正ヲ要スルモノアルトキハ高級副官之ヲ改メ實施後主務局ニ通知スヘシ

第三十二條 前條文書ノ重要ナルモノ及法規按ハ先ツ高級副官審查ノ爲メ參事官ニ送付スヘシ

第三十三條 事ノ急施ヲ要シ大臣ノ決裁ヲ請フヘキ事項ニシテ定規ノ順序ヲ經ル能ハサル場合ニ在テハ高級副官直ニ大臣若ハ總務長官ニ上申シ旨ヲ承ケ執行シ然ル後主務局ニ回覽セシム

第三十四條 人事ニ係ル事項ニ付ギテハ人事局長大臣又ハ總務長官ノ決裁ヲ請ヒ之ヲ執行ス故ニ之ニ關シ上奏又ハ附議ノ文書モ同局長ノ所掌トシ文書ノ受領發送亦同局ニ於テ取扱フモノトス

第三十五條 人事又ハ機密ノ事項ニシテ關係局課ノ連帶ヲ要スルモノハ主務者携帶シテ協賛スヘキモノトス

第三十六條 成案文書其他公文書ニシテ大臣又ハ總務長官決裁済ノモノハ高級副官ニ於テ紙端ニ(閱)ノ印ヲ捺シ文書掛ニ下付ス

第三十七條 前條ノ文書ニシテ文書掛ニ於テ淨寫シタルモノハ主務關係ニ一名校合ノ證トシテ共ニ紙端ニ捺印シテ送達日記ニ事件ノ大要ヲ記シ一頁ノ番號ヲ附シ尙本書ニ送達日記ノ番號ヲ附シ主務副官照檢ノ後發送スヘシ

發送文書ニハ署名下部ニ職印ヲ捺スヘシト雖モ印刷配布ノ文書ニ在テハ職印並主務者捺印トモ之ヲ皆クモノトス

諸通及之ニ附屬スヘキ圖面表面等印刷ノ際ニ於ケル校合ハ主務課之ヲ擔任シ校合者ハ必ス原稿ニ捺印スヘシ

第三十八條 發送文書ニ添附スヘキ附屬書類 表面 圖面等ハ主務課ニ於テ其所要數ヲ調製スヘシ但シ印刷ニ附スヘキモノハ此限ニアラス

一定ノ配布區分ニ據ラサル文書ハ主務課ニ於テ配布表ヲ調製シ關係文書ニ添附スヘシ

第三十九條 總務局ヨリ回送セシ文書ニシテ單一覽止ムルモノハ本書ニ局長課長捺印シテ速ニ返送スヘシ

第四十條 各局ヨリ提出シタル文書ニシテ決裁濟ノ通知ヲ要スルモノハ決裁ノ欄ニ關係局ヲ指定シ更ニ之ヲ回送ス指定局ハ局長 課長又ハ課員ノ内捺印シ總務局ニ返送スヘシ但シ其文書一般ヘ令送若ハ通牒トナルモノハ此限ニアラス

總テ回覽文書ニ捺印シタル者ハ其局課必要ノ職員ニ通知スヘシ

第四十一條 總テ送付ノ文書ハ送達簿ヲ附シ受領者ヲシテ捺印セシムヘシ

第四十二條 總務局ヨリ回付シタル文書中寄投ヲ要スルモノニシテ完結セサルモノハ毎月末日總務局ニ於テ調査シ積積目錄ヲ製シ各局ニ發送ス各局ハ三日以内ニ延滞ノ理由ヲ目錄書ニ記入シ

局長ノ照檢ヲ經テ返付スヘシ

高級副官ハ前項ノ書類ヲ照檢シ意見ヲ附シ總務長官ノ査閱ニ供シ總務長官ハ之ヲ督促其他ノ手續ヲナスヘシ

第四十三條 各局課ヨリ提出セシ文書ニシテ大臣又ハ總務長官ノ命ニ依リ決行ヲ見合スヘキモノハ高級副官之ヲ保管スルモノトス

第四十四條 總テ決行濟ノ文書ハ寄投若ハ之ニ關スル往復書トモ總務局ニ於テ保管シ各局課ニ於テ保存スルヲ許サス各課ニハ日録及單簡ナル摘要等ヲ設ケ將來ノ考據引證トナルヘキ如ク整理シ置クヘシ

第四十五條 各局ヨリ各部各團隊等ニ郵送スヘキ文書ハ親展或秘密事項ノ外封筒ニ緘入セス送達紙ト共ニ總務局ニ送付スヘシ

第四十六條 省內電信取扱所ニ於ケル業務ハ別ニ定ムル所ニ據ル

○陸通第五十二號

陸軍給與令細則中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十六年五月一日 陸軍大臣寺內正毅

第二條中「陸軍省庶務課長ヲ陸軍省高級副官ニ改メ兵務監ヲ削ル

第四十一條第一項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

五等病院 凡ハ於ケル入院患者ノ糧食ハ病院長所管長官ノ指定セル最寄軍隊ニ其ノ經理ヲ委託スヘシ

五等病院以外ノ病院ニ在リテヨリ入院患者寡少ノ場合ニ於テハ前項ニ準スルコトヲ得

第七十六條第二項ヲ左ノ如ク改ム

- 前項ノ馬糞ハ左ノ事由アルトキハ定量又ハ減量ニ對スル代金ヲ交付ス
 - 一 代用品ヲ以テ定量ノ全部若ハ幾分ヲ換給スルトキ
 - 二 馬匹ノ情況ニ依リ減給スルトキ
- 第一表中軍隊手躰ノ欄看護手ノ區畫内ニ「ヲ削リ備考第七中防塞用被服」ノ下ニ「第一區及第三區ニ在リテハ外套頭巾胴著股引厚毛布及手套ヲ除キ又「ヲ加フ
- 第二表區別欄中草脚絆拍車ノ分界線ヲ削ル
- 第三表備考第三項中「吳ヲ廣島灣」ニ改ム

○陸軍第五十三號

陸軍國防用防禦營造物圖書取扱規則中ノ通改正ス

明治三十六年五月一日

陸軍大臣寺內正毅

第二條中兵器監砲兵會識議長工兵會識議長ヲ兵器本廠長技術審査部長ニ改ム
 第三條第一項中「警備隊司令官及兵器本廠長」ヲ及對馬警備隊司令官ニ改ム第二項中「要塞所在地兵器支廠長」ヲ削ル

○陸軍第五十四號

第六條第二項中又ハ同支部長ヲ同支部長若ハ要塞司令官(對馬ニ在リテハ)ニ改ム
 陸軍經理學校條例第二十條ニ依リ第四期監習生七十名同條例第二十一條第二號ノ者ヨリ採用
 本年十月入校セシム

明治三十六年五月五日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第五十五號

明治三十六年經理學校ハ入校セシムヘキ學生ノ人員ハ二十七名トシ本年十二月入校セシム

明治三十六年五月五日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第五十六號

仙臺外七橋成監獄ニ於ケル囚徒移送方左ノ通定ム
但明治三十五年陸軍第二十七號ハ之ヲ廢止ス

明治三十六年五月九日

陸軍大臣寺內正毅

一 仙臺名古屋廣島熊本以前金澤姫路普通寺ノ各橋成監獄ニ於ケル禁錮囚徒ニレテ刑期三月ヲ超ニル者ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ東京大阪小倉ノ橋成監獄ニ移送シテ刑ノ執行ヲ爲スヘシ但在監人僅少ナル場合ニ於テハ刑期四月以下ノ者ハ之ヲ移送セサルコトヲ得

東京	仙臺	大阪	小倉
名古風	金澤	名古屋	熊本
普通寺	姫路	廣島	熊本

- 一 在監人増加シテ拘禁刑ニ差支アルトキハ前項刑期ニ拘ハラス將來ニ於ケル服刑期間ノ長キ者ノ中ヨリ適宜押送スヘシ
- 一 囚徒ノ押送ハ毎月二回又ハ三回ニ纏メテ之ヲ爲スヘシ但拘禁刑ニ差支アルトキハ此限ニアラズ
- 一 囚徒ノ押送ハ監獄長ヨリ憲兵隊ニ請求シ憲兵ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ
- 一 憲兵隊ニ於テ差支アルトキハ監獄長ヨリ師團長ニ稟申シ他ノ兵員ヲシテ押送ヲ爲サシムヘシ

○陸軍勸務演習中在ノ通改正ス

陸軍勸務演習中在ノ通改正ス

明治三十六年五月十一日

第四條ニ在ノ但書ヲ加フ

陸軍大臣寺内正毅

但シ鐵道隊ニ於テ現役ヲ終ル者ノ勸務演習ハ該隊ニ於テ之ヲ行フ

附表第一號備考第二項中鐵工長ハ下及實習ハ下ニ要務司令部若ハ下加ヘ又於テレノ下ニ要務司令部員砲兵科將校若ハ下加フ

同第三項中「築城部支部長」ヲ「要務司令部部員工兵科將校」ニ「吳」ヲ「廣島灣」ニ「下ノ關」ヲ「下關」ニ改

○陸軍第五十八號

防備營遺物出入規則左ノ通定ス

但明治三十二年陸軍第八十六號國防用防備營遺物出入規則ハ之ヲ廢止ス

明治三十六年五月三十日

陸軍大臣寺内正毅

防備營遺物出入規則

第一條 陸軍所管ノ防備營遺物ニ出入セシムル軍人軍屬ハ所管長官ヲ經テ當該要務司令官ニ共

他ノ者(官史ニ在リテハ)ハ陸軍大臣ニ出願シ許可ヲ受クヘシ

第二條 陸海軍官衛長官團隊長(以上及獨立大隊)及學校長ニ於テ公務ノ爲メ軍人軍屬ヲ防備營

遺物ニ出入セシムルトキハ當該要務司令官ノ承認ヲ經ルベシ但陸軍大臣及參謀總長ニ在リ

テハ此限ニテラス

陸軍大臣及參謀總長ニ於テ軍人軍屬ヲ防備營遺物ニ出入セシムルトキハ陸軍大臣ニ在テハ副官

參謀總長ニ在テハ總務部長ヲ經テ之ヲ當該要務司令官ニ通報セシム

第三條 陸軍官衛長官團隊長及學校長ニ於テ公務ノ爲メ軍人軍屬ヲレテ防備營遺物ヲ測量レ攝影

機軸セシムルトキハ陸軍大臣ノ許可ヲ受クム

第四條 陸軍大臣ニ於テ防備營遺物ノ出入若ハ測量攝影機軸ノ許可ヲ與ヘタルトキハ副官ヲレ

テ之ヲ要務司令官ニ通報セシム

第五條 職務ノ爲メ第一條第二條ノ手續ヲ經テ防備營遺物ニ出入レ得ヘキ者左ノ如シ

一 元帥陸軍大臣、參謀總長、教育總監、陸軍總務長官、參謀本部次長、教育總監部參謀長、陸軍省軍務

局長、同軍醫課長及同砲工兵、製將校、參謀本部部長、同主務將校、要務砲兵、監部將校、技術審査部

將校、兵器本廠將校、築城部本廠將校、東京砲兵工廠提理、同砲具製造所將校、大阪砲兵工廠將校、

火藥研究所將校

海軍大臣、海軍軍令部長、海軍總務長官、海軍軍令部次長、海軍省軍務局長、同第一課長、海軍軍令

部第一局將校

職務上以上ノ長官ニ隨行スル官僚

第六條 職務ノ爲メ第二條第二條ノ手續ヲ經テ所管內及ヒ當該要務內ニアル防備營遺物ニ限リ出

入レ得ヘキ者左ノ如シ

一 海軍總督、海軍軍令部長、要務司令部將校、海軍總督府陸軍參謀長及同參謀、都督部參謀長及

同參謀、師團參謀長及同參謀、要務砲兵隊長、要務砲兵射擊學校長、築城部支部長

鎮守府司令長官、同司令官、要務部司令官、臺灣總督府海軍參謀長及同參謀、鎮守府參謀長及

同參謀

明治三十六年五月 陸軍省通達第五十八號 防備營遺物出入規則

○海軍省達第五十七號

海軍主計官練習所規則中左ノ通改正ス

明治三十六年五月十八日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第六條第七條第八條削除

第九條第一項中ニ左ノ一號ヲ加フ

丙種練習生 五箇月

第十二條、前條ノ通アリタルトキハ各所屬長ハ練習生タルニ適スル者ヲ撰拔シ甲種及乙種練習生

ニ在テハ所見表ヲ添ヘ所長ニ通報シ丙種ニ在テハ約一箇月筆記ノ業務ヲ見習ハシメ筆記タルニ

適スルコトヲ確認シタルトキ所見表ヲ添ヘ所長ニ通報スヘシ

第十三條中甲種練習生ノ次ニ「及丙種練習生ヲ加フ

第十七條ノ二、丙種練習生採用試験科目ハ左ノ如シ

一 和漢學 漢文句讀前點(日本外史ノ類)

二 作文 記事文

三 算術 四則分數比例

第十八條 學生及練習生ニシテ最終ノ試験ニ落第シタル者及傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ若ハ其ノ

他ノ事故ノ爲メニ在所不適留ト認ムル者アリタルトキハ學生ニ在テハ之ヲ經理局長ニ具申シ練

習生ニ在テハ之ヲ免シ其ノ在籍領守府ノ海兵團ニ入團セシメ其ノ旨ヲ該領守府司令長官ニ移

牒スルコトヲ命ジ其ノ前所屬團共ノ他各部ニ復歸セシメテ在籍領守府ノ海兵團ニ入團セシメニ改

メ及當該所屬長ヲ削ル

第二十條第二十一條削除

別表ノ次ニ左ノ表ヲ加フ

(別表ノ二)

海軍主計官練習所丙種練習生所見表

身 體	所管團名	氏 名	年 齡	實 績	備 考	服 役		品行及勤務 性資及學識 職務上ノ技術 職務及進歩ノ程度 何	見 解
						種別	等級		
入籍年月日									
善行及行狀									
分隊長官姓名印									
所屬長官姓名印									

右海軍主計官練習所練習生ニ適當スル者ト認ム

明治 年 月 日

〔參照〕

海軍省通第百七號海軍主計官規程所規則(明治三十四年八月二十三日官報)抄録
 第六條 甲種練習生ハ筆記試験及主計ニシテ左ノ各試ニ適合スル者ノ中ヨリ撰拔ス
 一 身體強健品行方正ナル者
 二 海軍出身以來滿二箇年ヲ經過シタル者
 三 卒業後三箇年以上現役ニ居スヘキ者若ハ再服役ヲ爲スコトヲ誓約スル者
 甲種練習生卒業後滿四箇年ヲ經過シ復習ヲ爲サントスル者ハ更ニ前項ニ依リ之ヲ撰拔スルコトヲ得
 第七條 乙種練習生ハ筆記試験及主計ニシテ身體強健品行方正ナル者ノ中ヨリ撰拔ス
 第八條 乙種練習生ハ毎年海軍大臣ニ於テ定ムル所ノ練習生人員中甲種練習生其數ニ達セサルトキ之ヲ採用ス
 第九條 學生及練習生ノ練習期ヲ左ノ如ク種別ニ依リ時令ニ依リ多少併給セシムルコトアルヘシ
 第十二條 前條ノ通アリタルトキハ各所屬長ハ第六條及第七條ニ適合スル志願者ヲ撰拔シ所見表ヲ添ヘ所長ニ通牒スヘシ
 第十三條 所長ハ前條ノ通牒ヲ得タルトキハ甲種練習生ノ撰拔人員中試験ヲ要スル者ニ對シ試験問題ヲ封封シ各所屬長ニ送付スヘシ
 各所屬長ハ試験ヲ行ヒ其ノ答辭書ヲ所長ニ送付スヘシ
 總テ試験ハ各地同日同時ニ行フモノニシテ其ノ日時ハ試験問題ノ封封ニ記スルモノトス
 第十八條 學生及練習生ニシテ海軍ニ試験ニ落第シタル者及在所不適當ト認ムル者アルトキハ學生ニ在リテハ之ヲ經理局長ニ具申シ練習生ニ在リテハ之ヲ免シ各其ノ前所屬機關ニ他各部ニ復歸セシムルコトヲ旨ヲ當該守府司令長官ニ移牒スヘシ
 前項ノ練習生ニシテ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者アルトキハ各其ノ在籍守府ノ海軍團ニ復歸セシムルコトヲ旨ヲ當該守府司令長官ニ移牒スルコトヲ旨ニ各其ノ前所屬機關ニ他各部ニ復歸セシムルコトヲ旨ニ通知スヘシ
 第十九條 練習生卒業シタルトキハ所長ハ之ヲ各其ノ前所屬機關ニ他各部ニ復歸セシムルコトヲ旨ニ試驗成績表ヲ當該守府司令長官及當該所屬長ニ移牒スヘシ
 第二十條 第十八條第一項及第十九條ニ據リ前所屬機關ニ復歸セシムルニ當リ該機關ノ地ニ在リテカ或ハ其ノ所在不定ナルトキハ各其ノ在籍守府ノ海軍團ニ復歸セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ當該所屬長ニ通知スヘシ
 第二十一條 第十八條第一項第十九條及第二十條ニ據リ復歸其ノ他各部ニ復歸セシムルコトヲ旨ニシテ事故アリ出役セシムル能ハサルトキハ一時權限置流兵團ニ入團セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ各其ノ前所屬機關ニ他各部ノ長ニ通知スヘシ

○宮内省通第第三號

明治三十二年九月宮内省通第十六號御料局支應職制中第一條ヲ左ノ通改正ス
 第一條 御料財產ヲ管理スル爲メ須要ノ地ニ御料局支應ヲ設置ス
 支應ノ下ニ出張所ヲ置ク其ノ位置並ニ管轄區域ハ宮内大臣之ヲ定ム
 明治三十六年六月十八日

奉勅

宮内大臣子爵田中光顯

〔參照〕

宮内省通第十六號御料局支應職制(明治三十二年九月六日抄録)
 第一條 御料財產ヲ管理スル爲メ須要ノ地ニ御料局支應ヲ設置スルコトヲ旨ニシテ

○宮内省通第第四號

御料局水會支應ヲ世々位置並ニ管轄區域左ノ通相定ム
 但シ明治三十六年七月一日ヨリ施行ス

奉勅

宮内大臣子爵田中光顯

水會支應

○宮内省通第第五號

位置 長野縣西筑摩郡那須島町 管轄 信濃國
 宮内省通第第三十四條中御料局理事「三人」ヲ「四人」ニ改メ支應長ニ任スヲ「補ス」ニ改ム
 但シ明治三十六年七月一日ヨリ施行ス
 明治三十六年六月十九日

宮内大臣子爵田中光顯

奉勅

明治三十六年六月 宮内省通第第三號 御料局支應職制 甲第五號

○陸軍第五十九號

韓國釜山京城仁川間軍用電信取扱規則左ノ通相定メ明治二十七年八月陸軍部百二號ハ之ヲ廢止ス
明治三十六年六月一日 陸軍大臣寺內正毅

第一條 釜山京城仁川間ノ軍用電線ハ軍事通信ニ妨ナキ限リ左ノ電報ヲ取扱フコトヲ得

一 本邦政府ノ官報
二 陸軍省ヨリ特許ヲ得タル電報

三 大本營幕僚、兵站總監部、運輸通信長官部、海外へ派遣セン軍司令部、師團司令部、兵站監部ヨリ特許ヲ得タル電報但シ此電報類信紙ニハ必ス許可セシ官憲ノ官印押捺シアルヲ要ス

第二條 軍用通信所ヨリ陸軍部内ノ電報ヲ釜山又ハ京城郵便局へ傳送セントスルトキハ同局迄送メテ前番符號ヲ附シ共ノ他ノ電報ハ局内心得ニテ發信人ノ官氏名ヲ釜山又ハ京城郵便局迄送送ス

第三條 軍用電線ヲ經テ發著スル電報ハ軍用電線内ニ在リテハ凡テ無料トス

第四條 軍用通信所ヨリ發スル陸軍以外ノ官報ハ豫メ發信人ヨリ共ノ料金ノ後納ヲ釜山又ハ京城郵便局ニ請求シ第一條第二號第三號ノ電報ハ發信人ヨリ共ノ料金ヲ釜山又ハ京城郵便局ニ豫納シタルモノニ限リ之ヲ取扱フヘシ

第五條 軍用通信所ハ營隊郵便局ヨリ前條後納請求者又ハ豫納者ノ官氏名ノ通知ヲ受クヘキモノトス

第六條 臨時電信部提理ハ軍用通信所ヨリ發スル陸軍部内ノ電報ニ關スル料金及別使又ハ解船配達料ヲ毎月京城又ハ釜山郵便局ノ請求ニヨリ之ヲ支拂フヘシ

第七條 本規則ニ規定ナキモノハ在韓國本邦郵便局所ニ於ケル電報ニ關スル一般ノ規定ニ據ルヘシ

第八條 本規則ハ公衆通信ヲ取扱フ軍用通信所相互ノ間ニ於ケル通信ニハ之ヲ適用セス

〔參照〕

明治二十七年八月陸軍部百二號ハ朝鮮國釜山京城間軍用電信取扱規則ナリ

○陸軍第六十號
明治三十三年陸軍部百十二號中左ノ通改正ス

明治三十六年六月六日

第一條 第一項制隊中「又步兵聯隊要藥砲兵聯隊ニ在テハ營隊隊長ノ指定セル大隊ノ金櫃委員首座ヲ制隊第二項ヲ左ノ如ク改ム

公債證書ヲ以テ納付スル場合ニ在リテハ其ノ價格ハ額面額面ノ五分ノ一ニ依ル但シ之カ爲

納付スヘキ金額ヲ超過スルハ妨ケナシ

第八條 中「監督部長」ノ下ニ「及經理部長」ヲ加フ

〔參照〕

陸軍部百十二號陸軍省官報計保儲金取扱手續(明治三十三年十月二十九日)抄錄

第一條 陸軍省官報計保儲金取扱手續(明治三十三年十月二十九日)抄錄
ニ依リ此ノ所屬ヨリ發給通知書ヲ得テ之ニ現金又ハ公債證書ヲ添ヘ金額ニ出シ其ノ保管證書ヲ得テ之ヲ以テ所屬部隊長
公債證書ヲ以テ納付スルトキハ出納官吏元保儲金代用價格ニ依リ之ヲ算出スルモノトス但シ納付スヘキ金額ニ超過ス
ルハ妨ケナシ

○陸軍第六十一號
陸軍部百十二號陸軍省官報計保儲金取扱手續(明治三十三年十月二十九日)抄錄

衛生部ニ關スル救科用書ハ自今醫務局長ヲ以テ檢定セシム

明治三十三年陸軍第九十二號同第百一十一號同第百五十六號及明治三十二年陸軍第百五十二號ヲ廢ス

明治三十六年六月十日

陸軍大臣寺內正毅

〔参照〕

明治三十三年五月十日陸軍第九十二號ハ陸軍省陸軍修業長教科書 同年六月十日陸軍第百一十一號ハ陸軍省陸軍修業長教科書 同年八月十日陸軍第百五十六號ハ陸軍省陸軍修業長教科書 同三十三年十二月二十二日ニ陸軍第百五十二號ハ陸軍省陸軍修業長教科書ノ件ナリ

○陸軍第六十二號

明治三十五年陸軍第六十號兵器取扱規則中左ノ通改正ス

明治三十六年六月十五日

陸軍大臣寺內正毅

一 附表第十一表共一中澎湖島ノ欄ニ於テ十二加ノ各種彈並藥包ノ肩數ヲ九加ノ相當區畫ニ移ス

○陸軍第六十三號

明治三十六年陸軍經理學校學生試驗格別表ノ通定ス

明治三十六年六月十七日

陸軍大臣寺內正毅

(別表)

明治三十六年陸軍經理學校學生試驗格別

試	本	試驗備	
		論文	算術
試	本	算術	算術
		算術	算術
試	本	算術	算術
		算術	算術

備考	記	三	角	平三角
		外國語學	文法	算術和算
口述	會計經理	作帳	二關スル給養陸軍軍制	和文反算
外國語學	八佛	獨英	英支那ノ内受驗者ノ希望ニ依リ必ス其ノ一ヲ試驗ス	

○陸軍第六十四號

本年採用スヘキ經理學校學生ニ係ル事項左ノ通定ス

明治三十六年六月十七日

陸軍大臣寺內正毅

一 豫備試驗問題左ノ通

論文

給養ト交通トノ關係ヲ論ス

二 學生志願者ハ本年八月二十四日迄ニ經理學校條例ニ依リ答案ヲ提出スヘシ

○陸軍第六十五號

明治二十九年陸軍第七十七號中左ノ通改正ス

明治三十六年六月十八日

陸軍大臣寺內正毅

出張所名稱ノ欄中軍馬補充部白河支部白石出張所ノ次ニ「軍馬補充部白河支部泉出張所」ヲ同位置ノ欄中宮城縣刈田郡福岡村大字八宮字河原子ノ次ニ「栃木縣鹽谷郡泉村大字長井字片倉」ヲ加フ

○陸軍第六十六號

明治三十二年陸軍第百五十九號三十年式步兵銃及騎銃保存法別冊ノ通改正ス (別冊略ス)

明治三十六年六月二十九日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第六十七號

陸軍監獄看守陸軍警守及陸軍備人被服給與規則中左ノ通改正ス

明治三十六年六月二十九日

陸軍大臣寺内正毅

第一條第二項中邸内取締「押丁」ヲ削ル

第二條第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

被服料ノ給與ヲ受ヘキ者ニシテ現品給與ヲ受ケル期間ハ其ノ被服料ノ給與ヲ停止ス

第四條 看守警守及備人 馬丁、轉職轉用ノ場合ニ在リテハ所持ノ被服ハ引續キ使用セシメ其ノ

被服料ハ従前ノ月數ヲ通算シテ滿一箇年毎ニ第一表乙額ヲ給ス

被服料ノ給與異ナルモノニ轉スル場合ニ在リテハ前項ノ外轉用ノ際新身分ニ應スル第一表ノ甲

額二分ノ一ヲ給ス

玄關番ト他ノ備人 馬丁ト相互轉用スル場合ニ在リテハ前二項ニ依ラス第二條及第七條第一

項ノ規定ヲ準用ス

第一表及第二表中 陸軍省參謀 玄關番ヲ「玄關番」ニ 玄關番邸内取締、ヲ「給仕小使」ニ改メ第二表備考

中 陸軍省參謀本部監軍部「邸内取締」ヲ削ル

○海軍省第五十八號

海軍服裝規則中左ノ通改正ス

明治三十六年六月十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第二條第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

四ノ二 隨御ノ隨會開院式ニ參列スルトキ並ニ同式陪觀ノ爲參院スルトキ

第三條第一號中參内スルトキ「下」ニ及實所參拜ノトキ「下」ヲ加フ

【參照】

海軍省第三百二號海軍服裝規則(明治二十九年十一月二十日抄録)

第二條 正服用ノ場合ハ概テ左ノ如シ

第三條 禮服用ノ場合ハ概テ左ノ如シ

一 拜服ノ爲メ參内スルトキ

○海軍省第五十九號

海軍氣象信號規程別冊ノ通定ス

但シ別冊ハ必要ノ向ハ配附ス (別冊略ス)

明治三十六年六月十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省第六十號

明治三十三年遠第四百八十八號ヲ廢ス

明治三十六年六月十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

【參照】

明治三十三年九月海軍省遠第四百八十八號ハ海軍氣象信號法ナリ

○海軍省第六十一號

氣象觀測通報規程中左ノ通改正ス

明治三十六年六月十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第一條中「午前二時六時十時午後二時六時十時」ニ於テ毎日六回ヲ「定時」ニ於テ「改」

第三條 削除

第四條 氣象通報ノ記註法並氣象月報氣象年報暴風通報雷雨通報地震通報積雪通報等ノ様式ハ之

ニ相當スル中央氣象臺所定ノ方法及様式ニ準據ス

第八條中「中央氣象臺所定ノ氣象信號標式」ヲ「海軍氣象信號規程ノ定ムル所」ニ改ム

第十條中其ノ地所管領守府ヲ便宜ニ改ム

【參照】

- 海軍省通第七十三號氣象通則(明治三十年六月二十四日抄録)
- 第一條 領守府海軍部ハ午前二時六時十時午後二時六時十時ニ於テ毎日六回其ノ所在地ノ氣象ヲ觀測ス但中央氣象臺ヨリ暴風警報ヲ受ケルトキハ天候不穩ト認メタルトキハ尙ホ臨時觀測ヲ行フヘシ
 - 第三條 前項氣象通則ノ記號ハ別ニ掲ケルモノヲ除クノ外左ノ方法ニ依ル
 - 一 晴雨計ノ示度ハ空滿ノ溫度減點ナルトキノモノニ改メ純ニテ示ス但氣象電報ニ用フルモノニハ尙ホ標高並ニ風力ノ改正ヲ行フヘシ
 - 二 來風計ノ示度ハ風向ノ度ヲ用フ
 - 三 水筒計ノ吸力ハ純ニテ示ス
 - 四 溫度ハ百分率ニテ示ス
 - 五 風ノ方向ハ其ノ吹來スル所ニ依リ北北東東北東東等ノ十六方位ニ區別ス但氣象電報ニ於テハ北北東東等ノ八方位ニ區別ス
 - 六 風ノ速度ハ一秒時間ニ於ケル米ノ數ニ依テ示ス但風力計ノ設備ナキトキハ零ヨリ六マテノ數ヲ用フ
 - 七 雲ノ方向ハ北北東東等ノ八方位ニ區別ス其ノ方向ヲ定ムル法ハ風ニ同シ
 - 八 雲ノ速度ハ順序ニ依リ緩急急ノ三種ニ分ツ
 - 九 雲量ハ滿天計ト爲ナキヲ零トシ滿天雲ニ數ハルノヨリ十マテノ數ヲ以テ示ス
 - 十 雲形ハ非雨ノ式ニ依リOSOKOSKKNKN等ヲ以テ示ス
 - 十一 雨等ノ水柱ハ純ニテ示ス
 - 十二 天氣ハ左ノ如ク區別ス
 - 一 日中平均雲量ニ未滿ナルトキ
 - 一 同上ニ入米滿ナルトキ
 - 一 同上以上ナルトキ
 - 一 日中ノ水柱〇以上ニ達シタルトキ
- 降雪並ニ雷鳴アルトキ
水柱ノ多少ニ指ラヌ等ノ降リタルトキ
同上等ノ降リタルトキ

電 同上等ノ降リタルトキ
觀測所ノ器ニ關マレタルトキ

第四條 氣象月報氣象年報暴風通則雷雨通則地震通則電報通則ノ機式ハ之ニ相當スル中央氣象臺所用ノ報告機式ニ準據ス

第八條 測器廠及海軍艦艦ニ於テ警報電報若クハ豫報電報ヲ受ケ之ヲ指示スルニハ中央氣象臺所定ノ氣象情報機式ニ依ル

第十條 艦船暴風機ノ設置ナキハ四國海軍ニ在リ氣象ノ情報ヲ知ラント欲セハ之ヲ其ノ地所管領守府ノ測器廠ニ請求スヘシ

○海軍省通第六十二號
軍艦ニ搭載スヘキ端舟ノ定數標準左表ノ通定ム

明治三十六年六月十六日 海軍大臣野村山本權兵衛

船種	一等巡洋艦	二等巡洋艦	三等巡洋艦	海防艦	一等砲艦	二等砲艦	通報艦
ランヂ	一	一	一	一	一	一	一
ピンネ	一	一	一	一	一	一	一
カタター	三	三	三	三	三	三	三
ボツ	三	三	三	三	三	三	三
通船	二	二	二	二	二	二	二
外艦艇	一	一	一	一	一	一	一
計	一〇	一〇	八	七	七	五	五

備考 一 海防艦及砲艦ニシテ現ニ本表ノ標準以外ニ「ギツレ」(Gull)「ラウ」(Lau)ヲ搭載スルモノハ之ヲ同數ノ通船ト交換スルコトヲ得

二 本表ニ掲ケサル艦種ニ搭載スヘキ端舟ノ數ハ當分ノ内現在ノ通トス

○海軍省達第六十三號
鎮守府處務規程第二十二條中ニ左ノ一號ヲ加フ

明治三十六年六月十七日
六 鎮守府在籍艦船ノ造修經歷ニ關スルコト

〔參照〕
海軍省達第六十號鎮守府處務規程(明治三十四年五月十四日)抄錄
第二十二條 艦政部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

○海軍省達第六十四號
鳥羽需品支庫ヲ廢ス

明治三十六年六月十八日
○海軍省達第六十五號

海軍造船材料試驗規格別表ノ通定ム (別表略ス)
但別表ニ掲ケサルモノハ明治十九年要第一〇三號鋼材鐵材試驗定則ニ依ルヘレ

明治三十六年六月十九日
○海軍省達第六十六號

端舟通船竝ニ傳馬船製造規定別表ノ通定ム

(別表)

海軍大臣男爵山本權兵衛

海軍大臣男爵山本權兵衛

海軍大臣男爵山本權兵衛

海軍大臣男爵山本權兵衛

端舟通船竝ニ傳馬船製造規定表

端舟種類	寸法		深	長	所用數	備用數
	長	幅				
四拾呎ランテ	四拾呎	拾呎八吋	四呎	拾七呎	八	八
參拾八呎ランテ	參拾八呎	拾呎四吋	參呎九吋	拾六呎	八	八

參拾貳呎ビシネース	參拾貳呎	九呎	參呎參吋	拾六呎	六	六
參拾呎ビシネース	參拾呎	八呎九吋	參呎貳吋	拾四呎	四	四
參拾呎カッター	參拾呎	八呎參吋	貳呎八吋半	拾四呎	四	四
貳拾八呎カッター	貳拾八呎	七呎六吋	貳呎六吋半	拾貳呎	四	四
貳拾六呎カッター	貳拾六呎	七呎四吋半	貳呎六吋	拾貳呎	四	四
貳拾參呎カッター	貳拾參呎	六呎拾參吋	貳呎四吋半	拾	四	四
貳拾呎カッター	貳拾呎	六呎四吋	貳呎參吋	拾	四	四
參拾呎ギョウ	參拾呎	五呎六吋	貳呎貳吋	拾	七	七
貳拾七呎ギョウ	貳拾七呎	五呎六吋	貳呎貳吋	拾	六	六
貳拾五呎ギョウ	貳拾五呎	五呎六吋	貳呎貳吋	拾	六	六
貳拾貳呎ギョウ	貳拾貳呎	五呎六吋	貳呎貳吋	拾	五	五

機受ニ關ル部(ホウ、水鏡ノ部分)鋼板鐵條ヲ用ス

考 備	傳馬船種類		法	深	常用數	數
	長	幅				
<small> 將來新造スヘキ端舟通船並ニ傳馬船ハ本規定ニ依ルヘシ 現在ノ端舟通船並ニ傳馬船ニシテ本規定ニ符合セザルモノハ使用ニ堪ヘサルニ至 リ廢却スルモノトス 通船ハ軍艦ニ搭乗スヘキモノニシテ傳馬船ハ部隊所ニ附屬セシムルモノトス 傳馬船ハ必要ニ應ジテ羅盤、ローラー、附屬シ又機數ノ内蓋蓋ハ機橋ヲ備付タルコ トヲ指 傳馬船中海兵團附屬ノモノニシテ三拾七呎ノモノハ北極數機又參拾四呎ノモ ノニハ蓋蓋ヲ備付タルモノトス 通船及傳馬船ニハ機帆ヲ付セザルモノトス </small>	參拾七呎傳馬船	參拾七呎	八呎七吋	貳呎九吋	參	
	參拾四呎傳馬船	參拾四呎	七呎六吋	貳呎七吋	參	
	參拾呎傳馬船	參拾呎	六呎八吋	貳呎五吋	參	
	貳拾七呎傳馬船	貳拾七呎	六呎七吋	貳呎參吋	參	
	貳拾參呎傳馬船	貳拾參呎	五呎參吋	貳呎	參	
	貳拾呎通船	貳拾呎	四呎拾壹吋	壹呎拾吋	貳	
	參拾七呎通船	參拾七呎	六呎八吋	貳呎五吋	參	
	貳拾參呎通船	貳拾參呎	五呎參吋	貳呎	參	
	貳拾呎通船	貳拾呎	四呎拾壹吋	壹呎拾吋	貳	
	貳拾呎傳馬船	貳拾呎	四呎拾壹吋	壹呎拾吋	貳	

○海軍省通第六十七號

艦船遺檢試驗檢査規則第七十五條ヲ削除ス

明治三十六年六月二十二日

海軍大臣 野村 浩平

【參照】

海軍省通第一號艦船遺檢試驗檢査規則(明治三十一年七月二日)抄録
 第七十五條 端舟及傳馬船附屬通船ノ新造スルモノハ第九號表ニ關部隊所附ノ傳馬船ヲ新造スルモノハ第九號表ノ二ニ掲
 げ規定シテ依ルヘシ

○海軍省通第六十八號

雜役船遺納及廢却手續中左ノ通改正ス

明治三十六年六月二十二日

海軍大臣 野村 浩平

第二條中司令長官ノ承認ヲ受クニ經テニ改ム

第六條 鎮守府司令長官所屬海軍港務部保管ノ船亦又ハ第九條ニ依リ團部長ニ保管セシメタル船
 舟ヲ團部所屬ニ附屬セシメントスルモノハ理由ヲ具シ海軍大臣ノ認許ヲ受クヘシ但一時ノ使
 用ハ鎮守府司令長官之ヲ許可シ其旨海軍大臣ニ報告スヘシ

第七條中報告スヘシノ下ニ一時使用ノモノ返納アリタルトキ亦同シヲ加フ
 第八條中其所屬ノ下ニ若クハ保管ノ五字ヲ追加ス

第九條 遺納ノ船舟ニシテ遺隔ノ地ニ在リ本鎮守府海軍港務部ニ回送シ難ク又ハ回送スルヲ不
 利益トスルトキハ鎮守府司令長官ハ其船所屬ノ團部長ヲシテ海軍港務部長ニ代テ之ヲ保管セ
 レムルコトヲ得此場合ニ於テハ第二條ノ價格ノ評定第四條ノ檢査認定並廢却處分ヲモ亦該團
 部長ヲシテ代テ爲サシムルモノト得但之ニ對スル並理及報告ハ總テ前各條ノ定ムル所ニ依ル

〔參照〕

海軍省第八十三號海軍艦隊及艦隊手帳(明治三十五年九月八日)抄録
 第二條 海軍艦隊部長選納船隻ノ受領シタルトキハ直ニ其選納元艦隊部校所名 船種 船名若ハ公稱番號 公稱番號ナキモノ
 八其要領(海軍省令) 選納ノ理由及受領ノ月日ヲ記シ附屬物目錄(海軍省令)ヲ添ヘ所管艦守府司令長官ノ承認ヲ
 受テ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ
 第六條 艦守府司令長官所屬海軍艦隊部保管ノ船隻ヲ艦隊部校所ニ附屬セシメントスルトキハ理由ヲ具シ海軍大臣ノ認許
 ヲ受テヘシ
 第七條 海軍艦隊部長保管ノ船隻ヲ其部ニ附屬セシメラレ若シハ一時使用ヲ許サレ又ハ他ノ艦隊部校所ニ引渡シ或ハ廢船
 舟トシテ海軍艦隊部ニ引渡シタルトキハ其理由及受領月日ヲ記シ直ニ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ
 第八條 艦隊部校所其所属ノ船隻ヲ亡失シタルトキハ其理由ヲ具シ水師鎮守府司令長官ニ報告シ(海軍省令) 艦
 守府司令長官ハ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ附屬物ヲ亡失シタル場合亦同シ

○海軍省第六十九號

海軍艦隊將校及機關官教育規則中左ノ通改正ス

明治三十六年六月二十六日

海軍大臣 野村 浩平

- 第十三條中十一月ヲ五月ニ改ム
- 第十五條中翌年三月十五日ヲ同年九月十五日ニ改ム
- 第十八條第一項中「五月末日」ヲ「十二月十五日」ニ改ム 第二項中「九月末日」ヲ「翌年四月末日」ニ改ム
- 第十九條第一項中「十月」ヲ「四月」ニ改ム
- 第二十條中九月末日ヲ翌年四月末日ニ改ム
- 第二十七條中六月三十日迄ニ前年度トアルヲ一月三十一日迄ニ其ノ前年ト改ム

〔參照〕

海軍省第八十九號海軍艦隊將校及機關官教育規則(明治三十四年九月十九日)抄録

第十三條 定期作業ハ基本長毎年十一月ニ於テ開班ヲ選ビ部下大尉以下ノ將校及大機關士以下ノ機關官ニ課スルモノトス
 第十五條 定期作業ヲ課セラルル將校及機關官ハ翌年三月十五日迄ニ作業ヲ畢リ其ノ答案ヲ所屬基本長ニ提出スルモノ
 トス(海軍省令)
 第十八條 基本長若シハ前基本長ハ前條ニ掲ケル所ノ作業ニシテ優等ナリト認ムルモノアルトキハ自己ノ批評ヲ附シ五月
 末日迄ニ作業ヲ所屬基本長ニ呈スヘシ(海軍省令)但シ前基本長ヨリ提出シタルトキハ之ヲ所屬基本長ニ通知スヘシ
 所屬基本長ハ前項ノ作業ヲ檢シテ批評ヲ加ヘ更ニ優等ノモノヲ選擇シ九月末日迄ニ海軍大臣ニ進達スヘシ但シ優等ナラザ
 ルモノハ基本長ヲ經テ本人ニ返付スルモノトス
 第十九條 臨時作業ハ所屬基本長必要ヲ認メタルトキ問題ヲ選ビ之ヲ部下大尉以上ノ將校若シハ大機關士以上ノ機關官ノ全
 部若シハ一部ニ課シ期限ヲ定メ其ノ答案ヲ課スルモノニシテ之ヲ課スルハ十月ニ於テスルヲ例トス但シ臨時作業ヲ課
 セラルルモノニ對シ基本長ハ其ノ年度ノ定期作業ヲ課スルモノトナシ
 第二十條 所屬基本長ハ臨時作業ノ答案ヲ檢シ之ニ批評ヲ加ヘテ本人ニ返付シ其ノ優等ナルモノハ九月末日迄ニ海軍大臣ニ
 進達スヘシ
 第二十七條 基本長ハ毎年六月三十日迄ニ前年度ノ作業實施報告ヲ所屬基本長ニ提出シ(海軍省令)所屬基本長ハ之ヲ教育本部
 長ニ移スヘシ

○海軍省第七十號

明治三十六年六月三十日 海軍大臣 野村 浩平

海軍大臣 野村 浩平

第四條 艦隊部校所等ニ於テ定數外ノ兵器ヲ要スルカ若ハ定數ヲ變更セントスルトキハ所屬基本長
 ニ具申スヘシ所屬基本長之ヲ必要ト認メタルトキハ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ鎮守府司令長
 官ニアラサル長官ハ艦隊部校所ノモノニ就テハ本籍鎮守府司令長官ニ學校ヲ除ク練習所ノモノニ
 就テハ其所在軍港鎮守府司令長官ニ豫メ協議スルヲ要ス
 前項ノ場合ニ當リ据付又ハ取外ノ爲工費ヲ要スルトキハ兵器造修供給規則第八條後段ニ準シ工
 事方算日子及入費概算等ヲ添付スヘシ

種	式	地	表		下		表		
			式	地	式	地	式	領	袖
右側章	深黒紺羅紗	山形長サ一尺五寸高サ凡四寸五分ト定ム トモ口ノ大小ニヨリ少ク伸縮ヲ加フ 襟ノ縁ニ白ノ飾毛ヲ附ス	金銀五七ノ桐連五分トス距離二寸	同上	同上	同上	同上	同上	同上
左側章	深黒紺羅紗	山形長サ一尺五寸高サ凡四寸五分ト定ム トモ口ノ大小ニヨリ少ク伸縮ヲ加フ 襟ノ縁ニ白ノ飾毛ヲ附ス	金銀五七ノ桐連五分トス距離二寸	同上	同上	同上	同上	同上	同上
前襟	深黒紺羅紗	山形長サ一尺五寸高サ凡四寸五分ト定ム トモ口ノ大小ニヨリ少ク伸縮ヲ加フ 襟ノ縁ニ白ノ飾毛ヲ附ス	金銀五七ノ桐連五分トス距離二寸	同上	同上	同上	同上	同上	同上
袖口	深黒紺羅紗	山形長サ一尺五寸高サ凡四寸五分ト定ム トモ口ノ大小ニヨリ少ク伸縮ヲ加フ 襟ノ縁ニ白ノ飾毛ヲ附ス	金銀五七ノ桐連五分トス距離二寸	同上	同上	同上	同上	同上	同上
裾	深黒紺羅紗	山形長サ一尺五寸高サ凡四寸五分ト定ム トモ口ノ大小ニヨリ少ク伸縮ヲ加フ 襟ノ縁ニ白ノ飾毛ヲ附ス	金銀五七ノ桐連五分トス距離二寸	同上	同上	同上	同上	同上	同上

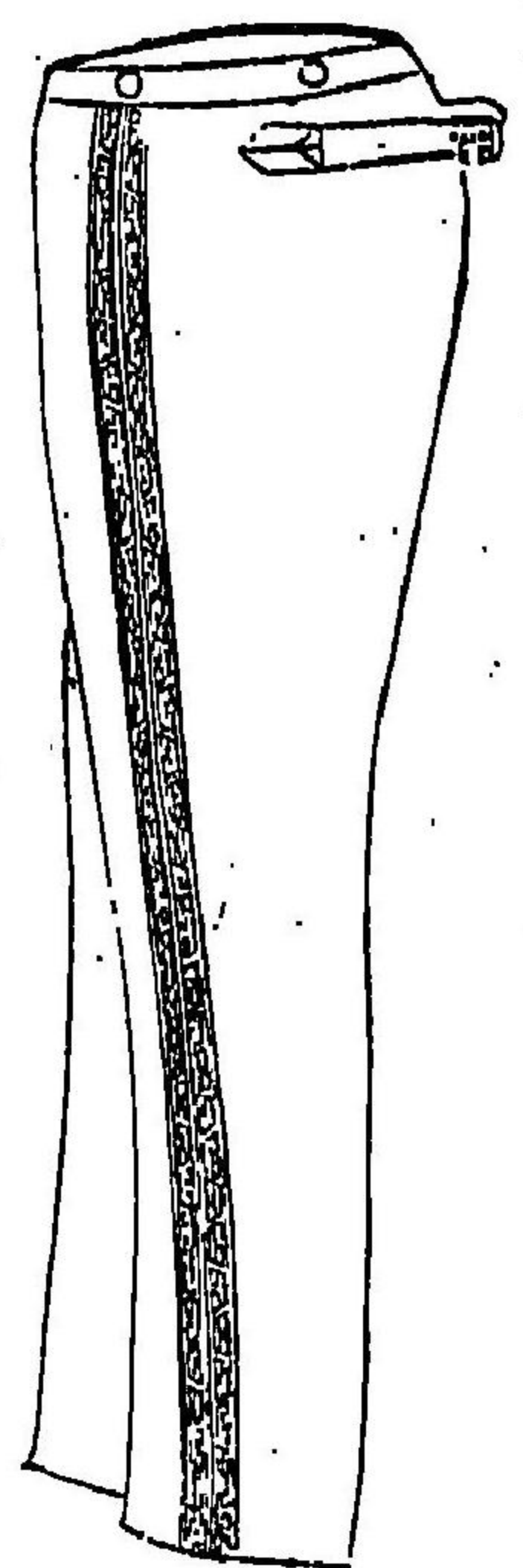
明治三十六年七月 陸軍省甲第六號



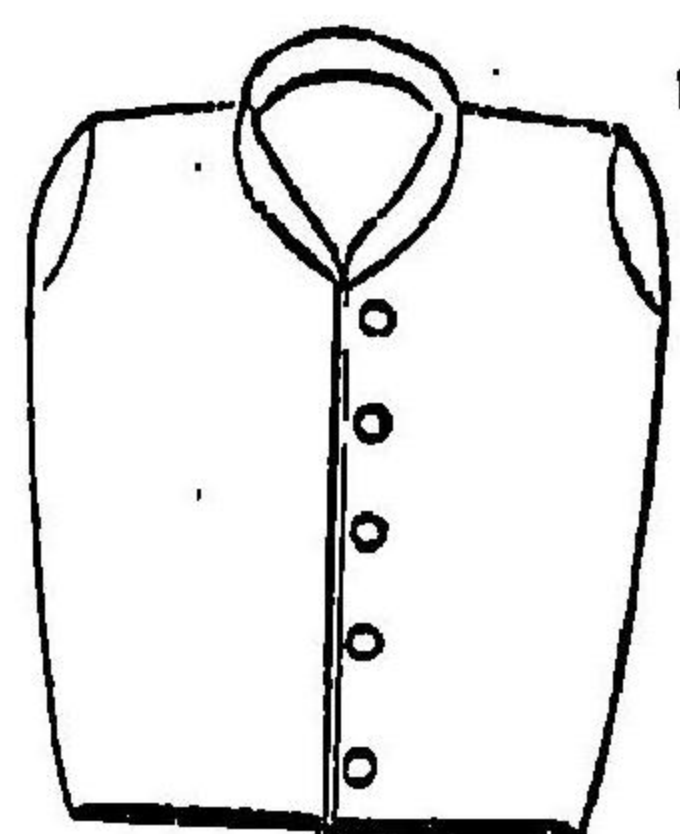
大正 大正 大正

種	式	地
右側章	深黒紺羅紗	山形長サ一尺五寸高サ凡四寸五分ト定ム トモ口ノ大小ニヨリ少ク伸縮ヲ加フ 襟ノ縁ニ白ノ飾毛ヲ附ス
左側章	深黒紺羅紗	山形長サ一尺五寸高サ凡四寸五分ト定ム トモ口ノ大小ニヨリ少ク伸縮ヲ加フ 襟ノ縁ニ白ノ飾毛ヲ附ス
前襟	深黒紺羅紗	山形長サ一尺五寸高サ凡四寸五分ト定ム トモ口ノ大小ニヨリ少ク伸縮ヲ加フ 襟ノ縁ニ白ノ飾毛ヲ附ス
袖口	深黒紺羅紗	山形長サ一尺五寸高サ凡四寸五分ト定ム トモ口ノ大小ニヨリ少ク伸縮ヲ加フ 襟ノ縁ニ白ノ飾毛ヲ附ス
裾	深黒紺羅紗	山形長サ一尺五寸高サ凡四寸五分ト定ム トモ口ノ大小ニヨリ少ク伸縮ヲ加フ 襟ノ縁ニ白ノ飾毛ヲ附ス

明治三十六年七月 繪 宮内省甲部六號

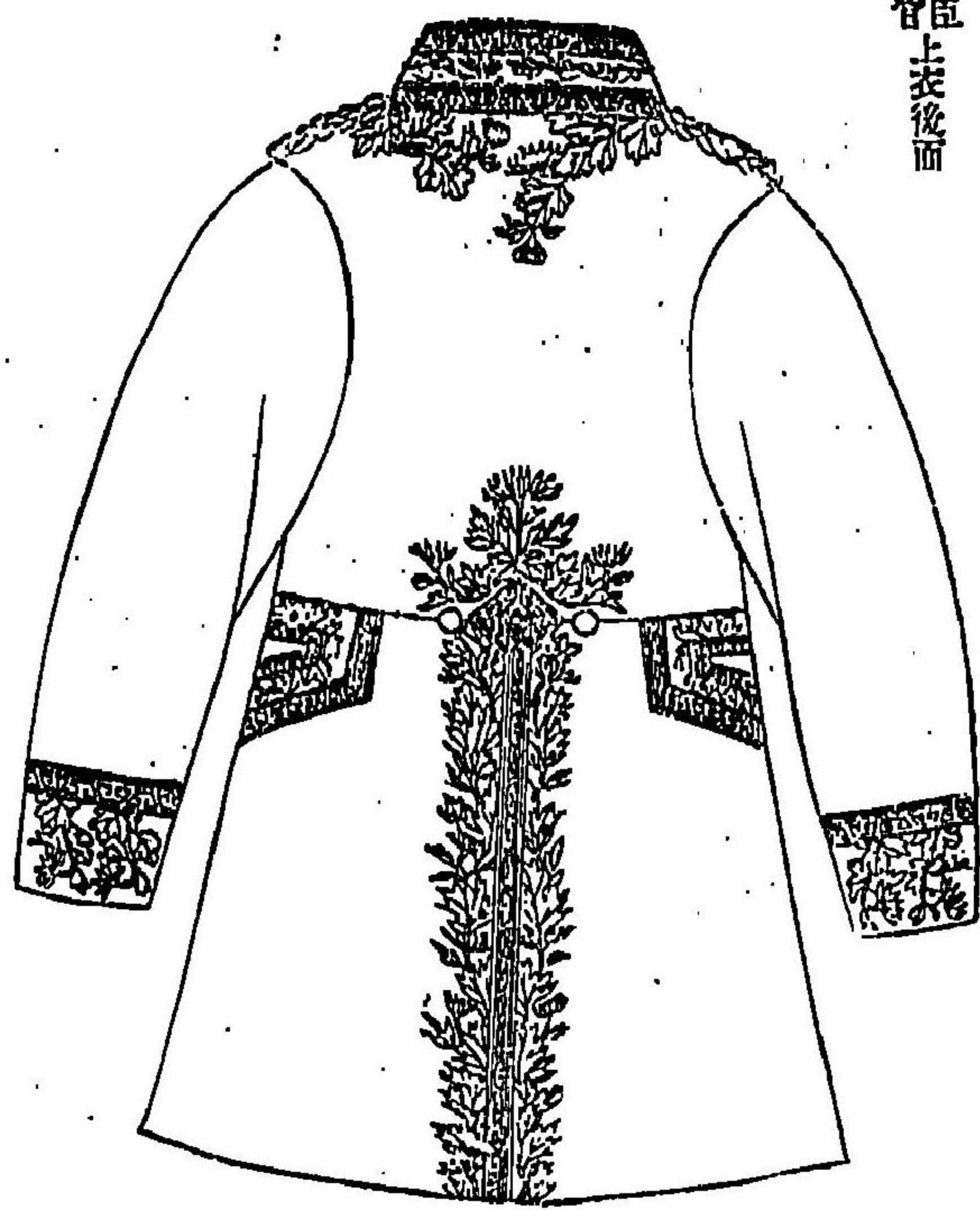


大臣袴



大臣下衣

明治三十六年七月 繪 宮内省甲部六號



大臣上衣後面

圖樣三十六年七月 繪 宮內省軍裝六號



繪 圖樣三十六年七月

一九〇

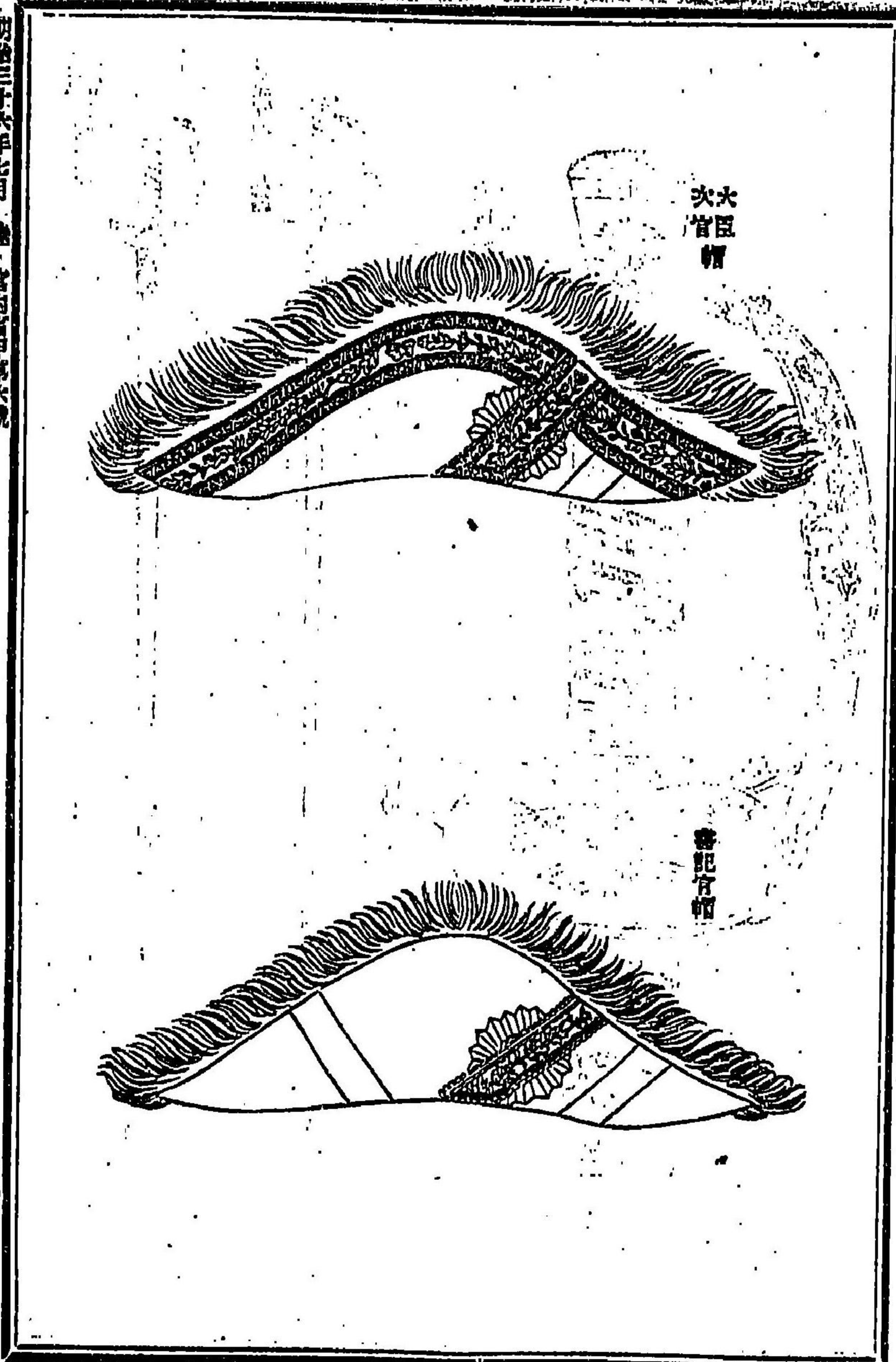
圖樣三十六年七月 繪 宮內省軍裝六號



繪 圖樣三十六年七月

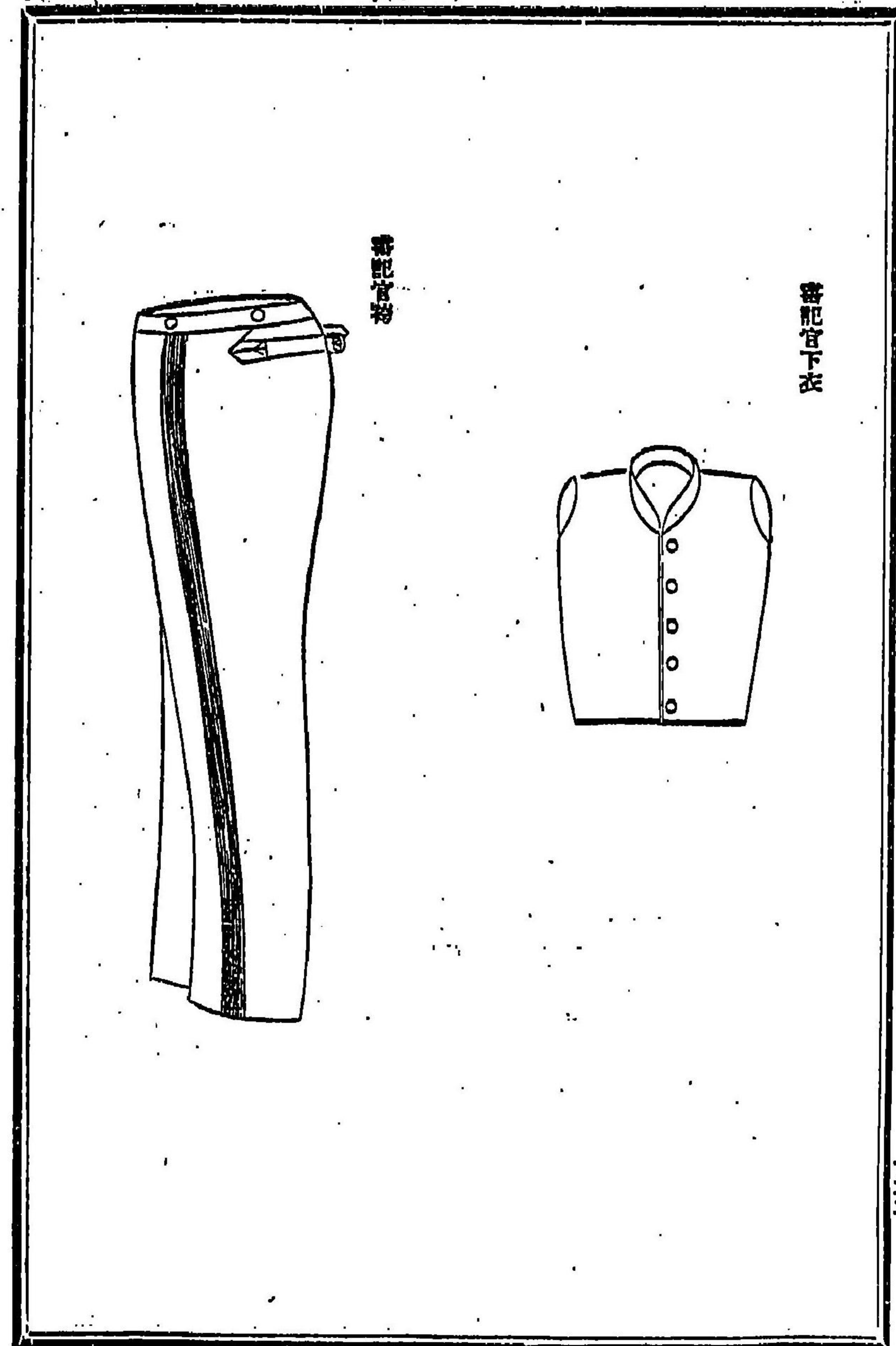
一九〇

明治三十六年七月 繪 宮内省甲第六號



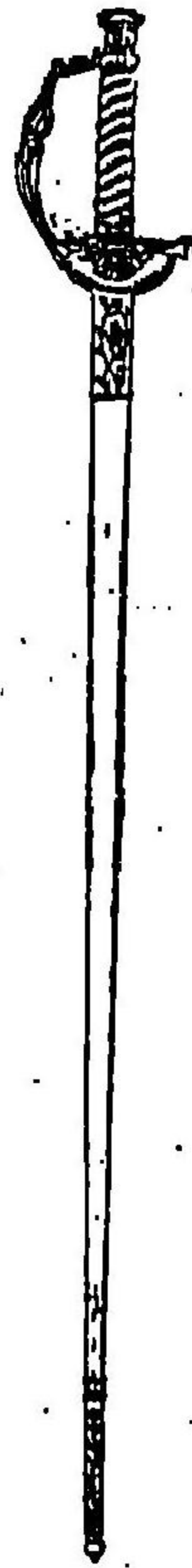
一九三

明治三十六年七月 繪 宮内省甲第六號

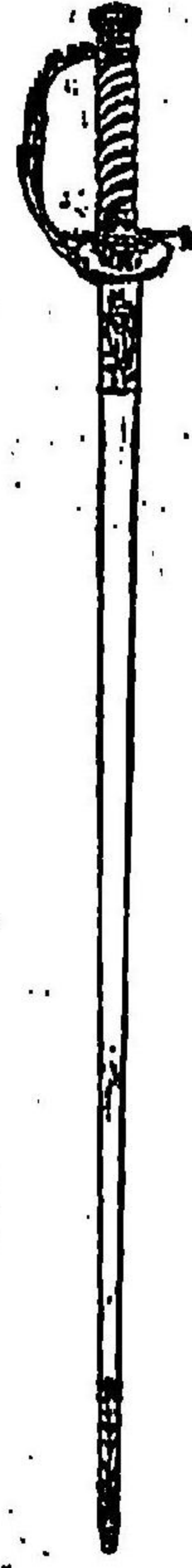


一九三

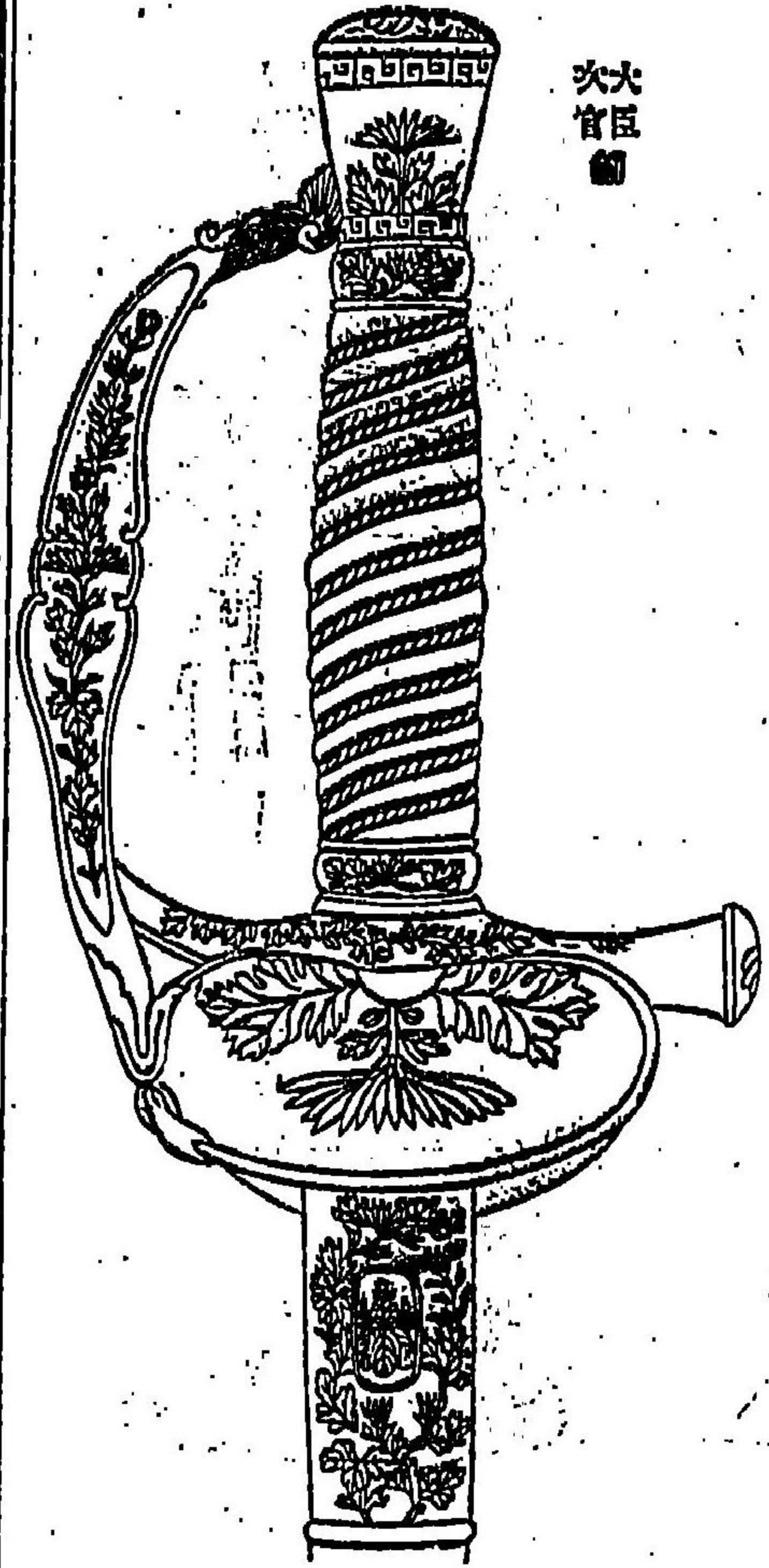
大臣
佩帶腰刀



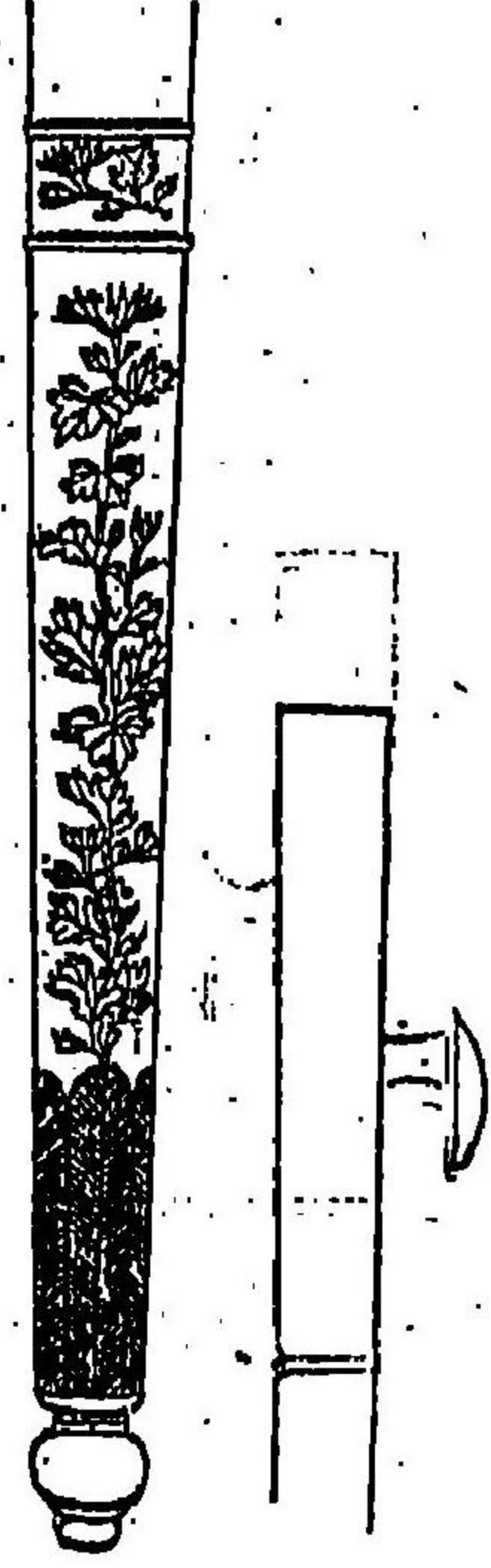
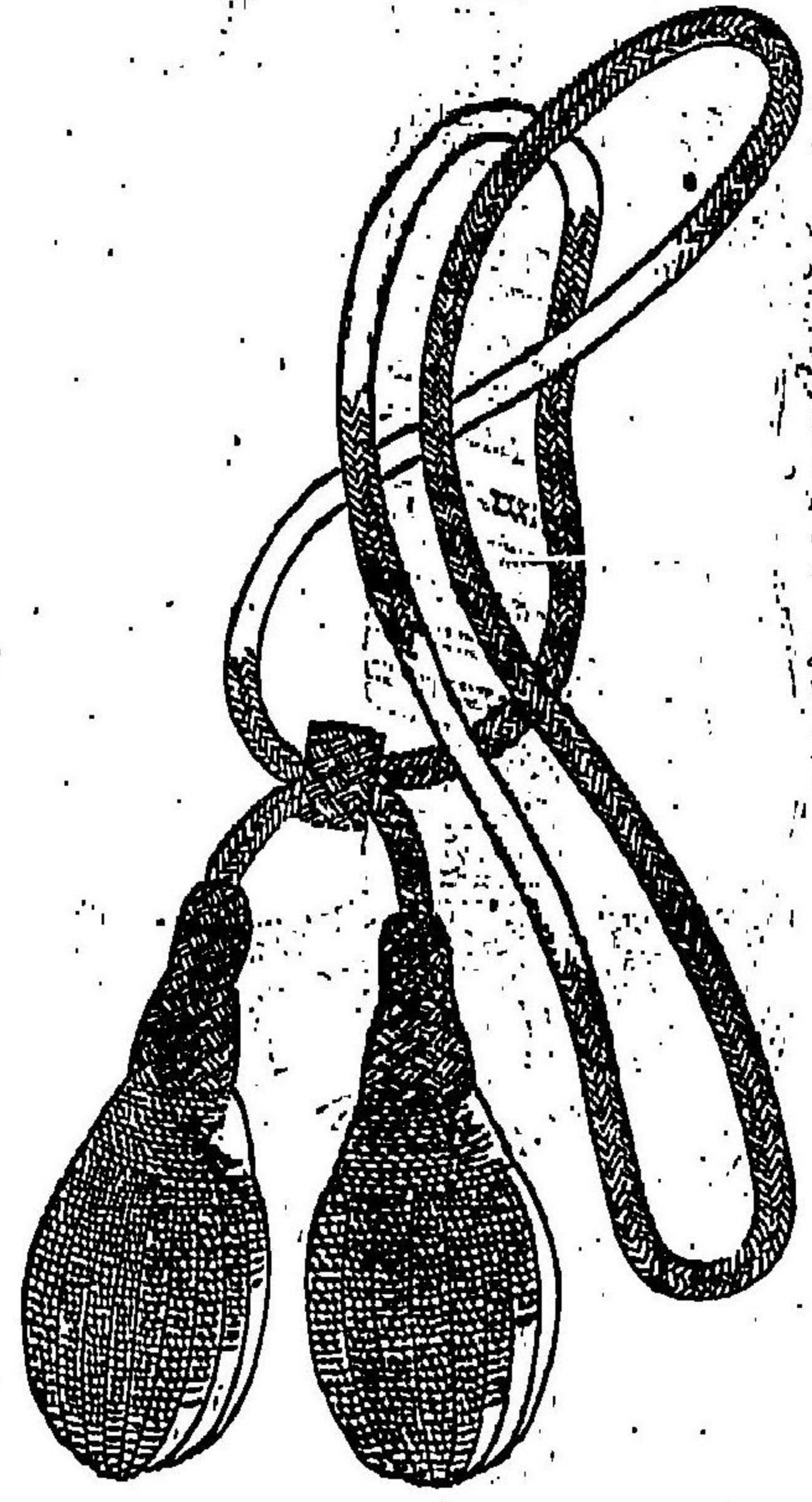
備用腰刀

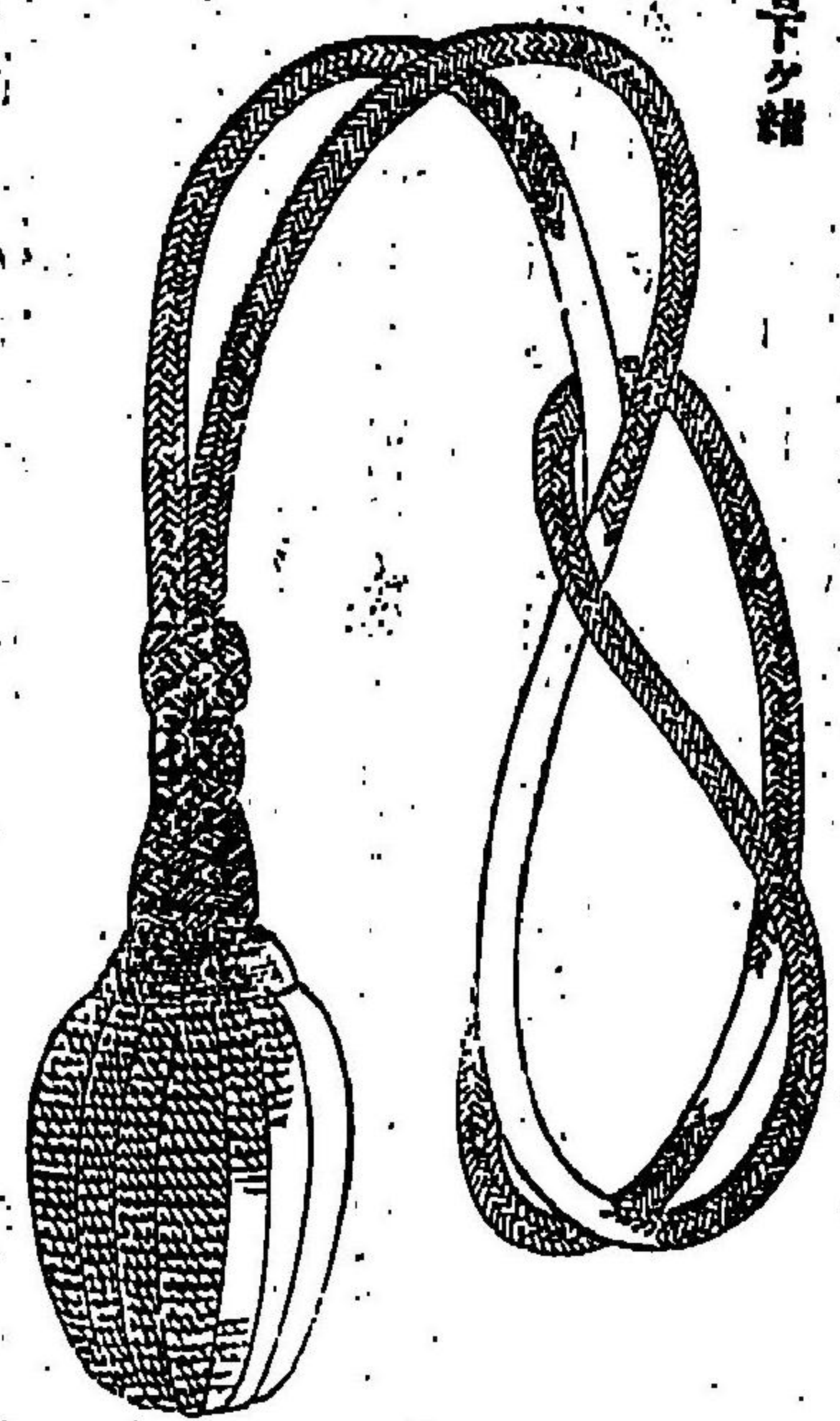


次大臣
佩帶

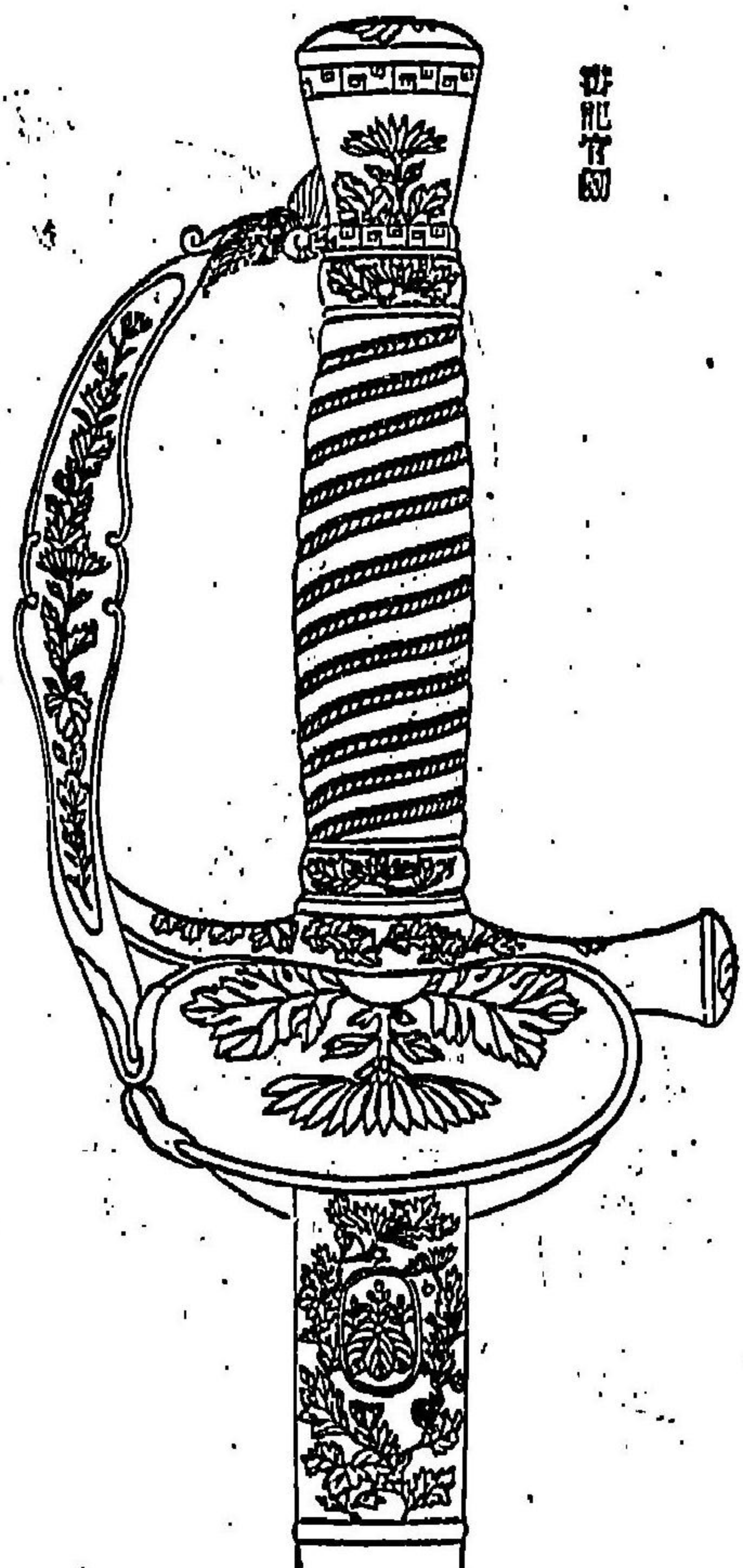
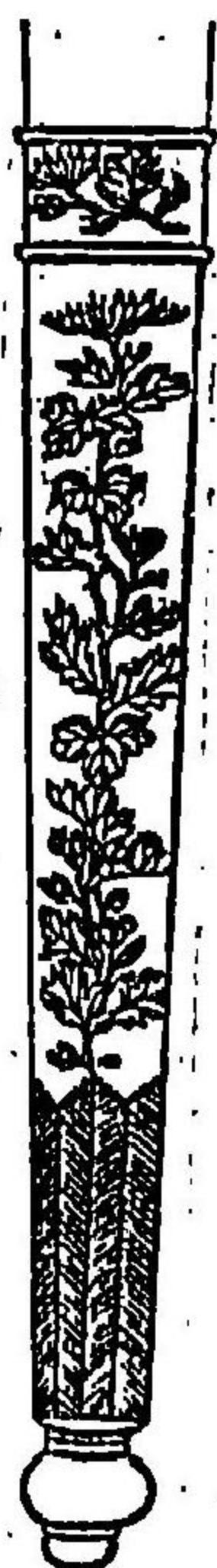


大臣
下夕緒

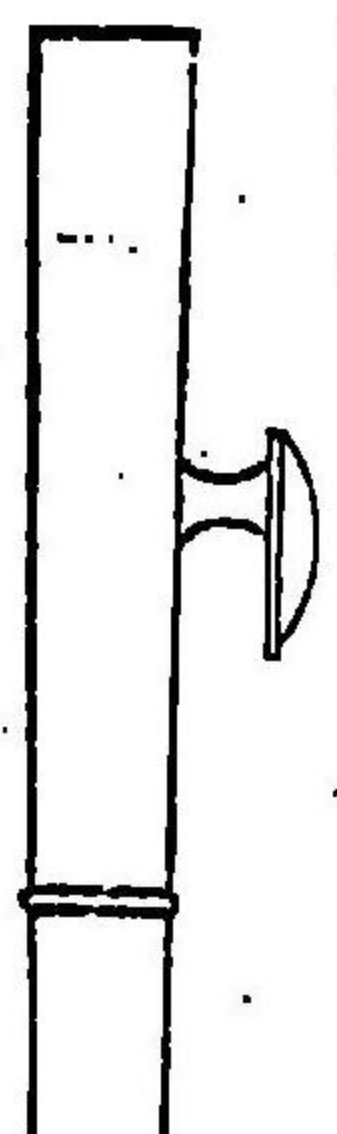




帶記下之帶



帶記下之帶



備考	第九		第十		第十一		第十二	
	工	歩	工	歩	工	歩	工	歩
(一) 歩兵隊ヨリ分遣スル副隊員中ニハ校長ノ請求ニ依リ該隊ヲ混用スルコトヲ得								
(二) 電信隊大隊ハ分遣ノ副隊員ハ該隊年次ニ於テハ該隊隊員ノ副隊員ヨリ偶數年次ニ於テハ偶數年次ノ副隊員ヨリ分遣スルモノトス								

○陸軍第七十號
陸軍給與令細則中左ノ通り改正ス

明治三十六年七月十日

陸軍大臣寺内正毅

第二表中左ノ如ク改ム
襟布ノ欄内「地方幼年學校生徒ヲ」地方幼年學校特待生ニ改ム
「軍學學校生徒ヲ」戸山學校畢業生徒ニ改ム
「中央幼年學校」ノ下ニ「本科ヲ加ヘ」地方幼年學校ノ上ニ「中央幼年學校豫科及ヲ加フ

第三表中左ノ如ク改ム
軍樂學校ノ欄ヲ削ム
宿舎用及休養室用ノ欄中央幼年學校ノ區畫ヲ左ノ如ク改ム

第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十	第十一	第十二	第十三	第十四	第十五	第十六	第十七	第十八	第十九	第二十
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

第五表中「中央幼年學校」ヲ「中央幼年學校本科」ニ「地方幼年學校(仙臺)」ヲ「中央幼年學校豫科及地方幼年學校(仙臺)」ニ「軍樂學校生徒」ヲ「戸山學校畢業生徒」ニ改ム

○陸軍第七十一號
明治三十四年陸軍第五十六號陸軍報告例中左ノ通り改正ス

陸軍大臣寺内正毅

第三條中「教育總監部」ノ次ニ「陸軍技術審査部」陸軍兵器本廠「砲兵工廠」陸軍監督部」ノ次ニ「陸軍

經理學校ヲ加ヘ兵器監部陸軍砲兵會館陸軍工兵會館及臨時陸軍建築部ヲ削ル

目次第一類甲中ノ何部廢止所ノ學校ノ下會館ヲ削ル

同ノ中豫備役後備役准士官及下士官屬下ノ下ニ命之丙ヲ加フ

同ノ中軍隊及兵器木支廠保管兵器現數一覽表第六十九表「服用被服不足一覽表第七十表」服用

糧秣器具材料「總備一覽表第七十一表」及注意ヲ削ル

(表改正追加アリキ)

○陸軍第七十二號

陸軍禮式附録中左ノ通改正ス

明治三十六年七月十八日

第二十三條中共三第一號閉收間隔ニ於ケル閉縮ノヲ削ル

(表改正追加アリキ)

○海軍省通達第七十一號

海軍兵備品會計規程中左ノ通改正ス

明治三十六年七月四日

第十二條但書中「分任兵備品會計官吏」ヲ削除ス

第三十五條ニ左ノ一項ヲ加フ

兵備品會計官吏若シ分任兵備品會計官吏物品出納證明上懸憑書トシテ會計檢査院ニ提出スヘキ

モノノ内物品出納證明規程第五條第一號ノ懸憑書類ハ同號但書ニ基キ所轄長ノ保證書ヲ以テ代

用スルコトヲ得

第三十七條中「海軍省」由書ヲ添ヘ「海軍省」由書及檢閱官ノ證明書ヲ添ヘ「改ム

(表改正追加アリキ)

陸軍大臣寺内正毅

海軍大臣野村權兵衛

○海軍省通達第七十二號

海軍砲術操式別冊ノ通定

但別冊ノ體圖部用ノ分ノ繪圖用品ヨリ供給シ共ノ他ノ之ヲ要スル向ニ海軍教育本部ヨリ配附ス

(別冊アリ)

明治三十六年七月十五日

○海軍省通達第七十五號

明治三十六年七月十五日

[參照]

明治三十六年七月十五日

○海軍省通達第七十四號

明治三十六年七月十五日

明治三十三年通達第七十九號證書及證書書式第十八號中「海軍造船工練習所職工」トアルヲ「練習職

工」ト改ム

明治三十六年七月十六日

○海軍省通達第七十五號

明治三十六年七月十六日

鎮守府司令官若シ工場ヲ管轄スル屬長ハ明治三十二年勅令第四百四十八號ニ依リ定時間外ニ服

業スル技手ニ毎年度令示豫算定額ノ範圍内ニ於テ適宜別表金額以內ノ額ヲ給與スルコトヲ得但シ

定時間外トハ明治三十六年通達第三號執務時間外ヲ謂フ

前項ノ金額ハ前月二十一日ヨリ共ノ月二十日マテノ分ヲ毎月下旬之ヲ支給ス

本條ハ明治三十六年七月二十一日ヨリ施行ス

海軍大臣野村權兵衛

明治三十二年達第百九十七號ハ本達施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
明治三十六年七月二十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

(別表)

定時間外服業日額表

等級	時間	一時間以上	二時間以上	三時間以上	四時間以上	五時間以上
一等	俸	十七錢	三十五錢	四十二錢	五十錢	六十錢
二等	俸	十五錢	三十錢	三十六錢	四十五錢	五十五錢
三等	俸	十二錢	二十五錢	三十錢	四十錢	五十錢
四等	俸	十錢	二十錢	二十五錢	三十五錢	四十五錢
五等	俸	十錢	二十錢	二十五錢	三十五錢	四十五錢
六等	俸	十錢	二十錢	二十五錢	三十五錢	四十五錢
七等	俸	十錢	二十錢	二十五錢	三十五錢	四十五錢
八等	俸	十錢	二十錢	二十五錢	三十五錢	四十五錢
九等	俸	十錢	二十錢	二十五錢	三十五錢	四十五錢

公暇日ニ服業セシムルモ明治三十六年達第三號職務時間外ニ及ハサレハ本表ノ金額ヲ支給セス

(參照)

明治三十二年十二月ニ海軍省達第百九十七號ハ定時間外服業ノ按手ニ給與日額ノ件ナリ
○海軍省達第七十六號

雇員備入給與規則中第四表ヲ左ノ通改正ス

工場諸技生定時間外増給表

等級	時間	一時間以上	二時間以上	三時間以上	四時間以上	五時間以上
一等	十	二十錢	二十八錢	三十五錢	四十五錢	
二等	十	十八錢	二十五錢	三十二錢	四十二錢	
三等	十	十八錢	二十五錢	三十二錢	四十二錢	

本達ハ明治三十六年七月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十六年七月二十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第七十七號

雇員備入規則別表三笠ノ次ニ左ノ欄ヲ加フ

明治三十六年七月二十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

八十錢以下	七	十	十五	二十	二十八	三十八
六十錢以下	六	十	十二	十八	二十五	三十五
四十錢以下	四	八	十	十五	二十	三十
新	高	一	一	一	一	一
尉	馬	一	一	一	一	一
宇	治	一	二	五	二	一

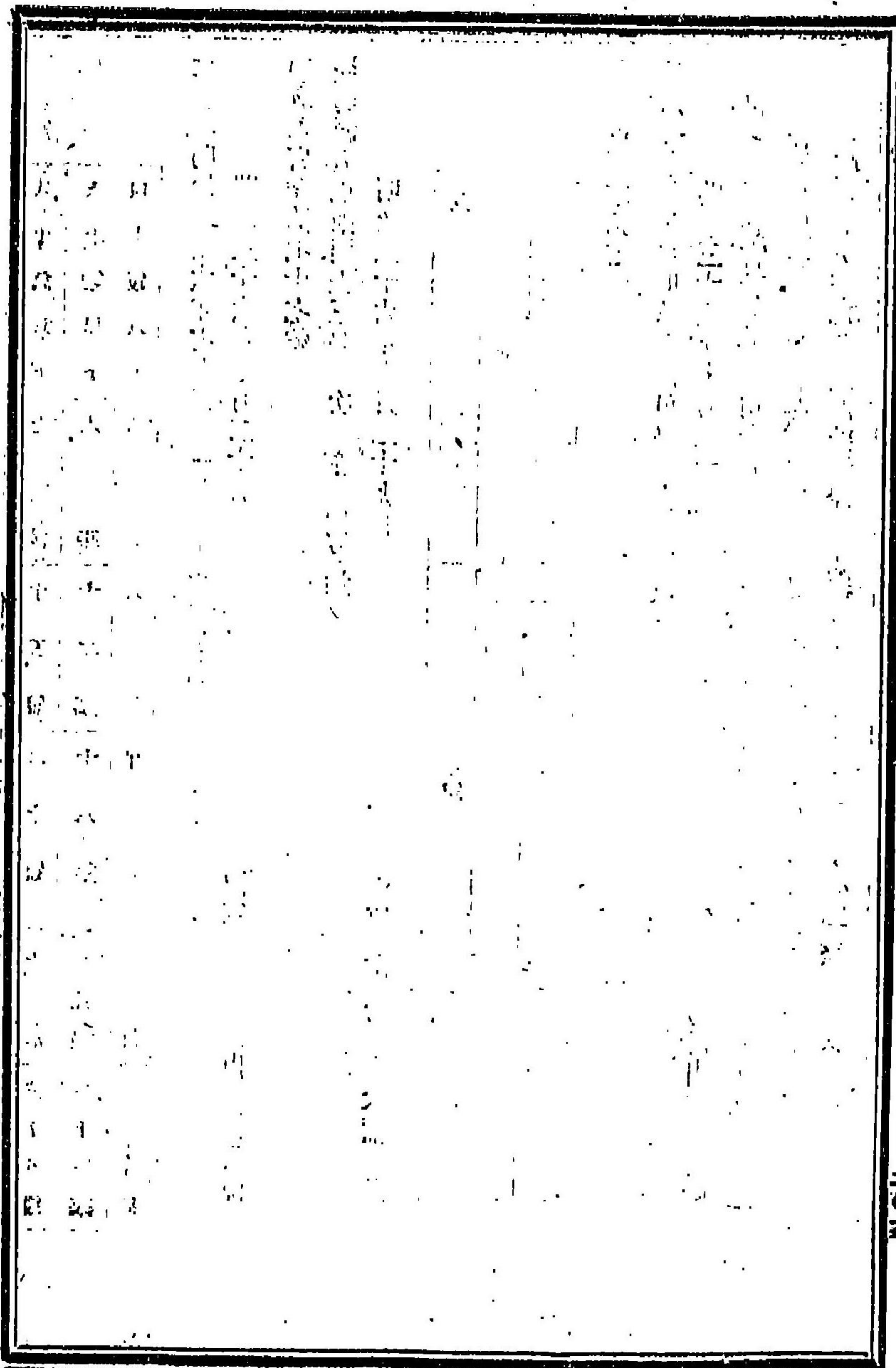
○海軍省達第七十八號

艦船發着報告規則第七條但書ヲ左ノ通改ム

明治三十六年七月二十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

但シ所屬長官若ハ所屬司令官モ亦外國ニ在ルトキハ海軍大臣ニ報告スルト同時ニ之ニ報告シ佐
世保領守府在籍ノ艦船隊所屬ノ竹敷要港部所屬ノ艦船ニシテ平時韓國南岸ニ、馬公要港部所屬
ノ艦船ニシテ平時清國南部沿岸ニ派遣セシメラル、モノハ第一條ニ準スルモノトス



○陸軍第七十三號

衛生材料取扱規則中左ノ通改正ス

明治三十六年八月六日

陸軍大臣寺内正毅

第六章標記中交換ノ下ニ返納ヲ加フ

第七條返納ヲ削リ

第二十一條ヲ削リ第二十二條ヲ第二十一條ニ改ム

第八章毀損廢品ヲ第七章過剰品廢品ニ改ム

第二十三條ノ前ニ左ノ一條ヲ加フ

第二十二條 定數若クハ制式改正等ノ爲生シタル衛生材料過剰品ハ之ヲ職用衛生材料豫備品ニ移

スモノトス

(表中改正加除アリ略ス)

○陸軍第七十四號

陸軍將校同相當官實役停年名簿及服役停年名簿編纂規則左ノ通定ム

但シ明治二十五年七月陸軍第六十號ハ之ヲ廢止ス

明治三十六年八月六日

陸軍大臣寺内正毅

陸軍將校同相當官實役停年名簿及服役停年名簿編纂規則

第一條 實役停年名簿及服役停年名簿ハ共ニ毎年七月一日朔ヲ以テ編纂ス

第二條 實役停年名簿ハ現役將校同相當官ノ實役停年任官年月日職名位勳功爵學位氏名族籍年齢及在職現役將校ノ列次ヲ登錄ス

第三條 實役停年名簿ハ左ノ各號ニ依リ編纂ス

- 一 將官同相管官ハ各官ニ區分ス
- 二 歩騎砲工輜重兵科ノ大尉以上憲兵科及各部ノ上長官士官ハ各兵科各部毎ニ各官ニ區分ス
- 三 歩騎砲工輜重兵科ノ中少尉ハ各將校團毎ニ各官ニ區分ス
- 四 休職停職ノ將校同相管官ハ將官同相管官各兵科各部毎ニ各官ニ區分ス
- 第四條 前條各官ノ順序ハ左ノ各號ニ依ル
 - 一 實役停年ノ多キ者ヲ上位ニ列ス
 - 二 同日任官ノ者ニ在テハ官級登載ノ順序ニ依ル
 - 三 休職停職ヨリ就職シタル者ニ在テハ他ニ同停年者アルトキハ先任者ヲ上位ニ列ス
 - 四 轉科ニ由リシ者ヲ含ムル者ハ原兵科ノ停年ヲ通算シテ順序ヲ定ム但シ同日任官ノ者ニ在テハ前任官ノ順序ニ依リ從前ノ任官凡テ同日ナルトキハ年齢ノ多キ者ヲ上位ニ列ス
 - 第五條 在職現役將校ノ列次ハ前條第一第二第三號ニ準シ各兵科ヲ進シ各官毎ニ一連ノ番號ヲ附ス但シ臺灣在勤ノ加算停年ハ之ヲ除算スルモノトス
 - 第六條 實役停年ハ辭令書日附ノ日ヨリ起算シ曆ニ從ヒ年月及日數ヲ以テ計算ス其ノ端日數ハ通算シテ起算ノ月ノ日數ニ滿ルトキハ一箇月トス
 - 第七條 服役停年名簿ハ豫備役後備役將校同相管官ノ服役停年各服役年任官年月日職名位勳功爵學位氏名族籍年齢ヲ登錄ス
 - 第八條 服役停年名簿ハ左ノ各號ニ依リ編纂ス
 - 一 豫備役ト後備役トニ區分ス

二 將官同相管官ハ各官ニ區分ス

三 上長官士官ハ各兵科各部毎ニ各官ニ區分ス

第九條 前條各官ノ順序ハ各役ヲ通算シ其服役停年ノ多キ者ヲ上位ニ列ス但シ同日任官ノ者ニ在テハ官級登載ノ順序ニ依ルモノトス

第十條 第六條ノ規定ハ服役停年及各服役年ノ計算ニ之ヲ準用ス

〔參照〕

明治二十五年七月陸軍第六十號ハ停年名簿編纂規則ナリ

○陸軍第七十五號

明治二十五年陸軍第四十一號陸軍工事請負及物件購買規程第三條第六號中「干草」ノ上ニ「燕麥」ヲ加フ

明治三十六年八月十一日

陸軍大臣寺內正毅

〔參照〕

陸軍第四十一號陸軍工事請負及物件購買規程(明治三十五年四月一日)抄紙

第三條 會計法第五十四條第四號ニ依リ附屬契約ニ依ルコトヲ得ル物品左ノ如シ

○陸軍第七十六號

本年陸軍第五十一號陸軍省處務細則第二十一條中重要ナルモノノ下ニ「及定規先例ナキモノ」ヲ加フ

明治三十六年八月十九日

陸軍大臣寺內正毅

【參照】

陸軍省第五十一號陸軍省處務規則(明治三十六年五月一日)抄録
第二十一條 副達文書ノ内重要ナルモノハ高級副官ヨリ大臣及總務長官ノ査閱ニ供シ處分ノ指揮ヲ承クヘシ

○陸軍第七十七號

本年陸軍第四十四號陸軍平時備入定員表中陸地測量部ノ棚内「驗一〇」ヲ「驗一二」「驗一三」「驗一四」ヲ「驗一六」ニ改メ備考四中軍馬補充部支部ノ「下」ニ「蹄鐵工及」ヲ加フ

明治三十六年八月十九日

陸軍大臣寺内正毅

○海軍省第七十九號

臺灣總督府海軍部及海軍探炭所ノ會計監督ハ鎮守府會計監督規程ニ依リ佐世保鎮守府經理部ニ於テ施行ス

明治三十六年八月七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省第八十號

明治三十年ノ達第百三十六號中「經理局ノ所掌トシテ」ヲ「經理局ノ所掌トス」ニ改メ「新原ニ在テハ」以下二十字ヲ删除シ第六號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

七 歳入歳出外現金出納計算書ノ下検査ヲ執行スルコト

明治三十六年八月七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省第八十一號

明治二十九年ノ達第九十號職工用被服物品貸與規程中左ノ通り改正ス

明治三十六年八月十三日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第一條中「頭巾」ノ次ニ

一 雨衣上衣

同上

二 雨衣袴

同上

三 雨衣帽

同上

ヲ加フ

製式中「頭巾」ノ次ニ

雨衣上衣

生厚綾木綿製蒸油ヲ塗リ黒角鈕三箇宛ニ行

雨衣袴

生厚綾木綿製蒸油ヲ塗ル

雨衣帽

生小針製蒸油ヲ塗ル

ヲ加フ

(製式圖アリ略ス)

○海軍省達第八十二號

明治二十三年達第百六十七號ヲ明治三十七年三月三十一日限り廢止ス

明治三十六年八月十三日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第八十三號

水雷艇日誌教令ノ部中左ノ通改ム

明治三十六年八月二十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第九條 水雷艇日誌摘要ニハ其ノ水雷艇ニ關スル一季中ノ要件ヲ摘載シ司令ノ査閱檢印ヲ受クヘ

○海軍省達第八十四號

明治三十四年達第百二十三號ヲ廢ス

明治三十六年八月二十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

〔參照〕

明治三十四年十月二日海軍省達第百二十三號ハ水雷艦日勝號要報告ヲ定ムル件ナリ

○海軍省達第八十五號

航泊日誌取扱及記載心得中左ノ通改ム

明治三十六年八月二十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第六條中「艦長ハ」ヲ「艦長(驅逐艦艦長ヲ除ク)ハ」ニ改ム

○海軍省達第八十六號

艦船造修試驗検査規則中左ノ通改ム

明治三十六年八月二十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第七章 總検査

第六十六條 削除

第六十七條 削除

第七十三條 削除

○海軍省達第八十七號

海軍軍樂隊操式別冊ノ通定ム

但別冊ハ艦團部用ノ分ハ艦營需品ヨリ供給シ共ノ他ハ之ヲ要スル向ニ海軍教育本部ヨリ配付ス (別冊略ス)

○海軍省達第八十八號

海軍大臣男爵山本權兵衛

横濱鎮守府在籍

軍艦

吳鎮守府在籍

軍艦

佐世保鎮守府在籍

軍艦

舞鶴鎮守府在籍

軍艦

鎮西

海軍大臣男爵山本權兵衛

海軍大臣男爵山本權兵衛

海軍大臣男爵山本權兵衛

右帝國軍艦籍ヨリ除カル

明治三十六年八月二十一日

○海軍省達第八十九號

軍艦及水雷艦類別等級別表中「鎮東」「鎮西」「鎮南」「鎮北」「鎮中」「鎮邊」ヲ削除ス

明治三十六年八月二十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○陸軍第七十八號
明治三十三年陸軍第八十五號中左ノ通改正ス

明治三十六年九月五日

陸軍大臣寺内正毅

五、戸山學校戰術科學生ハ毎年十月上旬體操科學生ハ毎年十一月下旬體操科學生ハ毎年十二月上旬及二月上旬軍樂生徒ハ毎年十二月一日

九、削除

明治三十六年ニ限リ戸山學校戰術科學生ノ入學時期ハ十一月下旬トス

(參照)

陸軍第八十五號(明治三十三年八月二十三日)抄録
陸軍工學校以下學校學生及生徒入學時期左ノ通改正ス
五、戸山學校戰術及射擊科學生ハ毎年九月上旬及翌年一月中旬體操科學生ハ毎年十月上旬
九、軍樂科學生ハ毎年十二月上旬及翌年二月上旬生徒ハ毎年十二月一日

○陸軍第七十九號

各部隊ニ支給スル厚毛布ニハ自今製造ノモノヨリ黒色縦線ノ織込ニ代ヘ共ノ一隅ニ徽章及製作年次ヲ左例ノ如ク黒色ニ捺染ス

明治三十六年九月十七日

陸軍大臣寺内正毅



○陸軍第八十號

履員備人給料支給規則備給表備考第二項ヲ左ノ如ク改正ス

明治三十六年九月二十五日

陸軍大臣寺內正毅

一 官廳ニ於テ小使給仕ヲ通シ五名以上ナルトキハ五名ニ付一名ノ割合ヲ以テ小使ニ一日金三錢ヲ増給スルコトヲ得

○陸軍第八十一號

馬匹補充及育成規則中左ノ通改正ス

明治三十六年九月二十五日

陸軍大臣寺內正毅

第二條 第四號ヲ削リ同條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第三條 憲兵隊ノ定期補充馬ハ軍隊學校ニ於ケル滿役馬中尙輕役ニ堪ヘキ馬匹ヲ以テ之ニ充ツ

前項ノ補充馬ハ軍馬補充部本部長適宜選定シ憲兵隊長ヲシテ當該部隊ヨリ之ヲ受領セシムヘシ但シ時宜ニ依リ其選定シ憲兵隊長ニ委任スルコトヲ得

第三條ヲ第四條ニ改メ同條中「諸部隊」ノ下ニ「憲兵隊」ヲ加フ

第四條ヲ第五條ニ改メ同條中「補重兵隊」ノ下ニ「憲兵隊」ヲ削リ「騎兵隊」ノ上ニ「憲兵隊」ヲ加ヘ「野戰砲兵隊」ヲ「砲兵隊」ニ改メ

第五條ヲ第六條ニ改メ以下順次繰下シ

〔參照〕

陸軍第九十三號馬匹補充及育成規則(明治三十三年九月八日)抄録

第二條 左ノ馬匹ハ壯馬(壯)ニ購買ノ儀ニ充ツル

一 憲兵隊ノ定期補充馬

第三條 憲兵隊定期補充馬ハ壯馬ニ購買シ若干月間軍馬補充部ニ於テ飼養シ且其時シテ之ニ充ツル

第四條 定期補充馬ノ交付時期ハ左ノ如シ但シ憲兵隊ニ在リテハ臨時ニテ定ム

騎兵隊 五月

砲兵隊 七月

騎兵補充學校 十一月

○陸軍第八十二號

馬匹取扱規則中左ノ通改正ス

明治三十六年九月二十五日

陸軍大臣寺內正毅

第二條 馬匹ハ憲兵隊、騎兵隊、砲兵隊、軍馬補充部、大學校、砲工學校、士官學校、中央幼年學校、騎兵實地學校、野戰砲兵射擊學校及要務砲兵射擊學校ニ於テ飼養シ其

保管及出納ハ當該部隊長各其責ニ任ス

第五條 第二條ノ部隊長(騎兵隊長及軍馬補充部長)ハ毎年馬匹補充期前ニ於テ滿役又ハ廣役ニ屬スル馬匹ヲ關

査シ所管長官ニ報告スル

所管長官ハ前項ノ滿役馬及廣役馬ヲ部下軍隊學校ノ在役馬ニ比較シ優ルモノアルトキハ彼此交

換セシメ最劣等ノ馬匹ヲ選定シ當該保管者ヲシテ之カ處分ヲ爲サシムヘシ但シ軍馬補充及育成

規則第三條ニ依リ憲兵隊ニ交付スヘキ馬匹ハ此ノ限ニ在ラス

第七條中「及」ヲ削リ

〔參照〕

陸軍第十四號馬匹取扱規則(明治二十九年二月十七日)抄録

考 備	船			
	機 船	汽 船	浮 船	力 船
一	現在ノ船中ニシテ水先ノ規定ニ適合セザルモノハ其ノ使用ノ目的ヲ同フスル船種ノ定數ニ超過セザル限リハ營分ノ内ニテ同船種ノ定數内ニテ使用スルコトヲ得	218	218	218
二	各船種及大小ハ海軍ノ隊規ニ依リテ定ムルコトヲ得	218	218	218
三	各船種及大小ハ海軍ノ隊規ニ依リテ定ムルコトヲ得	218	218	218
四	各船種及大小ハ海軍ノ隊規ニ依リテ定ムルコトヲ得	218	218	218
五	各船種及大小ハ海軍ノ隊規ニ依リテ定ムルコトヲ得	218	218	218
六	各船種及大小ハ海軍ノ隊規ニ依リテ定ムルコトヲ得	218	218	218

○海軍省達第九十一號

海軍下士卒身上取扱規則中左ノ通改正ス

明治三十六年九月十七日

海軍大臣野島山本權兵衛

第三條 鎮守府兵事官ハ別紙様式ニ依リ毎月一日其ノ前月中ニ再服役許可ノ承認ヲ與ヘタル者ノ

人員調ヲ作リ海軍省人事局ニ報告スヘシ

第六條ノ四 前諸條ニ於テ入隊者ノ身上ニ關スル事項ハ之ヲ其ノ本所屬長ニ通知スルモノトス但

シ急遽ヲ要スルモノハ該海兵團長之ヲ處分スルコトヲ得

第六條ノ四ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第六條ノ五 假出獄中ノ下士卒ハ刑期中ノモノナリト雖モ其ノ取扱ハ一般下士卒ノ例ニ準ズ但シ

別ニ規定アルモノハ此ノ限ニアラス
第八條中所屬長ヨリテ次ニ迅速ニテ加フ
同條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ外國又ハ洋中ニ於テ死亡者ヲ葬リタルトキハ其ノ場所若ハ經緯度ヲ附記シ所在不明トナリ
タル者アルトキハ本人ノ家族ニモ通知スヘシ

第九條 下士卒入隊若ハ在獄中其ノ身上ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度所屬長若ハ舊所屬長ヨリ
病院若ハ監獄ニ通知スヘシ但シ現役滿期トナル場合ニ在テハ其ノ滿期ノ一週間前ニ其ノ旨通
知スヘシ

第十四條中所見ヲ附シテ「服役成績書」ヲ作リタルニ就テノ所見ヲ附シニ改ム

第十五條削除

第十六條第二項ヲ左ノ通改ム

現役滿期ノ者及事故ニ依リ現役豫備役後備役者ハ兵役ヲ免セラレタル者又ハ海軍下士卒服役條
例第三十八條ニ據リ豫備役後備役ノ服役期限ニ變更ヲ生シタル者アルトキハ本人在籍鎮守府ノ

兵事官ヨリ地方廳ヲ經テ本人在籍地ノ郡市長ニ通知スヘシ所在不明トナリタル者徵兵ノ志願兵
トナリタル者海軍下士ニ採用セラレタル者若ハ海軍准士官ニ任用セラレタル者等アルトキ亦同

シ但シ現役滿期ノ者ノ通知ニハ本人ノ豫備役後備役ノ滿期日ヲ併セテ通知スヘシ

「再服役許可人員調様式」ヲ「再服役承認人員調様式」ニ改メ該様式中「許可」ヲ「承認」ニシテ再服役者ノ
數ヲ「滿期者百人ニ對スル數」ニ改ム

〔參照〕 海軍省達第九十七號海軍下士卒身上取扱規則(明治三十一年六月二十三日改定)

明治三十六年九月十一日 海軍省達第九十一號

該長ハ主計長(主計長アラサルト)ヲシテ之ヲ購買セシムヘシ
 第十八條 在外艦船ニ於テ別表第二號以外ノ艦營用品ヲ要スルトキ又ハ規定ノ艦營用品ヲ得ル能ハサルトキハ適宜購買スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ品名数量代價及事由ヲ詳記シ兵備品會計官吏ニ報告シ兵備品會計官吏ハ鎮守府艦政部長ヲ經テ艦政本部長ニ出スヘシ
 第十九條 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任艦營用品中不用ニ屬シタルモノ又ハ國損品アルトキハ何レノ海軍用品庫ヲ問ハス之ヲ還納スルコトヲ得
 第二十條 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任空機空砲ノ如キ不用品ヲ生シタルトキハ海軍用品庫ニ納付シ海軍用品庫隔絶ノ爲メ納付ノ便ヲ得ス保管シ難キ場合ハ所轄長ノ承認ヲ得テ適宜ノ處分ヲ爲シ其ノ品名及數量ヲ海軍用品庫ニ報告スヘシ
 第二十一條 鎮守府兵備品出納命令官ハ艦團共ノ他各部ノ主管別金額簿(書式第二號)ヲ設備スヘシ
 第二十二條 分任兵備品會計官吏ハ消耗品排出簿(書式第三號)兵備品取扱主任ハ兵備品供用簿(與品貸出簿)(書式第四號)及消耗品排出簿ヲ設備スヘシ
 第二十三條 兵備品會計官吏艦營用品ヲ供給シタルトキハ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ノ主管別金額簿ニ供給金額ヲ登記シ又第十三條ニ依リ主管別金額簿ノ膠木ヲ受ケタルトキハ供給金額ヲ甲乙更訂シ各分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ニ返付スヘシ
 第二十四條 兵備品會計官吏他所屬ノ兵備品取扱主任ニ第一種消耗品ヲ供給シ若ハ其ノ保管ニ係ル備品ノ修理ヲ爲シタルトキハ該兵備品取扱主任所屬ノ兵備品會計官吏ニ其ノ代價ヲ通知スヘシ

第二十五條 兵備品會計官吏在庫品中廢物ニ屬シタルモノ又ハ毀損品ニシテ使用ノ見込アルモノハ修理若ハ改造シ共ノ使用ニ堪ヘサルモノハ他ノ物品ニ換用シ或ハ不用品トシテ處分スヘシ
 第二十六條 兵備品會計官吏分任兵備品會計官吏兵備品取扱主任其ノ保管若ハ取扱ニ係ル艦營用品ノ亡失毀損廢敗損廢アリタルトキ又ハ棄却燒却ヲ要スルトキハ證明書(書式第五號)ヲ作り兵備品出納命令官ニ出スヘシ
 第二十七條 兵備品出納命令官ハ毎年度經過後五箇月以内ニ主管別金額決算表ヲ兵備品會計官吏ハ同期間ニ艦營用品出納報告ヲ編製シ鎮守府艦政部長ヲ經由シ艦政本部長ニ出スヘシ
 第二十八條 分任兵備品會計官吏及兵備品取扱主任ハ毎年度經過後三箇月以内ニ備品消耗品受拂現況報告ヲ編製シ兵備品會計官吏ヲ經テ兵備品出納命令官ニ送付スヘシ兵備品出納命令官ハ之ヲ調査シ鎮守府艦政部長ヲ經テ艦政本部長ニ出スヘシ
 第二十九條 本規程中艦營用品定額表ノ増減更訂及主管別金額増減請求書主管別金額決算表艦營用品出納報告備品消耗品受拂現況報告ノ書式ハ艦政本部長ノ定ムル所ニ依ル
 第三十條 常備艦隊司令長官司令官及附屬艦隊司令官艦營用品ノ供給ハ横須賀鎮守府兵備品會計官吏ノ所掌トス

附 則

本規程ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス

(別表及書式略ス)

○海軍省令第九十四號

明治二十二年總第四百四十號同二十四年總第五十一號同年總第七十二號同年總第百八十四號同二

